

甲虫類

1. 概 要

世界に生息する昆虫類は全生物のおよそ4/5を占め、すでに記載された種だけでも100万種以上となっており、毎年2000－3000種が新種として追加されている。将来は300万－500万種に達するものと考えられている。日本では1989年にやっと日本産昆虫総目録が完成し、約29000種が登録された。実際には70,000－100,000種生息しているのではないと言われる、30－40%の解明率しかない。甲虫類は日本では10000種弱の種が知られ、昆虫類のおよそ1/3を占めているが、よく調べられていないグループも多く、かなりの追加種があると推測される。

神奈川県の甲虫は現在3600近くの種が記録されており、日本一解明率が高い県である。しかし、それでも研究者が少なく、十分調査されているとは言いがたい。一方、神奈川県は都市化の進展がめざましく、自然が次から次へと失われている。自然破壊が進む一方で、調査研究が追いつかないのが現状であろう。岡野(1941)の神奈川県産甲虫誌(1)によればオオヒョウタンゴミシの名が記されているが、標本は探せないし、具体的な採集データがないため、現在それを確かめる術がない。昔は生息していた可能性がある種なのに証拠となるべきものがないのである。シャープゲンゴロウモドキは幸いにして阿部(1990)により、国立科学博物館の標本中に横浜市鶴見区三ツ池のものを発見し、さらに茅ヶ崎市の遺跡の昆虫遺体調査(平野・岸, 1994)で報告されたので、かつては県内に生息していたことを確認できた。このように確認できた種はよいが、昔は生息していた種が現在その存在すら確かめられず、すでに滅んでしまった多くの種があるものと想像される。さらに付け加えれば、種そのものの存在すら分からず、名前も付けられずに絶滅した種もあるものと思われる。日本産のトキは絶滅がほぼ確定しているが、小さな甲虫の1種も大きなニホンオオカミも種という概念からすれば同等のものである。人知れず滅んでしまう種があることは考えて見れば誠に恐ろしい事実である。

前述した通り甲虫類は種類数がきわめて多く、ほとんどの種が5 mm以下であるためか研究者が少なく、チョウやトンボのように調査研究がいきとどいていない。今回の調査も、少ない人数で、多種類、多岐多様の生息場所を持つ甲虫類を相手としたため、問題の多い池沼、湿地、草地、河川敷、海岸などを重点的に調査の対象とした。また、絶滅種、絶滅危惧種、減少種、健在種(希少種を含む)、輸入種・偶産種というカテゴリーも、チョウやトンボとは若干とらえ方が異なることをお断わりしておく。さらに県内の甲虫類が3600種近く報告されているため、すべての種について記述することは紙面の都合もあり困難である。ここでは49科のグループのものについて、原則として絶滅種、絶滅危惧種、減少種、希少種をあげ、他のものは一応、希少種でない健在種というところをえた。

現在、昆虫全体が少なくなっていることは周知の事実であり、甲虫類も当然減少の一途をたどっている。ゲンジボタルやヘイケボタルも昔と比べれば少なくなっていることはご存じの通りで、上記のボタルを減少種に含めれば、輸入害虫を除いて、甲虫類のほとんどを減少種としなければバランスがとれない。また、甲虫類の中でも微小種は情報量が少ないため判断に苦しむものも多く、湿地や河川敷に生息するテントウムシ科のヤマトヒメテントウ、マクガタテントウ、ジュウサンホシテントウ、ムモンチャイロテントウなども絶滅危惧種や減少種に含めるべきものかもしれない。後述するが、最も問題となるのは水生甲虫で、ゲンゴロウやミズスマシの絶滅や減少が著しい。これらはやや目立つ種なので、情報も多く調査も他科に比べれば調べられているが、微小種のドロムシ科、ヒメドロムシ科などの水生甲虫はほとんど調査されていないため、絶滅種、絶滅危惧種とすべきものがあるかもしれない。その他、平地にのみ、あるいは海岸に分布する甲虫で、落葉の下や特殊な環境に生息する微小種も同様なものもあるかもしれない。

ヨコハマナガゴミシは世界でも神奈川県鶴見川だけにしか生息していないきわめて貴重な種である。このように神奈川県だけにしか生息しないもの、またはそれに準ずる種がいくつかある。これらの特産種あるいはそれに近い種の中で絶滅危惧種に該当するものにはコマヤマメクラチビゴミシ、イズイソチビゴミシ、ミウラメクラチビゴミシ、ヨコハマナガゴミシ、ミカドケシキスイ、ハコネチビツツハムシ、クロヘリウスチャハムシ、シラケコバンゾウムシなどがある。このことは全国的に見ても上記の種は絶滅危惧種と定義されるべきものと思われる。特産種で絶滅種がなかったのは幸運と言えようか。神奈川県の絶滅種はカワラハンミョウ、シャープゲンゴロウモドキ、ダイコクコガネ、キイロネクイハムシなどいくつかあり、他県ではまだ生息しているものが多いが、やがては他県でも絶滅の運命をたどるものと考えられる。

希少種は産地が1～2ヶ所に限定され、どちらかと言えば珍しい種であるが、この他にも数ヶ所から見つかり、全国的にみて貴重な種も多くある。希少種は多くのグループにわたるが、それらの産地は平地で自然度の高い環境に生息するものと、山地の特定の場所に限られるものとに分けられる。前者には横浜市円海山、三浦半島の小網代、油壺、大磯町高麗山、真鶴半島などがあり、後者には大山、丹沢堂平、蛭ヶ岳、西丹沢、三国山や箱根神山などがある。この他にも平塚市、相模原市、城山町、小田原市などにも希少種が発見されており、神奈川県環境部が調査した「地域環境評価書」の通り、これらの場所はいずれも良好な自然環境で、保護の対象とすべき地域である。

甲虫類の各論はカワラゴミシ科、ハンミョウ科、オサムシ科、ホソクビゴミシ科を田尾美野留が、コガシラミズムシ科、コツブゲンゴロウ科、ゲンゴロウ科、ミ

ズスマシ科、ガムシ科を荏部治紀・高桑正敏が、カミキリムシ科を高桑正敏が、あとのコガネムシ科、ハムシ科など39科と概要、衰退原因、対策と提言などを平野幸彦が担当した。

2. 絶滅種、絶滅危惧種、減少種の衰退原因など

一覧表をまとめてみると絶滅種が35種、絶滅危惧種が114種、減少種が80種、希少種が78種となった。これらの衰退原因は単一なものではなく、複合的なものが多いと思われるが、大別すると次のようなものだと考えられる。

A. 水質の汚染などに関係するもの

工場排水、家庭排水、農薬散布によって水系の汚染や汚濁が進み、これらが水の中で生息する、いわゆる水生甲虫に大きな打撃を与えたことは火を見るより明らかである。中でも止水性のミズスマシやゲンゴロウへの影響は多大と言わざるを得ない。

B. 池、沼などの枯渇によるもの

昔、各地にあった小さな溜め池や沼などが開発の波に飲み込まれ、きわめて少なくなってしまった。当然、そこに生息していたトンボを始め、各種の甲虫類がいなくなった。Aと同様、止水性のコガシラミズムシ、ゲンゴロウ、ガムシなどに影響を与えている。

C. 湿地、草原などの減少によるもの

人家の進出、ゴルフ場の開発などで、真っ先に対象となるのが、湿地や草原である。小規模の草原や谷戸が埋め立てられ、乾燥化、荒地化して良好な自然が失われている。最近、休耕田が放置され、一時的には良好な湿地になっている所もあるが、2～3年後には背丈の高い草や木々が繁茂し乾燥化が進んで、荒地化してしまう。要するに人の管理がまったくないため、自然度の高い湿地、草原がほとんど見られなくなっている。

湿地で特に影響を及ぼすものは何ととってもオサムシ科の甲虫であろう。オサムシ科の多くは乾燥化に弱く、平地の湿地性のものはいずれも減少しており、絶滅に追いやられている種も多い。この他にもジョウカイモドキ、ジョウカイボン、カッコウムシ、テントウムシ、ハムシ、ゾウムシなど多くの湿地性、草原性のものがあり、絶滅の危険性が高い。

D. 砂地の減少荒廃によるもの

最近、海岸の砂浜が急激に少なくなっている。これは河川の止水堰などの影響と商業的な砂の採取によって海に土砂が流れ込まなくなったためと思われる。また小田原市の早川河口や江ノ島などでは海岸近くの工事が潮の流れを変えつつある。こうしたことから砂浜が小砂利化し、砂地に生息する甲虫類を追いやったのである。さらに、四輪駆動車の砂浜への乗り入れや、人工物の設置、人の立ち入りなどが砂浜の荒廃に追い撃ちをかけている。一見、生物がいらないような砂浜が実は貴重な自然の財産なのだ。すでに絶滅したクロズハマベゴミムシダマシを筆頭にスナゴミムシダマシの仲間やエンマムシの類が絶滅の危機に瀕している。また、河川の砂地も同様に荒廃し、ヤマハマベエンマムシが生息していた砂地はキャンプ場と化し、生存が危ぶまれている。

E. 河川工事の影響によるもの

神奈川県では台風や大雨で河川が増水し、堤防が決壊するという事故はほとんど見掛けなくなった。しかし川はコンクリートで固められ、生物が生息する環境が無くなってしまった。ヨコハマナガゴミムシの生息する鶴見川の地域はコンクリートで堤防が作られ、生息地域は1キロにも満たないごく狭い範囲に追い詰められている。カワラハンミョウの生息していた酒匂川の河川敷もブルドーザーによって掘り返され、絶滅した。

F. 薬剤散布の影響を受けたもの

松喰虫の防除のために薬剤散布が行われ、その影響で他の昆虫も同時に駆除されてしまっている。マツ類に生息するウバタマムシ、ウバタマコメツキなどが減ってしまったのは明らかに薬剤散布が原因と思われる。特に県内の海岸線近くの地域では近年、発見されなくなってしまった。また、農薬の散布も水田などの生物相に大きな影響を与え、ミズスマシ、ゲンゴロウなど水生昆虫が激減したのは周知の通りである。

G. 人工光源の影響を受けたもの

「飛んで火に入る夏の虫」という言葉があるが、昆虫類は趨光性がある。昔は人家の灯りにも多数の昆虫が飛来した。最近は各種の建物のライトアップ、野外のスポーツ施設の夜間照明など人工光源の使用が盛んになってきた。さらに山中のゴルフ場まで昼間かと思われるほどの照明をおこなっている。これらに集まる甲虫類の数はおびただしいものになるだろう。中でも大型のゲンゴロウ、ガムシなどは趨光性が災いし、そのまま死に絶えるものも多いものと考えられる。

H. 都市化の影響を受けたもの

現在のゴミの収集はポリ袋などに入れ、各市町村が回収して処分している。昔のように木製のゴミ箱に入れておくことがなくなり、ハエなどの発生を防いできわめて衛生的になった。そのため、かつてはハエのウジを喰っていたルリエンマムシが急激に減少した。ヒメヒラタシデムシなども同様と思われ、たまたまある山の中のゴミ捨て場でも何らかの処理をするのか発生が押さえられている。ヤマトオサムシダマシは納屋や物置など古い家屋に見られるが、今はこのような建物はほとんど見られなくなってしまった。

以前は燃料を薪や炭にたよっていたものが、都市ガスやプロパンガスになり、そのため枯れ枝や薪用の木々の採取が行われなくなり、山村の自然が荒れたままに放置され、自然環境が単一化した。良好な雑木林が少なくなったのが典型的な例である。

I. 原因が不明のもの

ヤナギハムシは以前は各地に普通に生息していたと想像されるが、最近はまったく姿を消してしまった。食草はどこでも見られるのに、生息していないのはどういう理由なのか原因が掴めない。環境の悪化だと言ってしまうよりも、上記以外の原因や複合的な要因で絶滅に追込まれているのかもしれない。原因がわかれば対策の方法も立てられないことはないが、原因不明のものは対処の方法がない。

3. 絶滅種、絶滅危惧種の対策および提言

昆虫は高等動物とは異なり、世代交替も年数回に及ぶものもあって、繁殖力がきわめて旺盛で、個体数も多いのが一般的である。ゴキブリは家の中で繁殖するが、毎年殺される数も相当数ある。例えば1人が1年間に1匹、殺したとすると日本全国で1億2千万匹のゴキブリが死んでいる計算になる。しかし、ゴキブリが少なくなったという話は聞いたことがない。何故、減らないのか？！

それはゴキブリが生息するのに都合のよい環境があるからだ。昆虫類は哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類などに喰われてしまうものが多いと思われるが、その数は天文学的な数字になるであろう。一時、昆虫を採集するのは「悪」という考え方があったが、人が採る虫の数は0.01%にも達せず、昆虫が減るのは人が採集するからだと言う論議は成り立たない。しかし実際には昆虫類の種類と個体数は減少の一途をたどっている。これらの原因は人類の発展に起因している。人口の増加、それに伴う食料の確保、エネルギー源の消費、生活文化の向上による資源の浪費など・・・しかし現実には人類の発展を阻止することはできない。したがって、日本の人口を江戸時代と同じにせよなどと言う暴言は吐かないが、もう少し緩やかな成長にすべきであろう。そうしなければ地球上の限られた資源は急速に枯渇してしまう。

こうした地球の環境変化の流れの中にあって、我々の身近な環境をいかにして自然破壊から守るか、いかにして最小限にいとめるか、難しい問題である。それには我々一人一人が種々の環境問題をよく理解し、実行することにある。行政機関も我々の声をよく聞き、施政に反映させてほしい。そうしなければ、神奈川県の本当の自然はなくなってしまうであろう。ここでは、神奈川県の甲虫類の現状から見たごく一部の自然保護と甲虫類の絶滅種、絶滅危惧種の対策と提言を述べてみたい。

(1) 池、沼などの調査と埋め立て廃止

神奈川県は他県に比して池、沼が非常に少ない。その理由はすでに多くの池、沼が埋め立てられてしまったことに一因するものと想像される。それゆえ、これ以上の埋め立ては廃止する必要がある。そこで全県の池、沼を調査して登録し、何らかの保護対策を講じるべき時期にきている。そうしなければ、公園化、観光名所化した池だけになってしまう。

(2) 下水道の完備と汚水のたれ流し防止

現在、下水道の普及率がどのくらいであるか知らないが、池、沼は無論のこと、湿地や小さな水系に汚水をたれ流している現状を何とかしなければならない。特に山間部などの住宅や観光施設に問題があるようである。せっかくの良好な自然環境が汚水のたれ流しによって生物の生存が危機に瀕している。

(3) 土木工事の自然への配慮

従来の土木工事は効率的、経済的な考え方で施工されていた感が深い。河川の工事はコンクリートで直線的に作られ、そこに生息する植物や小動物をまったく無視していた。こうした行為が、身近な生物を追いやってしまったのだ。鶴見川にのみ生息するヨコハマナガゴミム

シが1キロにも満たないごく狭い範囲に追いつめられている。かつては酒匂川に見られたカワラハンミョウは絶滅してしまった。最近では河川工事などにも自然を考慮した工法が見られるようになったのは好ましいが、これからの土木工事は自然に優しく、そこに生息する生物に影響を与えないよう慎重に配慮してほしいものである。

(4) 海浜への自動車の乗り入れ禁止

一見、何も生息していないような砂浜にも多くの小動物が生活している。なかでも甲虫類に多くの種が存在する。そこへ自動車が縦横無尽に走りまわっている地域がある。海浜植物は踏み倒され、輪立ちが縞模様を作っている。この現況を何とかしてほしい。海浜は道路ではないので、厳しい取り締まりを実施してもらいたい。

(5) 湿地、草地の保護

池、沼と同様、神奈川県の湿地や草原は非常に少ない。その上、良好な湿地や草原が減少しつつある。湿地や草原には特有の生態系があり、多くの生物が生息している。そこに見られる昆虫類が今、絶滅に瀕している種も少なくない。湿地や良好な草原を調査して登録し、県が何らかの条件をつけて保護すべきである。

(6) 雑木林の復活

箱根の東山麓はスギやヒノキの植林で覆いつくされている。ほとんど雑木林はないに等しい。したがって、その生物相は単純で、箱根独特の生物相の存在はない。一方、人家のまわりも雑木林が切られ宅地化しつつある。昔のように林にエネルギーを求めなくなったため、薪炭用の木を育てることがなくなり、山や林は荒れはてている。こうしたことが、生物の多様性に変化をもたらし、多くの雑木林に生息する昆虫を奪っている。今後は積極的に針葉樹ではなく広葉樹を、例えば、クヌギ、コナラなどの落葉広葉樹を植えてかつての雑木林を復活していただきたい。

(7) 松喰虫対策用の薬剤散布廃止

マツの枯れる原因は単一なものではなく、複合的な要素がからみあっているものと思われる。マツノザイセンチュウばかりが原因ではないと思う。薬剤散布反対論にもうなづける点が多い。農薬を撒けばそこに生息していた多くの昆虫類も同時に死滅してしまう。恐らくマツに依存していたウバタマムシ、ウバタマコメツキなどがなくなったのは薬剤散布による影響だと思っている。アメリカシロヒトリが大発生した場合など特別の例は別として、極力薬剤散布は止めていただきたい。

(8) 商業地域以外の夜間照明の禁止

夜は暗いのが自然で、生物は夜の暗さを利用して生きているのだ。山の中で昼間と同様の明るさになれば、そこに生息している全生物に大きな影響を与える。これが自然破壊でなくて何であろうか。山中のゴルフ場やテニスコートの夜間照明は即刻、禁止していただきたい。県で夜間照明の使用条例を作るべきである。

これから多くの絶滅種、絶滅危惧種、希少種をあげるが、これらを絶滅から救うのはそうたやすいことではない。種を指定して保護の対象としても真の保護にならないことは明らかで、その種が生息する環境を守ることによって、種の生存が保証されるのである。

神奈川県産甲虫類レッドデータ種一覧

科・種名	R.D度	衰退原因	備 考
カワラゴミムシ科			
カワラゴミムシ	減少G	河川敷の環境悪化	近年の採集例はきわめて少ない
ハンミョウ科			
ホソハンミョウ	絶滅B	河川敷の環境悪化	近年、まったく見られない
ニワハンミョウ	減少H	宅地化による生息地の減少	各地に生息するも、個体数の減少は著しい
カワラハンミョウ	絶滅A	海岸整備に伴う生息環境悪化	1例の記録のみ
シロヘリハンミョウ	危惧D	海岸整備に伴う生息環境悪化	城ヶ島、真鶴などに生息するが、きわめて局限
オサムシ科			
エゾカタビロオサムシ	減少H	河川敷、草地の環境悪化	各地に生息するも、個体数の減少は著しい
アカガネオサムシ	危惧E	河川敷の環境悪化	近年の採集例は、ほとんどない
ヒメマイマイカブリ	減少H	開発、整備に伴う生息環境悪化	各地に生息するも、個体数の減少は著しい
セアカオサムシ	減少H	開発、整備に伴う生息環境悪化	近年ほとんど見られなくなった
カワチマルクビゴミムシ	減少H	河川敷の環境悪化	各地に生息するも、個体数の減少は著しい
キベリマルクビゴミムシ	危惧E	河川敷の環境悪化	近年ほとんど見られなくなった
オオマルクビゴミムシ	減少H	河川敷の環境悪化	山間各地に生息するも、個体数の減少は著しい
フタモンマルクビゴミムシ	危惧E	河川敷の環境悪化	近年ほとんど見られなくなった
コハンミョウモドキ	絶滅C?	開発、整備に伴う生息環境悪化	近年の採集例はまったくない
クロヒメヒョウタンゴミムシ	減少H	河川敷の環境悪化	近年ほとんど見られなくなった
ムネアカチビヒョウタンゴミムシ	危惧D	湿地環境の悪化	近年の採集例はない
ナガチビヒョウタンゴミムシ	危惧E	河川敷の環境悪化	近年ほとんど見られなくなった
アシグロチビヒョウタンゴミムシ	減少H	河川敷の環境悪化	近年ほとんど見られなくなった
ホソチビヒョウタンゴミムシ	危惧E	河川敷の環境悪化	近年ほとんど見られなくなった
ヒョウタンゴミムシ	危惧E	海岸の整備に伴う生息環境悪化	近年ほとんど見られなくなった
オサムシモドキ	危惧F	海岸、河川敷の整備に伴う生息環境悪化	海岸部に生息するも、きわめて稀
コマヤマメクラチビゴミムシ	危惧D	原記載の記録のみ	
フタボシチビゴミムシ	危惧F	河川敷の環境悪化	鶴見川では絶滅の可能性が強い
イズイソチビゴミムシ	危惧D	生息環境の消滅	原記載の記録のみ
ミウラメクラチビゴミムシ	危惧D	周辺環境の悪化	生息地は模式産地のみ
アトスジチビゴミムシ	危惧F	河川敷の環境悪化	近年の採集例はない
キバナガミズギワゴミムシ	絶滅B	河川敷の環境悪化	近年の採集例はない
テンリュウメダカチビカワゴミムシ	危惧F	河川敷の環境悪化	茅ヶ崎市相模川で1頭確認
コホソトビミズギワゴミムシ	危惧F	河川敷の環境悪化	近年ほとんど見られなくなった
マダラケシミズギワゴミムシ	危惧E	湿地環境の悪化	1例の記録のみ
カワグチミズギワゴミムシ	絶滅A?	不明	原記載の記録のみ
オオフタモンミズギワゴミムシ	減少H	河川敷の環境悪化	近年ほとんど見られなくなった
アオヘリミズギワゴミムシ	減少H	生息環境の減少	近年ほとんど見られなくなった
ハマベミズギワゴミムシ	危惧E	生息環境の減少	相模川下流域で確認、生息数は少ない
ヤノホソコミズギワゴミムシ	危惧D	不明(要再確認)	1例の記録のみ
トカラコミズギワゴミムシ	危惧D	河川敷の環境悪化	1例の記録のみ
ウミミズギワゴミムシ	危惧D	不明	1例の記録のみ
オビモンコミズギワゴミムシ	危惧F	河川敷の環境悪化	近年ほとんど見られなくなった
アトモンコミズギワゴミムシ	危惧E	生息環境の減少	県内では近年の採集例はない
ヨツボシツヤナガゴミムシ	危惧D	河川敷の環境悪化	1例の記録のみ
ヒロムネナガゴミムシ	減少H	湿地環境の悪化	各地に生息も、生息域は次第に狭まっている
オオナガゴミムシ	減少G	河川敷の環境悪化	鶴見川では個体数が激減
コホソナガゴミムシ	減少H	湿地環境の悪化	各地に生息も、生息域は次第に狭まっている
ノグチナガゴミムシ	減少H	湿地環境の悪化	各地に生息するが、個体数は減少している
ヒメホソナガゴミムシ	減少H	湿地環境の悪化	各地に生息も、生息域は次第に狭まっている
オオキンナガゴミムシ	危惧F	公園整備に伴う生息環境の悪化	三ツ池公園では、まったく得られなくなった
アシミノナガゴミムシ	減少H	湿地環境の悪化	各地に生息も、生息域は次第に狭まっている
ヨコハマナガゴミムシ	危惧D	河川敷の環境悪化	生息は確認されたが、きわめて危機的状態

神奈川県産甲虫類レッドデータ種一覧 (2)

科・種名	RD度	衰退原因	備 考
オグラヒラタゴミムシ	絶滅A	湿地環境の悪化	1例の記録のみ
ヒメセボシヒラタゴミムシ	減少H	湿地環境の悪化	各地に生息も、生息域は次第に狭まっている
アシミゾヒメヒラタゴミムシ	減少H	湿地環境の悪化	各地に生息も、生息域は次第に狭まっている
キバナガヒラタゴミムシ	危惧D	生息環境の悪化	近年ほとんど見られなくなった
コヒラタゴミムシ	減少H	湿地環境の悪化	近年ほとんど見られなくなった
キアシツヤヒラタゴミムシ	減少H	生息環境の減少	平地では近年ほとんど見られなくなった
コクロツヤヒラタゴミムシ	減少H	丘陵林地の減少	平地では近年ほとんど見られなくなった
キアシマルガタゴミムシ	減少H	河川敷の環境悪化	近年ほとんど見られなくなった
チョウセンゴモクムシ	危惧E	河川敷の環境悪化	近年ほとんど見られなくなった
コバヤシツヤゴモクムシ	危惧E	生息環境の減少	生息は確認されたが、生息地は局限される
オオクロツヤゴモクムシ	危惧E	生息環境の減少	近年ほとんど見られなくなった
キュウシュウツヤゴモクムシ	減少H	生息環境の減少	近年ほとんど見られなくなった
ムネミゾチビゴモクムシ	絶滅A	河川敷の環境悪化	1例の記録のみ
セグロマメゴモクムシ	絶滅A	河川敷の環境悪化	1例の記録のみ
クロサマメゴモクムシ	減少H	湿地環境の悪化	個体数の減少が著しい
タオマメゴモクムシ	減少H	湿地環境の悪化	個体数の減少が著しい
クロズカタキバゴミムシ	減少H	湿地環境の悪化	個体数の減少が著しい
ヨツモンカタキバゴミムシ	減少H	湿地環境の悪化	個体数の減少が著しい
オオヨツボシゴミムシ	危惧E	湿地環境の悪化	近年ほとんど見られなくなった
ヨツボシゴミムシ	減少H	河川敷の環境悪化	個体数の減少が著しい
イグチケバカゴミムシ	減少H	河川敷の環境悪化	個体数の減少が著しい
クロケバカゴミムシ	減少H	河川敷の環境悪化	個体数の減少が著しい
クビナガヨツボシゴミムシ	危惧F	河川敷の環境悪化	近年ほとんど見られなくなった
アカガネアオゴミムシ	減少H	草地環境の減少	近年ほとんど見られなくなった
ヒトツメアオゴミムシ	危惧D	丘陵地の開発	1例の記録のみ
コアトワアオゴミムシ	減少H	湿地環境の悪化	近年ほとんど見られなくなった
ニセコガシラアオゴミムシ	減少H	湿地環境の悪化	個体数の減少が著しい
オオサカアオゴミムシ	絶滅A	湿地環境の悪化	1例の記録のみ
トックリゴミムシ	減少H	河川敷の環境悪化	個体数の減少が著しい
ニセトックリゴミムシ	減少H	湿地環境の悪化	個体数の減少が著しい
オオトックリゴミムシ	危惧E	生息環境の減少	県内では相模湖のみに生息
オオヒラタトックリゴミムシ	危惧D	不明(生息環境の減少?)	近年の採集例はない
フタモンクビナガゴミムシ	危惧F	河川敷の環境悪化	1例+未発表記録のみ
ハガクビナガゴミムシ	危惧D	湿地環境の悪化	仙石原のみに生息
ナカグロキバネクビナガゴミムシ	危惧F	河川敷の環境悪化	鶴見川では絶滅
ダイミョウアトクリゴミムシ	減少H?	丘陵地の開発	1例の記録のみ
ミズギワアトクリゴミムシ	減少H	河川敷の環境悪化	各地に分布するが、個体数の減少が目立つ
アリスアトクリゴミムシ	危惧E	草地環境の悪化	原記載の記録のみ
イマイチビアトクリゴミムシ	危惧E	生息環境の減少	近年の採集例はない
クロサヒラタアトクリゴミムシ	危惧F	雑木林の減少	近年ほとんど見られなくなった
オオアオホソゴミムシ	絶滅B?	湿地環境の悪化	近年ほとんど見られなくなった
ホソクビゴミムシ科			
アオバネホソクビゴミムシ	危惧E	湿地環境の悪化	近年ほとんど見られなくなった
ヒメホソクビゴミムシ	危惧E	湿地環境の悪化	近年ほとんど見られなくなった
コガシラミズムシ科			
キイロコガシラミズムシ	危惧D	水環境の悪化・喪失	現存する葉山町でも激減
カミヤコガシラミズムシ	危惧D	"	"
ゲンゴロウ科			
ルイスツブゲンゴロウ	絶滅A	水環境の悪化・消失	近年の記録なし
コウベツブゲンゴロウ	絶滅A	"	"
ヒメケシゲンゴロウ	絶滅A	"	"

神奈川県産甲虫類レッドデータ種一覧 (3)

科・種名	RD度	衰退原因	備 考
マルケシゲンゴロウ	危惧E	〃	2例のみの記録
セスジゲンゴロウ	危惧E	〃	近年の記録なし
ツブゲンゴロウ	危惧F	不明, 水環境の悪化?	〃
キボシケシゲンゴロウ	絶滅A	不明, 水質の変化?	〃
キベリクロヒメゲンゴロウ	絶滅A	不明? 水質の悪化?	〃
シマゲンゴロウ	危惧E	水環境の悪化・喪失	近年ほとんど発見例なし
マルガタゲンゴロウ	絶滅A	〃	1990年代初頭に絶滅
クロゲンゴロウ	危惧F	〃	わずかに残るが激減
コガタノゲンゴロウ	絶滅C	〃	1970代以降記録なし
ゲンゴロウ	絶滅C	〃	1990年代初頭に絶滅
シャープゲンゴロウモドキ	絶滅A	〃	戦前の記録のみ
ミズスマシ科			
オオミズスマシ	危惧F	水環境の悪化・喪失	逗子市で確認
ミズスマシ	危惧F	〃	県央部で確認
コミズスマシ	危惧F	〃	藤野町で確認
ヒメミズスマシ	危惧F	〃	現状不明
ツマキレオナガミズスマシ	危惧E	〃	藤野町で確認, 調査不十分
コオナガミズスマシ	危惧E?	〃	愛川町相模川で確認
ガムシ科			
タマガムシ	危惧F	水環境の悪化・喪失	逗子市で確認
コガムシ	危惧F	〃	愛川町・山北町で確認
ガムシ	危惧F	〃	愛川町で確認
エンマムシ科			
ツツエンマムシ	希少種		丹沢堂平のみに生息
チャイロムネミゾツブエンマムシ	希少種		丹沢堂平のみに生息
ムネミゾツブエンマムシ	希少種		城山町のみに生息
ルリエンマムシ	危惧F	砂浜の減少荒廃, 都市化	近年記録なし
ドウガネエンマムシ	危惧E	砂地の減少荒廃	最近採れた情報がない
ヤマハマベエンマムシ	危惧D	砂地の荒廃	唯一の生息地は現在キャンプ場になり絶滅?
カラカネハマベエンマムシ	減少G	砂浜の減少荒廃	
ヒメハマベエンマムシ	危惧E	海浜植物の減少, 砂浜荒廃	鎌倉市など局所的に生息
ニセハマベエンマムシ	減少G	砂浜の減少荒廃	
ツヤハマベエンマムシ	減少G	砂浜の減少荒廃	
ニセセスジエンマムシ	希少種		小田原市のみの記録
ヘリナガエンマムシ	希少種		丹沢堂平のみに生息
ノッポロヒメエンマムシ	希少種		丹沢浅瀬の記録のみ
ヒラタカクヒメエンマムシ	希少種		丹沢堂平と三国山のみに生息
タマキノコムシ科			
タケイオオタマキノコムシ	希少種		丹沢ユーシンのみの記録
ヒトツメタマキノコムシ	希少種		丹沢堂平のみの記録
ヒゲブトチビシデムシ科			
アリスヒゲブトチビシデムシ	希少種		小田原市酒匂川の記録のみ
チビシデムシ科			
ホソアシチビシデムシ	希少種		丹沢堂平のみに生息
シデムシ科			
ヤマトモンシデムシ	危惧F	草地の減少, 河川敷の荒廃	最近の採集例なし。相模川の河川敷に生息?
ヒメヒラタシデムシ	減少H	都市化	最近採れない
オニヒラタシデムシ	危惧E	砂浜の荒廃	三浦半島の2ヶ所の記録のみ。絶滅の可能性大
ハネカクシ科			
キイロツヤシデムシモドキ	希少種		西丹沢棚沢のみの記録
メダカオオキバハネカクシ	希少種		小田原市入生田の記録のみ

神奈川県産甲虫類レッドデータ種一覧(4)

科・種名	RD度	衰退原因	備 考
カタモンハネカクシ	減少H	砂浜の減少	最近見たことがない
ドウガネアナバケハネカクシ	希少種		箱根姥子の記録のみ
オオズウミハネカクシ	希少種		三浦市油壺にのみ生息
アリヅカムシ科			
ヒラズイソアリヅカムシ	希少種		真鶴半島の磯の潮間帯にのみ生息
Noduliceps latifrons (Sharp)	希少種		箱根の記録のみ
クワガタムシ科			
オオクワガタ	危惧E	雑木林の減少, クヌギ大木の消滅	湘南地方に生息しているか?
ネプトクワガタ	絶滅B	雑木林の減少	横須賀市の記録のみ。絶滅したものと思われる
コブスジコガネ科			
オオコブスジコガネ	危惧D	環境悪化	小田原市の記録のみ
コガネムシ科			
アカマダラセンチコガネ	危惧E	環境悪化	
ムネアカセンチコガネ	減少H	環境悪化	最近, 見たことがない
ダイコクコガネ	絶滅C	牛馬飼育の廃止	小田原市での記録のみ。絶滅したことは明らか
ナガスネエンマコガネ	危惧F	牛馬飼育の廃止	相模原の記録のみ
オオフタホシマダコガネ	減少G	牛馬飼育の廃止, 環境悪化	三浦半島では絶滅。大野山には生息している
アイヌケシマダコガネ	減少G	砂浜の減少荒廃	
ヤマトケシマダコガネ	減少G	砂浜の減少荒廃	
ヒゲコガネ	減少H	河川の荒廃, 環境悪化	相模川(厚木市)のみにでかろうじて生息か
シロスジコガネ	減少H	都市化, 環境悪化, 薬剤散布	数年前から極端に減少した
オオダイセマダラコガネ	絶滅A	草地の減少, 環境悪化	箱根下双子での記録のみ
アカマダラコガネ	減少H	雑木林の減少	
シラホシハナムグリ	絶滅C	環境悪化	1958年の横須賀市の記録だけ
ムラサキツヤハナムグリ	危惧E	雑木林の減少	三浦半島にのみ生息
オオヒラタハナムグリ	希少種		丹沢堂平のみに生息
タマキノコムシモドキ科			
ミフシタマキノコムシモドキ	希少種		山北町塩沢のみの記録
マルハナノミ科			
ムツボシマルハナノミ	希少種		丹沢堂平のみに生息
タマムシ科			
トゲフタオタマムシ	希少種		丹沢大山のみに生息
クロマダラタマムシ	絶滅B	環境悪化	記録は逗子市のみ。絶滅したと思われる
ウバタマムシ	減少H	環境悪化, 薬剤散布	あまり見られなくなった
タマムシ (ヤマトタマムシ)	減少H	食樹の減少, 環境悪化	最近極めて少なくなった
クロタマムシ	減少H	環境悪化, 薬剤散布	
アヤムナヒロタマムシ	危惧D	生息地の荒廃	横須賀市猿島と観音崎のみ。絶滅が危惧される
クロチビタマムシ	絶滅A	環境悪化	小田原市の記録のみ。絶滅したと思われる
コメツキダマシ科			
シコクカクムネコメツキダマシ	希少種		箱根神山のみの記録
オオナカミゾコメツキダマシ	希少種		石老山の報告のみ
コメツキムシ科			
ウバタマコメツキ	減少H	薬剤散布の影響	最近, 少なくなった
フタモンウバタマコメツキ	危惧E	環境悪化	藤沢市の記録のみ。絶滅の恐れあり
ダイミョウコメツキ	希少種		丹沢堂平の記録のみ
ジョウカイボン科			
コバネチビジョウカイ	希少種		逗子で得られたもののみ
クシヒゲジョウカイ	希少種		箱根大平台の記録のみ
ブランクッチコバネジョウカイ	希少種		丹沢玄倉の報告だけである
ヒメトゲムシ科			
ケモンヒメトゲムシ	希少種		丹沢堂平の記録のみ

神奈川県産甲虫類レッドデータ種一覧（5）

科・種名	R/D度	衰退原因	備 考
シバンムシ科			
ニセオオナガシバンムシ	希少種		真鶴の報告のみ
ホソアシシバンムシ	希少種		真鶴に生息している
コクヌスト科			
ユヤマセダカコクヌスト	希少種		丹沢大山の記録のみ
カッコウムシ科			
ヤマトヒメメダカカッコウムシ	危惧D	ヨシ原の減少	河川の荒廃により多摩川の生息環境悪化
ジョウカイモドキ科			
コケシジョウカイモドキ	希少種		小田原市入生田のみに生息
ルリキオビジョウカイモドキ	危惧D	砂地の減少荒廃	横須賀市天神島と相模川（座間市）の記録のみ
イソジョウカイモドキ	危惧D	海岸の荒廃	環境悪化のため絶滅が危惧される
コバネジョウカイモドキ	希少種		相模原市に生息
チバクギヌキジョウカイモドキ	希少種		大磯高麗山の記録のみ
ケシキスイ科			
ニセキボシヒラタケシキスイ	希少種		丹沢堂平のみに生息
アカホシクロヒラタケシキスイ	希少種		丹沢堂平のみに生息
ミカドケシキスイ	危惧D	草原の荒廃	箱根仙石原のみ生息
オオアオチビケシキスイ	危惧D	環境悪化，原因不明	以前は箱根には多かったが，最近採れない
ヒラタムシ科			
ルリヒラタムシ	希少種		丹沢堂平のみに生息
エゾベニヒラタムシ	希少種		丹沢畔ケ丸，堂平に生息
ヒゲナガホソチビヒラタムシ	希少種		三浦市小網代の記録のみ
ホソチビヒラタムシ	希少種		小田原市の記録のみ
オオキスイ科			
ミドリオオキスイ	希少種		西丹沢本棚沢の報告のみ
コメツキモドキ科			
アオバヒメコメツキモドキ	希少種		箱根仙石の記録のみ
オオキノコムシ科			
ムモンシリグロオオキノコムシ	希少種		丹沢大山のみの記録
テントウダマシ科			
キイロアシボソテントウダマシ	希少種		横浜市円海山の報告のみ
ツツキノコムシ科			
トカラナガツツキノコムシ	危惧E	都市化の影響	小田原市，大和市で採れている
ニッコウツツキノコムシ	希少種		丹沢堂平のみで得られている
ホソカタムシ科			
クロツヤツツホソカタムシ	危惧D	都市化の影響	横浜市金沢区と藤沢市に生息
ゴミムシダマシ科			
ヤマトオサムシダマシ	危惧E	都市化の影響	もともと沿岸の砂地の納屋などに生息
オオマルスナゴミムシダマシ	希少種		平塚市の記録のみ
シナスナゴミムシダマシ	希少種		葉山町の記録のみ
オオマルチビゴミムシダマシ	危惧D	砂浜の減少荒廃	
ツメアカマルチビゴミムシダマシ	危惧D	砂地の荒廃	相模川（厚木市）の記録のみ
ニセマゲソコガネダマシ	危惧D	砂浜の減少荒廃	鎌倉の海岸で採れるが，絶滅の危険性が高い
クロズハマベゴミムシダマシ	絶滅B	砂浜の荒廃	調査しても発見されず，絶滅したであろう
オオユミアシゴミムシダマシ	希少種		丹沢蛭ヶ岳の記録のみ
ハネナシセスジキマワリ	危惧D	都市化の影響	横須賀市のみに生息。生息可能か心もとない
アカハネムシ科			
オカモトツヤアナハネムシ	希少種		三国山の記録のみ
ナガクチキムシ科			
ヒイロホソナガクチキ	希少種		丹沢堂平の記録のみ
ヒゲブトナガクチキ	希少種		逗子市，鎌倉市に生息

神奈川県産甲虫類レッドデータ種一覧(6)

科・種名	RD度	衰退原因	備 考
カミキリモドキ科			
サタカミキリモドキ	危惧D	生息地の荒廃	本州では横須賀市猿島にのみ生息
ツチハンミョウ科			
マメハンミョウ	危惧F	草地の減少, 環境悪化	以前は畑などに普通, 最近殆ど見られない
アリモドキ科			
オオクビボソムシ	希少種		西丹沢箒沢の記録のみ
ヒラタホソアリモドキ	希少種		平塚市の報告のみ
カミキリムシ科			
ベーツヒラタカミキリ	減少G	照葉林の減少	
ニセノコギリカミキリ	危惧?E	マツ林の減少	生息確認調査は困難
サビカミキリ	減少H	マツ林の減少	
オオマルクビヒラタカミキリ	希少種		記録は秦野市の2個体のみ
ホソカミキリ	減少H	広域林地の減少	低地での減少顕著
モモグロハナカミキリ	減少H	広域林地の減少	相模川以東では絶滅
クビアカハナカミキリ	希少種		記録は丹沢の1例のみ
チャイロヒメコブハナカミキリ	希少種		採集例は丹沢山堂平のみ
ヒゲブトハナカミキリ	希少種		採集例は丹沢山堂平のみ
ツヤケシハナカミキリ	減少H	マツ林の減少	低地での減少顕著
ムネアカクロハナカミキリ	減少H	広域林地の減少	低地での減少顕著
ヨツスジハナカミキリ	減少H	広域林地の減少	低地での減少顕著
ハネビロハナカミキリ	希少種		記録は藤野町のみ
カタキハナカミキリ	危惧E	広域林地の減少	低地では絶滅; 最近の記録なし?
カエデノヘリグロハナカミキリ	希少種		採集例は丹沢山堂平の1例のみ
アオスジカミキリ	危惧F	広域林地の減少?	最近の記録なし
キイロミヤマカミキリ	危惧?E	照葉林の減少?	最近の記録なし
マルクビケマダラカミキリ	減少H	薪の使用激減?	
ヨツボシカミキリ	危惧F	不明	1980年代以降の採集例は稀
ヨコヤマヒメカミキリ	危惧?E	広域林地の減少?	最近の記録なし
タカオメダカカミキリ	希少種		記録は丹沢の1ヶ所のみ
クロツヤヒゲナガコバネカミキリ	絶滅A	広域林地の減少?	1963年以降の記録なし
コボトケヒゲナガコバネカミキリ	希少種		記録は津久井の1ヶ所のみ
ミドリカミキリ	減少H	広域林地の減少?	低地での減少顕著
アカアシオオアカミキリ	危惧D	クヌギ古木の減少?	
チャイロホソヒラタカミキリ	減少H	薪の使用激減?	最近の記録は川崎市のみ?
ウスイトラカミキリ	減少H	広域林地の減少?	低地では絶滅
ブドウトラカミキリ	減少H	広域林地の減少?	都市部での減少顕著
ムネマダラトラカミキリ	危惧D	広域林地の減少?	近年の記録は1ヶ所のみ
クリストフコトラカミキリ	危惧D	薪の使用激減	最近の記録なし
アカネトラカミキリ	減少H	広域林地の減少?	低地では絶滅
クロトラカミキリ	減少G	薪の使用激減?	最近の記録少ない
ホソトラカミキリ	減少H	広域林地の減少?	低地の最近の記録少ない
カンボウトラカミキリ	希少種		記録は丹沢の1例のみ
キイロトラカミキリ	減少H	薪の使用激減	全体的に激減
エゾトラカミキリ	希少種		採集例は丹沢山堂平のみ
ホタルカミキリ	減少H	薪の使用激減	低地でとくに激減
ゴマフカミキリ	減少G	薪の使用激減	低地では絶滅?
ドウボソカミキリ	減少H	広域林地の減少	低地では激減
フサヒゲルリカミキリ	絶滅A	生息環境の悪化?	誤記録の可能性あり
イタヤカミキリ	危惧F	明るい湿地環境の減少	最近の記録なし
マツノマダラカミキリ	減少H	マツ林の減少	
センノキカミキリ	減少H	広域林地の減少	

神奈川県産甲虫類レッドデータ種一覧 (7)

科・種名	RD度	衰退原因	備 考
ヒメビロウドカミキリ	危惧E	草地環境の減少	
クリイロシラホシカミキリ	希少種		採集例は丹沢山堂平のみ
オオシロカミキリ	絶滅A	広域林地の減少?	記録は戦前の横浜の1例のみ
セミスジコブヒゲカミキリ	減少G	広域林地の減少?	低地での最近の記録なし
ジュウジクロカミキリ	希少種		記録は丹沢の1例のみ?
イボタサビカミキリ	危惧D	不明	最近の採集例なし
ネジロカミキリ	減少H	不明	低地での最近の記録なし
ゴマダラモモトカミキリ	減少H	広域林地の減少?	低地では絶滅
スジマダラモモトカミキリ	減少H	マツ林の減少	低地での減少顕著
ナカバヤシモモトカミキリ	減少G	マツ林の減少	最近の採集例は少ない
ハンノキカミキリ	危惧F	ハンノキ林の減少	最近の採集例少ない
アサカミキリ	絶滅C	湿性草地環境の激減	1980年代半ば以降の記録なし
カスガキモンカミキリ	希少種		記録は箱根の1例のみ
ジュウニキボシカミキリ	希少種		記録は東丹沢の1例のみ?
クロキクスイカミキリ	希少種		記録は丹沢の1例のみ
アオキクスイカミキリ	絶滅A	寄主植物の衰退	
マメゾウムシ科			
クロマメゾウムシ	危惧D	海浜植物の減少, 食草の消滅	食草のハマエンドウがなくなれば絶滅か
ハムシ科			
キイロネクイハムシ	絶滅A	池, 沼の枯渇, 環境悪化	横浜市豊頭寺の原記載の記録のみ
ホソネクイハムシ	絶滅A	池, 沼の枯渇	本州では箱根の記録。絶滅したものと思う
ヒラタネクイハムシ	危惧D	湿地の荒廃, 食草の減少	箱根の仙石原の湿地にのみ生息
キイロナガツツハムシ	希少種		藤野町の記録のみ
ハコネチビツツハムシ	危惧D	草地の減少荒廃	箱根仙石原が原産地の一つ
ムツキボシツツハムシ	危惧E	雑木林の減少, 環境悪化	小田原市の記録のみ
ジュウシホシツツハムシ	危惧D	草地の減少, 荒廃	草原性のものゆえ, 絶滅が危惧される
オオサルハムシ	絶滅A	環境悪化, 原因不明	箱根仙石原の記録のみ。絶滅は明らか
オオルリハムシ	危惧D	湿地草地の減少荒廃	箱根仙石原の湿地のみに生息
ニッコウルリハムシ	危惧D	草地の減少荒廃	西丹沢三国峠の草地の記録のみ
ドロノキハムシ	危惧F	環境悪化, 原因不明	平地での絶滅は間違いない
サクラムジハムシ	希少種		蛭ヶ岳で得られたものだけ
ヤナギハムシ	危惧F	環境悪化, 原因不明	平地での絶滅は間違いない
ネギオオアラメハムシ	危惧F	環境悪化, 食草の消滅	ノビルが食草
カワシマケブカハムシ	希少種		湯河原の原記載の記録のみ
クロヘリウスチャハムシ	危惧D	湿地の枯渇, 食草の消滅	箱根仙石原の2本のゴマキにのみ見られる
ジュンサイハムシ	危惧D	池沼の減少, 食草の消滅	食草がなくなったので, 心配
ヘリグロタマノミハムシ	希少種		三国山のみに生息
イカリヒメジンガサハムシ	絶滅A	環境悪化, 原因不明	箱根木質の記録のみ。絶滅したと思われる
ヒゲナガゾウムシ科			
ツツケナガヒゲナガゾウムシ	希少種		大山が原産地, 堂平で再発見された
シロマダラネブトヒゲナガゾウムシ	希少種		三国山などで得られた稀種
ゾウムシ科			
シラケコバンゾウムシ	危惧D	草湿地の荒廃	箱根仙石原の湿地のみに生息。絶滅が心配
ヨツホシハナコブヒメゾウムシ	危惧D	環境悪化	猿島のための記録
ババスケヒメゾウムシ	危惧D	草湿地の荒廃, 食草の減少	箱根仙石原の湿地のスゲに生息
ナガクモゾウムシ	希少種		石老山の記録のみ
ウスモンアナアキゾウムシ	希少種		小田原市の記録のみ
コホシメカクシゾウムシ	希少種		大涌谷の記録のみ
ケシクチカクシゾウムシ	希少種		三浦市小網代で得られたもののみ

甲虫類から見た場合も他の昆虫からみた場合も同様と思われるが、神奈川県で絶滅種、絶滅危惧種と指定される種はいずれも平地のものが多く、いかに平地の自然破壊が進行しているかを物語っている。その中で最も被害甚大なのが水生昆虫で、池、沼に生息するゲンゴロウ類、ガムシ類である。次いで河川に見られるミズスマシや流水性のゲンゴロウなどである。草原や湿地も少なくなり、そこに生息する多くの昆虫たちが種の生存に脅えている。また、海岸が埋め立てられ、人工物によってかつての海岸風景がなくなり、砂浜に生息するエンマムシ類、ゴミムシダマシ類などが急速に減少しつつあり、すでに絶滅した種もある。具体的には各論をみれば明らかだが、鶴見川、相模川、酒匂川などの河川の自然度の高い場所、三浦半島や真鶴半島などの岩礁地帯、鎌倉市の海岸をはじめ、海浜植物の生えている砂浜などは保護の対象とすべきであろう。さらに、三浦市の小網代など湿地を含んだ一帯は県内で最も優れた自然環境を呈しており、ここを守らずして自然環境保護はありえない。箱根の仙石原は平地とはいえないが県内最大の湿地帯で、ここでも自然破壊が進んでいる。仙石原には特有の甲虫類も見られ、何らかの対策を講じないと絶滅に追込まれる種もあろう。その他、我々が住んでいるすぐ近くの社寺林や雑木林も大切にすることが必要であり、県の環境部が調査した「地域環境評価書」にはそれらの重要さが記述されている。山地性のものでは草原性のものを除いては、幸いなことにほとんど絶滅種、絶滅危惧種はない。しかし、多くの希少種があり、特に丹沢堂平〜蛭ヶ岳では珍しい種が多く、ブナ林の衰退などにより何時、絶滅の危機が訪れないとも限らない。

私は今、神奈川県を自然を現状のまま子孫に伝える義務があると考えている。

(以上、平野幸彦)

カワラゴミムシ科 Omophronidae

半球形の体型を持った特異な科で、多くの種は熱帯地域に分布し、日本からはカワラゴミムシ 1 種のみが知られる。

△カワラゴミムシ *Omophron aequalis* Morawitz 【減少種 G】
[生息環境] 河川敷などの砂地部分に生息し、付近の灯火にもよく飛来する。

[過去の分布] 横浜二俣川（山口，1970），箒沢（平野，1981；笠原，1984），三浦半島（坂本&土屋，1983），西丹沢西沢・小田原市蛭田（平野，1993）。

[調査結果] 丹沢、道志川などに生息。本種は河川敷などの砂地に生息する、近年の採集例はほとんどない。生息環境の悪化が原因と思われる。

ハンミョウ科 Cicindelidae

金属光沢を持つ美麗種を含む、多くの種から構成されるグループで、世界で約 2500 種あまりが知られ、日本からは 3 属 22 種が記録されている。神奈川県からは、そのうち 10 種あまりが報告されている。県内の甲虫類の中では、非常によく調査されているグループである。下記にあげた種に限らず、全般的に個体数の減少が著しいグ

ループである。

●ホソハンミョウ *Cicindela gracilis* Pallas 【絶滅種 B】
[生息環境] 河川敷の草地に生息し、県内では、港北区新羽町側の鶴見川河川敷・津久井に生息していた。

[過去の分布] 横浜市港北区新羽町鶴見川（松本・鈴木，1981；榎戸，1984；1985；1986；田尾，1984），津久井（守屋，1990）。

[調査結果] 未確認、鶴見川（横浜市港北区新羽町）から報告されているが、生息地が河川改修で失われ、再発見はきわめて困難であると思われる。

△ニワハンミョウ *Cicindela japona* Motschulsky

【減少種 H】

[生息環境] 林に接した草地、林間の空地。春先などに群棲するのを見ることがある。

[過去の分布] 県内各地（大場，1981；榎戸，1985；1989；1992）。

[調査結果] 各地に分布しているものの、生息地の狭小化、個体数の減少が目立つ。幼虫の生息する平坦地の減少が主な原因と思われる。

●カワラハンミョウ *Cicindela laetescripta* Motschulsky

【絶滅種 A】

[生息環境] 砂質の河川敷や海岸の草地部分に生息。

[過去の分布] 横須賀市野比海岸（大場，1981），野比海岸・小田原市酒匂（榎戸，1985）。

[調査結果] 確認できず。県内の海岸などの状況から見て、再発見はきわめて困難である。

○シロヘリハンミョウ *Cicindela yuasai* Nakane

【絶滅危惧種 D】

[生息環境] 海岸の岩礁地帯に生息。幼虫は付近の砂浜の草地の根際に生息する。

[過去の分布] 天神島・初声・諸磯（大場，1981），前記に加え真鶴・城ヶ島（榎戸，1986），他に菊田（1984）による茅ヶ崎市相模川の記録があるが、後に著者自身により、データの誤りととの理由で分布が削除された。

[調査結果] 本調査では確認できなかったが、城ヶ島、真鶴岬では確実に生息している。幼虫は周辺の砂浜の草地に生息しているので、砂浜の環境悪化によっては生息が危ぶまれる。

オサムシ科 Carabidae

きわめて多様な種群を含む、非常に大きなグループで、一般に陸生の食肉性の種を中心としたグループであるが、洞窟や地中に適応し、後翅や複眼を失った種なども含む。全世界から 30000 種以上、日本からも 1000 種あまりが報告されているが、一部のグループを除いて、よく調査されているとはいいがたい。特に生態面における知見は非常に少なく、今後の研究課題である。県内からは 365 種あまりが報告されているが、今後そう多くの種が追加されるものではないと思われる。県内の甲虫類の中では比較的よく調査されているが、分布・生態面の解明などで、今後多くの課題を持ったグループでもある。

△エゾカタビロオサムシ *Campalita chinense* (Kilby)

【減少種 H】

[生息環境] 河川敷、林地に接した草地。

〔過去の分布〕県内各地（山口&平野，1960；西川，1971；平山&高桑，1981；坂本&土屋，1983；田尾，1984；平野他，1991；西川&丸山，1993；田尾&岸，1993）。

〔調査結果〕各地に分布するが，個体数は全体的に減少している。鶴見川河川敷のように，過去にかなり多数の個体が見られたが，現状では絶滅したと思われる地域もある。河川改修，丘陵地の開発などの影響が顕著に見られる種である。

○アカガネオサムシ *Carabus granulatus telluris* Bates
【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕河川敷などの湿地部分。

〔過去の分布〕塔ノ沢（Bates，1883），曾我大沢・酒匂印刷局・大磯花水川河口（山口・平野，1960），花水川（山口，1966），前記の記録に加え小田原市蛍田・酒匂川（平野，1969），花水川（高橋，1971），横浜市鶴見川（西川，1971；田尾，1984），過去の記録のまとめ（平山・高桑，1981），相模湖町（中村，1981）。

〔調査結果〕確認できなかった。湿地環境の消滅，河川改修による生息地の消滅により，今後の発見はきわめて悲観的状況である。

△ヒメマイマイカブリ *Damaster blaptoides oxuroides* (Schaum)
【減少種H】

〔生息環境〕河川敷，林地，谷戸地など。冬季採集の折，朽木中から発見されることが多く，時にきわめて多くの個体が群集する。

〔過去の分布〕県内各地（Bates，1873；山口・平野，1960；西川，1960；平野，1969；西川・奥村，1970；平山・高桑，1981；坂本・土屋，1983；田尾，1984；平野他，1991；西川・丸山，1993；田尾・岸，1993）。

〔調査結果〕各地に分布するものの，いずれの地においても個体数は多くない。河川改修などによる生息地の環境の悪化，平地林の減少による，生息地の乾燥化などの生息環境の悪化が減少の原因と思われる。

△セアカオサムシ *Hemicarabus tuberculatus* (Dejean et Boisduval)
【減少種H】

〔生息環境〕疎らな草地，下草のない林床に生息。比較的乾燥した環境を好む。

〔過去の分布〕小田原市板橋地内字富士山（山口，1958），箱根町姥子・仙石原・小田原城山競技場裏・板橋富士山・石垣山山頂・石橋・米神・江の浦八貫山（山口・平野，1960），箱根町仙石原・小田原市（平野，1969），中井町・小田原市境曾我山（西川，1971），箱根芦ノ湖湖尻（石田，1976），中井町・小田原市酒井曾我山・仙石原・小田原市（平山・高桑，1981），箱根強羅（柴田，1982）。

〔調査結果〕確認できなかったが，箱根地方には生息している。一般に生息数は少ない種である。宅地化などによる疎らな草地の消失，森林の放置による林床の荒廃などが，減少の原因と考えられる。

△カワチマルクビゴミムシ *Nebria lewisi* Bates 【減少種H】

〔生息環境〕砂質の河川敷の水際の石下に生息。

〔過去の分布〕相模原市当麻，松田（平野，1981），横浜市鶴見川（田尾，1986），座間市（西川・丸山，1993）。

〔調査結果〕各河川とも河川敷の環境の悪化が著しく，個体数の著しい減少が見られる。河川改修工事，河川敷へ

の車の乗り入れに伴う環境の悪化などが原因で，鶴見川などのように，まったく見られなくなった地域もある。

○キベリマルクビゴミムシ *Nebria livida angulata* Banninger
【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕砂質の河川敷の水際の石下に生息。近年まったく得られていない。

〔過去の分布〕小田原・湖尻・松田（平野，1981），逗子市鷹取山（森田・田尾，1985）。

〔調査結果〕確認できず。かつて酒匂川では，十文字橋付近に少なくなかったが，環境の激変に伴いまったく見られなくなった。

△オオマルクビゴミムシ *Nebria macrogona* Bates
【減少種H】

〔生息環境〕砂質の河川敷，溪流などの水際の石下に生息。

〔過去の分布〕宮の下・小田原・奥湯河原・箒沢・松田・玄倉（平野，1981），寄沢（田尾，1987），札掛（平野，1987）。

〔調査結果〕丹沢などの山間部には，かなりの数が見られるが，酒匂川など，過去にかなりの個体数が見られた地域でもほとんど見られなくなった。河川改修工事，河川敷への車の乗り入れに伴う環境の悪化などが，主な原因と思われる。

○フタモンマルクビゴミムシ *Nebria pulcherrima* Bates
【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕砂質の河川敷の水際の石下，かなり広い川原にのみ見られる。

〔過去の分布〕平塚（近畿昆虫同好会，1955），平塚・松田（平野，1981）。

〔調査結果〕確認できず。いずれの地においても稀な種であったが，生息地の環境の悪化に伴い，絶滅が危惧される。河川改修工事，河川敷への車の乗り入れに伴う環境の悪化，家庭排水の増大に伴う水質の悪化などの原因が考えられる。

●コハンミョウモドキ *Elaphrus punctatus* Motschulsky
【絶滅種C】

〔生息環境〕よく知られていないが，果樹園，河川敷の草の根際などに生息するとの報告もある。

〔過去の分布〕茅ヶ崎市・藤沢市（嘉納，1952），小田原市入生田（山口，1960），藤沢・小田原（平野，1981），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）。

〔調査結果〕確認できず。1960年代以降の採集例はない。
△クロヒメヒョウタンゴミムシ *Clivina lewisi* Andrewes
【減少種H】

〔生息環境〕比較的泥質の河川敷の，草の根際の土中に生息。

〔過去の分布〕東林間（平野，1981），二子山（土屋，1981；坂本・土屋，1983），横浜市鶴見川（田尾，1986），大和市（平野他，1991）。

〔調査結果〕確認できず。各地に分布すると思われるが，鶴見川では生息地の環境変化が著しく，生息は困難であると思われる。

○ムネアカチビヒョウタンゴミムシ *Dyschirius batesi* Andrewes
【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕湿地の泥土上で得られることが多い。

〔過去の分布〕上鶴間（平野，1981），箱根お玉が池（平野，1993）。

〔調査結果〕確認できず。原因の詳細は不明であるが、湿地、河川数などの環境の悪化が考えられる。

○ナガチビヒョウタンゴミムシ *Dyschirius cheloscelis* Bates
【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕砂質の川原に生息。

〔過去の分布〕小田原・松田（平野，1981）。

〔調査結果〕確認できず。河川改修工事，河川数への車の乗り入れに伴う環境の悪化などが，減少の原因と考えられる。近年の採集例はない。

△アシグロチビヒョウタンゴミムシ *Dyschirius glypturus* Bates
【減少種H】

〔生息環境〕河川数の湿り気のある泥土上に生息。

〔過去の分布〕相模原市当麻（土屋，1982），横浜市（田尾，1984），座間市（西川・丸山，1993）。

〔調査結果〕鶴見川中流域では，過去に多数の個体が見られたにも関わらず，現在ではきわめて稀に得られるに過ぎない。河川改修工事に伴う環境の悪化などが原因と思われる。

○ホソチビヒョウタンゴミムシ *Dyschirius steno* Bates
【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕砂質の川原に生息。

〔過去の分布〕小田原（平野，1981）。

〔調査結果〕確認できず，近年の採集例もない。河川改修工事，河川数への車の乗り入れに伴う河川数の環境悪化に伴い，今後の発見はきわめて困難である。

○ヒョウタンゴミムシ *Scarites aterrimus* Morawitz
【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕海浜植物の生育する草地部分。冬季，草地上的板切れや，石の下から得られることが多く，夏期，トラップ採集によっても得られる。

〔過去の分布〕葉山（桐生，1953），猿島・天神島・小田原（平野，1981），下浦海岸（坂本，1981），三浦海岸・久留和海岸・金田湾（土屋，1981，坂本・土屋，1983）。

〔調査結果〕三浦半島の各地の海岸に見られるが，個体数の減少は著しい。海水浴場の整備などに伴う，生息環境の減少が著しい。

○オサムシモドキ *Craspedonotus tibialis* Schaum
【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕川原，海浜植物の生育する草地部分。冬季，草地上的板切れや，石の下から得られることが多く，夏期，トラップ採集によっても得られる。

〔過去の分布〕野比海岸（坂本・土屋，1983；菊田，1984），三戸浜（田尾，1989），三浦市金田海岸（田尾，1991），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）。

〔調査結果〕三浦半島の一部の海岸には確実に生息するが，その個体数はきわめて少ない。河川改修工事，河川数への車の乗り入れ，海岸地域の整備に伴う環境の悪化などによる。今後の環境変化によっては，生息が非常に危ぶまれる。

○コマヤマメクラチビゴミムシ *Kurasawatrechus notsui* S.Ueno
【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕洞窟内に生息。

〔過去の分布〕大磯町高麗山タツボリ沢の穴（S.Ueno，1983）。

〔調査結果〕確認できず。原記載以降の採集例はない。本種に限らず，洞窟性，地中性の種の採集は，個体数の少ないこともあってきわめて困難である。

○フタボシチビゴミムシ *Lasiotrechus discus* (Fabricius)
【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕谷戸地，河川数などの湿地部分に生息。洪水の後，流れ着いたゴミなどの下から多数の個体が得られることがあるが，それ以外の時は，採集がきわめて困難な種である。

〔過去の分布〕小田原（平野，1981），横浜市鶴見川（田尾，1984），平塚市千石浜（菊田，1984），平塚市千石浜の記録は，洪水による偶産の可能性はある。

〔調査結果〕かつて鶴見川では増水の後に，少なからず見ることができたが，近年はほとんど見られなくなった。

○イズイソチビゴミムシ *Thalassoduvalius masidai pacificus* S.Ueno
【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕水の滴り落ちるような海岸の断崖の下の礫層中。

〔過去の分布〕真鶴岬（S.Ueno，1978）。

〔調査結果〕確認できず，原記載以降の採集例はない。真鶴岬の生息地では，住宅の建設により生息地が失われたとのことである。

○ミウラメクラチビゴミムシ *Trechiana terraenovae* S.Ueno
【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕防空壕の中に生息。

〔過去の分布〕横須賀市大楠山（S.Ueno，1988）。

〔調査結果〕今回の調査で，上記産地の生息が再確認された。大楠山の防空壕より採集された個体を基に記載された。周辺部の環境の変化によっては絶滅の可能性もある。

○アトスジチビゴミムシ *Trechoblemus postilenatus* (Bates)
【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕谷戸地，河川数などの湿地部分に生息。洪水の際に採集されることが多い。

〔過去の分布〕横浜市鶴見川（田尾，1984），茅ヶ崎市（菊田，1984）。

〔調査結果〕確認できず。上記2地点での各1頭の採集例のみ。今後の再発見も困難であろうと思われる。

●キバナガミズギワゴミムシ *Armatocillenus yokohamae* (Bates)
【絶滅種B】

〔生息環境〕河口付近の汽水域の泥土部分の石下。

〔過去の分布〕川崎（Bates，1883），平塚市相模川（田尾，1984；1936年の採集品による記録）。

〔調査結果〕1936年以降の採集例はない。河口付近の干潟部分の消滅などに伴い，再発見はきわめて困難である。

○テンリュウメダカチビカワゴミムシ *Asaphidion tenryuense tenryuense* Habu
【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕不明，茅ヶ崎市での採集例（未発表）では，河川数内の耕作地に設置した，ライトトラップに飛来した。

〔過去の分布〕松田町酒匂川（信太，1984），他に1例の未確認の採集例があるようだが詳細は不明。

〔調査結果〕1994年9月，茅ヶ崎市相模川で，灯火に飛

来した1頭を採集し、現在も生息することが確認された。
○コホソトビミズギワゴミムシ *Bembidion aeneipes* Bates

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕川原の湿った砂地部分に生息。かつては松田町の十文字橋付近に群棲するのが観察された。

〔過去の分布〕酒匂川（平野，1981）。

〔調査結果〕確認できず。松田町付近の酒匂川河川敷では、過去に多数の個体が見られたにも関わらず、現在ではまったく見るができない。河川改修工事に伴う生息地の消滅などが、減少の原因と考えられる。

○マダラケシミズギワゴミムシ *Bembidion articulatum* (Panzer) 【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕湿地の泥土上に生息。時に非常に多くの個体が見られる。

〔過去の分布〕厚木市七沢（高橋，1987）。

〔調査結果〕確認できず。上記の1例以外の採集例はない。

●カワグチミズギワゴミムシ *Bembidion aureofuscum* Bates 【絶滅種A】

〔生息環境〕一般には河口付近の汽水域に生息するが、生息についてはほとんど知られていない。

〔過去の分布〕箱根宮の下（Bates，1883）。

〔調査結果〕確認できず。原記載以降の採集例はない。

△オオフタモンミズギワゴミムシ *Bembidion bandotaro* Morita 【減少種H】

〔生息環境〕泥質の河川敷の、主に下流域の水辺に生息し、中流域以上では非常に稀である。

〔過去の分布〕横浜市鶴見川（田尾，1984）。かつてツマキミズギワゴミムシとして知られていた種であるが、近似種であるフタモンミズギワゴミムシ *B. semilunium* Netolitzky と混同されている恐れがあるので、過去の記録は再確認の必要がある。確実なものは鶴見川の記録のみ。

〔調査結果〕鶴見川の下流域では護岸工事のため、生息地は消滅している。河川の中流域でも稀に見られることがあるが、個体数はきわめて少ない。

△アオヘリミズギワゴミムシ *Bembidion leucolum* (Bates) 【減少種H】

〔生息環境〕畑地周辺のスギゴケなどが生育し、疎らに草の生えた平坦地に生息。

〔過去の分布〕大沼（平野，1981）、二子山（坂本・土屋，1983）、横浜市小机（田尾，1984）、津久井町青山・三増峠（田尾，1991）。

〔調査結果〕横浜市の生息地はまったく消滅している。神奈川に隣接する町田市には生息地があるので、周辺地域では、少ないながらも再発見の可能性はあると思われる。

○ハマベミズギワゴミムシ *Bembidion semilutitum* Bates 【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕河口付近の汽水域に生息。

〔過去の分布〕小田原市早川（平野，1981）、川崎市多摩川（田尾，1984）、三浦市小網代・江奈湾（田尾，1989）、茅ヶ崎市相模川（田尾・岸，1993）。

〔調査結果〕茅ヶ崎市相模川には確実に生息している。個体数は少なくないが、環境の変化によっては、生息が危

惧される状態に陥る可能性は高い。東京都側の多摩川河川敷にも生息しているので、対岸の川崎市でも再発見の可能性はある。

○ヤノホソコミズギワゴミムシ *Lymnastis yanoi* Nakane 【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕落葉下に生息すると思われる。非常に微小な種であるので、今後の調査によっては、産地が増えることも考えられる。

〔過去の分布〕三浦半島（坂本・土屋，1983）。

〔調査結果〕確認できず、上記1例の記録のみ。

○トカラコミズギワゴミムシ *Paratachys troglophilus* (S.Ueno) 【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕河川敷の石下（鶴見川）、富士山では溶岩洞内の採集例もある。

〔過去の分布〕横浜市鶴見川（田尾，1987）。

〔調査結果〕確認できず、上記1例の採集例のみ。現状から見て、鶴見川での再発見の可能性はほとんどないと思われる。

○ウミミズギワゴミムシ *Sakagutia marina* S.Ueno

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕磯を伴う砂浜の波打ち際の石下。

〔過去の分布〕真鶴岬（笠原，1977）。

〔調査結果〕確認できず、上記1例の採集例のみ。関東地方では他には、茨城県に1カ所の産地が知られるのみである。

○オビモンコミズギワゴミムシ *Tachyura ceylanica* (Nietner) 【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕河川敷などの落葉下。鶴見川では洪水の際に、漂着物の中より得られた。

〔過去の分布〕平塚市馬入川（K.Tanaka，1959；平野，1981）、横浜市鶴見川（田尾，1984）、三浦市江奈湾（田尾，1989）。

〔調査結果〕確認できず。広く分布すると思われるが、個体数はきわめて少ない。

○アトモンコミズギワゴミムシ本土亜種 *Tachyura klugieuglypta* (Bates) 【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕畑地周辺のスギゴケの生育する草地、公園などの同様な草地。湿り気があるが日の当たる明るい環境を好む。

〔過去の分布〕横浜市港北区・緑区（田尾，1984）。

〔調査結果〕確認できず。隣接する町田市では生息地がある。耕作地の消滅（小机鶴見川）、公園の整備による環境の変化（小机城趾）が減少の原因である。

○ヨツボシツヤナガゴミムシ *Abacetus tanakai* Straneo

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕河川敷の草地に生息するが、詳しい生息は分かっていない。

〔過去の分布〕平塚市（平野，1981）。

〔調査結果〕確認できず。平塚市の1例の記録のみ。

△ヒロムネナガゴミムシ *Pterostichus dulcis* (Bates)

【減少種H】

〔生息環境〕湿地周辺の湿潤な草地（根際の中）。

〔過去の分布〕仙石（平野，1981）、横浜市緑区（田尾，1986）、大和市（平野他，1991）、茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）。

〔調査結果〕各地の湿地に生息するが、生息地数、個体数共に減少が著しい。

△オオナガゴミシ *Pterostichus fortis* Morawitz 【減少種G】

〔生息環境〕泥質の河川敷に生息。

〔過去の分布〕小田原（平野，1981），横浜市鶴見川（田尾，1984），座間市（西川・丸山，1993）。

〔調査結果〕一般に普通種とされるが、県内の河川の多くは砂質の河川敷を持ち、きわめてよく似たクロオオナガゴミシが生息し、本種の生息は比較的限定される。現在、ほぼ確実に見られるのは横浜周辺であるが、河川改修により個体数は非常に減じている。

△コホソナガゴミシ *Pterostichus longinquus* Bates

【減少種H】

〔生息環境〕湿地周辺のアシ原や草の根際の土中に生息。

〔過去の分布〕東林間・小田原・酒匂（平野，1981），池子（坂本・土屋，1983），横浜市（田尾，1984），三浦市三戸神田・江奈湾・三戸不入斗・剣崎・横須賀市武三丁目（田尾，1989），座間市（西川・丸山，1993），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）。

〔調査結果〕各地の谷戸などの湿地部分に生息するが個体数は少ない。

△ノグチナガゴミシ *Pterostichus noguchii* Bates

【減少種H】

〔生息環境〕耕作地に面した雑木林などの林縁。冬季採集の折に土中から得られることが多い。一般に普通種であるが、県内では少ない。

〔過去の分布〕逗子市二子山・三浦市下宮田・横須賀市野比（土屋，1982；坂本・土屋，1983），横浜市（田尾，1984），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）。

〔調査結果〕各地に産するが個体数は少ない。冬季採集の折に、草の生えた小さな崖などから掘り出されることが多い。

△ヒメホソナガゴミシ *Pterostichus rotundangulus* Morawitz

【減少種H】

〔生息環境〕湿地周辺の草の根際、水田などの畦道など。

〔過去の分布〕上鶴間・仙石（平野，1981），横浜市（田尾，1984），三浦市三戸不入斗（田尾，1989），大和市（平野他，1991），円海山（円海山域自然調査会，1993），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）。

〔調査結果〕県内各地の湿地に生息するが個体数の減少が著しい。

○オオキンナガゴミシ *Pterostichus samurai* (Lutshnik)

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕公園内の林地（横浜市三ツ池公園）に生息。

〔過去の分布〕相模原市（土屋，1982），横浜市（田尾，1984）。

〔調査結果〕確認できず。一般に山地性の種であるが、県内では平地で得られている。三ツ池公園では、公園整備による環境の変化によって、今後の再確認はきわめて困難な状況である。

△アシミゾナガゴミシ *Pterostichus sulcitaris* Morawitz

【減少種H】

〔生息環境〕湿地周辺の草地、アシ原など。

〔過去の分布〕横浜市（田尾，1984），横須賀市武三丁目

（田尾，1989），津久井町青田（田尾，1991）。

〔調査結果〕他県では湿地などに普通に見られるが、県内では三浦半島を除ききわめて稀な種である。

○ヨコハマナガゴミシ *Pterostichus yokohamae* Nakane et Straneo 【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕鶴見川河川敷内のアシ原

〔過去の分布〕横浜市綱島鶴見川（Nakane & Straneo，1979；平野，1981），横浜市鶴見川（田尾，1984）。

〔調査結果〕小机付近に生息するものの、きわめて憂慮すべき状態である。

●オグラヒラタゴミシ *Agonum ogurae* (Bates)

【絶滅種A】

〔生息環境〕湿地、溜池などの周辺の水辺の落葉下。

〔過去の分布〕丹沢箒沢（平野，1981）。

〔調査結果〕確認できず、上記1例の採集例のみ。以降の記録はない。

△ヒメセボシヒラタゴミシ *Agonum suavissimum* (Bates)

【減少種H】

〔生息環境〕湿地周辺の草の根際、枯れたアシの中など

〔過去の分布〕仙石（平野），横浜市（田尾，1986），座間市（西川・丸山，1993），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）。

〔調査結果〕各地に生息するものの、個体数は少ない。生息地もかなり局限される。茨城、千葉県などでは、湿地などに普通に見られる。

△アシミゾヒメヒラタゴミシ *Agonum thoreyi nipponicum* Habu 【減少種H】

〔生息環境〕湿地周辺の草の根際、枯れたアシの中などに生息。

〔過去の分布〕三浦半島（坂本・土屋，1983），横浜市（田尾，1986；1989），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）。

〔調査結果〕前種と同様な環境に見られるが、個体数、生息地共に前種よりさらに局限される。

○キバナガヒラタゴミシ *Onycholabis sinensis nakanei* Kasahara 【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕滝、堰堤などの水の落下した周辺の石下、飛沫で濡れたような比較的大きな石の下に見られる。

〔過去の分布〕丹沢箒沢（S.Kasahara，1986），丹沢寄沢（田尾，1987）。

〔調査結果〕過去に得られた場所でも、見られない場所が増えている。生息地内に建設されたオート・キャンプ場の影響が非常に懸念される。

○コヒラタゴミシ *Platynus protensus* (Morawitz)

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕湿地、流水などの周辺の湿潤な石下に生息。

〔過去の分布〕相模原市大沼・大和市東林間（平野，1981），横浜市六浦・横須賀市長沢・横須賀市津久井（坂本・土屋，1983），横浜市（田尾，1984），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）。

〔調査結果〕横浜市では過去の生息地でまったく見いだすことができなかった。一般に個体数の少ない種であり、かなり湿潤な環境を好むので、近年の生息環境の減少の著しさから、今後の生息が危ぶまれる。

△キアシツヤヒラタゴミシ *Synuchus calliteres calliteres* (Bates) 【減少種H】

〔生息環境〕水の枯れた沢筋の石下（山地）、河川敷の草地、雑木林などの林床（平地）に生息。

〔過去の分布〕横浜（Bates, 1883; Habu, 1955）、横浜・相模原市大沼（平野, 1981）、三浦半島鷹取山（坂本・土屋, 1983）。

〔調査結果〕確認できず。一般に山地に多い種であるが、県内では平地で得られている。近年の採集例はほとんどない。

△コクロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus melantho* (Bates)

【減少種H】

〔生息環境〕林床状態の良好な平地林、山地帯の林床の石下、落葉下に生息。

〔過去の分布〕箱根双子山、札掛（平野, 1981）、堂平（笠原, 1983）、横浜市（田尾, 1987）、丹沢札掛（平野, 1987）、大棚の頭・油沢の頭・三国峠（笠原, 1993）。

〔調査結果〕丹沢などではかなり見られるが、平地の個体群はきわめて減少してしまった。

△キアシマルガタゴミムシ *Amara ampliata* (Bates)

【減少種H】

〔生息環境〕溪流周辺、河川敷の石下に生息。

〔過去の分布〕小田原市酒匂・入生田（平野, 1981）、三浦半島久村（坂本・土屋, 1983）、座間市（西川・丸山, 1993）。

〔調査結果〕確認できず。山間や中流域の、比較的広い川原の石下に生息するが、近年そのような環境は著しく減少し、本種の採集例も激減している。

○チョウセンゴモクムシ *Harpalus crates* Bates

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕河川敷内の草地の石下に生息。

〔過去の分布〕横浜市（Bates, 1883）、大磯町（Habu, 1973; 平野, 1981）。

〔調査結果〕確認できず。過去の産地では生息していない可能性が高い。河川改修、河川敷への自動車の乗り入れなどに伴う河川環境の悪化、家庭排水による水質の悪化などが減少の原因であろう。

○コバヤシツヤゴモクムシ *Trichotichnus kobayashie* Habu

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕海岸の岩礁地帯の、断崖林下部の落葉下に生息する。

〔過去の分布〕根府川（平野, 1981）、横須賀市木古庭（坂本・土屋, 1983）、三浦市剣崎・荒崎（田尾, 1989）、横須賀市走水旗山崎、走水伊勢山崎（田尾, 1991）、真鶴町真鶴岬（和泉, 1994）。

〔調査結果〕三浦市剣崎で生息を確認、さらなる海岸部の詳細な調査が必要である。なお、坂本・土屋による三浦半島木古庭の記録は、図示された写真による限り、本種ではなく、同属のヒコサンツヤゴモクムシである可能性が高い。

○オオクロツヤゴモクムシ *Trichotichnus lewisi* Schauburger

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕林床状態の良好な広葉樹林の林床に生息。

〔過去の分布〕箱根（平野, 1981）、横浜市（田尾, 1985）。

〔調査結果〕確認できず。丹沢および箱根地方には生息可能と思われる。

△キュウシュウツヤゴモクムシ *Trichotichnus vespertinus* (Habu)

【減少種H】

〔生息環境〕畑地周辺、丘陵地の雑木林などの林床の落葉下に生息。

〔過去の分布〕大磯（平野, 1981、林・平野, 1987）、横浜市（田尾, 1986）。

〔調査結果〕過去にかなりの個体数が見られた横浜市緑区の生息地では、環境の変化に伴いまったく見られなくなった。灯火による採集例が多い。

●ムネミゾチビゴモクムシ *Anthracus horni* (Andrewes)

【絶滅種A】

〔生息環境〕湿地の周辺部、水田の湿潤な畦道の縁辺部などに生息。

〔過去の分布〕横浜市鶴見川（田尾, 1988）。

〔調査結果〕小机亀甲橋の灯火で得られた上記1例のみ。周辺の状態から見て同地での再発見は困難である。小型種であるので、県内各地での精査が必要であるが、現在の知見では絶滅種としておきたい。

●セグロマメゴモクムシ *Stenolophus connotatus* Bates

【絶滅種A】

〔生息環境〕やや湿潤な河川敷のアシ原などに生息。

〔過去の分布〕横浜市鶴見川（田尾, 1985）。

〔調査結果〕上記の生息地は、河川敷がまったく失われている。利根川水系などでは比較的普通に見られるが、本県では上記1例のみで、すでに絶滅した可能性が高い。△ツヤマメゴモクムシ *Stenolophus iridicolor* Redtenbacher

【減少種H】

〔生息環境〕河川敷内、湿地周辺の草地に生息。

〔過去の分布〕県内各地の河川敷・谷戸地（平野, 1981; 坂本・土屋, 1983; 田尾, 1985; 平野他, 1991; 西川・丸山, 1993; 田尾・岸, 1993）。

〔調査結果〕各地に産するものの各地で個体数の減少が目立つ。他県では比較的普通に見られるが、本県ではあまり多い種ではない。

△クロサマメゴモクムシ *Stenolophus kurosai* Tanaka

【減少種H】

〔生息環境〕谷戸地の湿地部分、環境良好な休耕田などの周辺部に生息。

〔過去の分布〕東丹沢物見峠（笠原, 1982）、横浜市（田尾, 1986）、三浦市江奈湾・三戸神田・三戸不入斗・横須賀市武三丁目・長坂（田尾, 1989）、茅ヶ崎市（田尾・岸, 1993）。

〔調査結果〕生息環境の減少、個体数の減少などが著しい。

△タオマメゴモクムシ *Stenolophus taoi* Kasahara

【減少種H】

〔生息環境〕谷戸地の湿地部分、環境良好な休耕田などの周辺部に生息。

〔過去の分布〕川崎市、横浜市（Kasahara, 1989）、横浜市、三浦半島（田尾, 1986; 1989）。

〔調査結果〕生息環境の減少、個体数の減少などが著しい。

△クロズカタキバゴミムシ *Badister nigriceps* Morawitz

【減少種H】

〔生息環境〕河川敷、谷戸地、耕作地の湿地部分に生息

し、灯火などにもよく飛来する。

〔過去の分布〕仙石・小田原・松田（平野，1981），横浜市（田尾，1987），寄沢（田尾，1988），座間市（西川・丸山，1993）。

〔調査結果〕確認できず。宅地化，谷戸地の開発などに伴う湿地環境の破壊による減少が著しい。

△ヨツモンカタキバゴミムシ *Badister pictus* Bates

【減少種H】

〔生息環境〕河川敷，谷戸地，耕作地の湿地部分に生息し，灯火などにもよく飛来する。

〔過去の分布〕箱根仙石原（平野，1957），大沼・小田原・仙石（平野，1981），茅ヶ崎市（菊田，1984；田尾・岸，1993），横浜市（田尾，1988）。

〔調査結果〕確認できず。生息環境の減少が著しい。横浜市（鶴見川）では生息環境はまったく失われている。

○オオヨツボシゴミムシ *Dischissus mirandus* Bates

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕丘陵地の林地周辺などで，冬季採集の折に土中から得られることが多い。他に灯火に飛来することもある。

〔過去の分布〕猿島（平野，1981），三浦市城ヶ島（石渡，1982；坂本・土屋，1983）。

〔調査結果〕確認できず。近年の採集例はまったくない。大型種であるが県内では十分に調査されていない。

△ヨツボシゴミムシ *Panagaeus japonicus* Chaudoir

【減少種H】

〔生息環境〕河川敷内のアシ原，畑地の周辺などに生息。冬季採集や灯火に飛来した個体を採集することが多い。特に冬季には非常に多数の個体が群集しているのを見ることがある。

〔過去の分布〕横浜市戸塚・大和市東林間・小田原・小田原市久野・湖尻（平野，1981），三浦半島久村（坂本・土屋，1983），横浜市（田尾，1985），三浦市江奈湾（田尾，1989），円海山（円海山域自然調査会，1993），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）。

〔調査結果〕近年，各地で個体数が著しく減少している。過去には河川敷などで冬季採集の折，土中，朽木中より多数の個体が得られたが，近年そのようなことはまったくなくなり，活動期に少数の個体が見られるのみとなった。

△イグチケブカゴミムシ *Peronomerus auripilis* Bates

【減少種H】

〔生息環境〕河川敷内，耕作地，谷戸地などの湿地部分のアシ原の倒伏したアシの下などより得られる。

〔過去の分布〕厚木市昭和橋（土屋，1982），茅ヶ崎市（菊田，1984；田尾・岸，1993），横浜市（田尾，1985），三浦市三戸不入斗（田尾，1989），円海山（円海山域自然調査会，1993），座間市（西川・丸山，1993）。

〔調査結果〕茅ヶ崎では赤羽根周辺の湿地に，少数の個体が見られる。各地で生息環境の悪化が著しい。

△クロケブカゴミムシ *Peronomerus nigrinus* Bates

【減少種H】

〔生息環境〕河川敷内，耕作地，谷戸地などの湿地部分のアシ原に生息。

〔過去の分布〕小田原（平野，1981），茅ヶ崎市（菊田，1984；田尾・岸，1993），横浜市（田尾，1985），円海山（円海山域自然調査会，1993）。

〔調査結果〕各地に見られるが，県内では前種より個体数が多い。過去の生息地では，確実に個体数の減少が見られる。

○クビナガヨツボシゴミムシ *Tinoderus singularis* (Bates)

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕主に河川敷内のアシ原に生息。

〔過去の分布〕小田原（平野，1981），松田町川音川（菊田，1984），横浜市（田尾，1985）。

〔調査結果〕確認できず。過去に多数の個体が見られた府中市の多摩川河川敷内においても，近年はきわめて少数の個体が見られるのみである。県内では近年の採集例はまったくない。

△アカガネアオゴミムシ *Chlaenius abstersus* Bates

【減少種H】

〔生息環境〕芝生，栗畑などの比較的開放的な，適度に乾燥した疎らな草地の，落葉の中などに生息。灯火に飛来した個体を採集することが多い。

〔過去の分布〕大沼・小田原（平野，1981），横浜市（田尾，1985），厚木市七沢（高橋，1987）。

〔調査結果〕確認できず。近年の採集例はまったくない。

○ヒトツメアオゴミムシ *Chlaenius deliciolus* Bates

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕桑畑の周辺で，枯れ草の下などで得られることが多く，冬季採集の際，土中より掘り出されることが多い。灯火にも飛来する。

〔過去の分布〕横浜市金沢文庫（平野，1981；坂本・土屋，1983）。

〔調査結果〕1957年に採集されたデータによる上記1例の採集例のみで，その後まったく得られていない。

△コアトワアオゴミムシ *Chlaenius hamifer* Chaudoir

【減少種H】

〔生息環境〕湿地周辺部や，河川敷内で冬季採集の折に土中より採集されることが多い。同様な場所で，夏期，灯火にも飛来する。

〔過去の分布〕横須賀市鷹取山（土屋，1982；坂本・土屋，1983），横浜市（田尾，1985），茅ヶ崎市赤羽根十二区（岸，1993；田尾・岸，1993），座間市（西川・丸山，1993）。

〔調査結果〕茅ヶ崎市，座間市の最近の記録があるが，県内での採集例はきわめて少ない。

△ニセコガシラアオゴミムシ *Chlaenius kurosawai* Kasahara

【減少種H】

〔生息環境〕湿地中の倒伏したアシの中などに生息。

〔過去の分布〕横浜市三保（Kasahara，1986），三浦市三戸神田・横須賀市長坂（田尾，1989），大和市（平野他，1991）。

〔調査結果〕各地に生息するが，いずれの場所においても，確実に個体数の減少が見られる。

●オオサカアオゴミムシ *Chlaenius pericallus* Redtenbacher

【絶滅種A】

〔生息環境〕比較的大きな河川の河川敷内に生息する。冬季採集の折に，土中，朽木の中などに見られることが多

く、時に非常に多数の群集が見られる。

〔過去の分布〕藤沢市（渡辺，1953；1992）。

〔調査結果〕同一の標本に基づく上記の採集例が県内の記録のすべてである。以後の採集例はまったくない。再発見もきわめて困難であろう。

△トックリゴミムシ *Lachnocrepis prolixa* (Bates)

【減少種H】

〔生息環境〕河川敷，谷戸地の湿地に生息するが，むしろ河川敷に多い。驚くと水中に潜入する。洪水の際などに，非常に多数の個体が見られることがある。

〔過去の分布〕相模原市上鶴間・小田原市久野・小田原市富水（平野，1981），三浦半島二子山・横須賀市野比（坂本・土屋，1983），横浜市（田尾，1985），大和市（平野他，1991），座間市（西川・丸山，1993），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）。

〔調査結果〕座間市，茅ヶ崎市の最近の採集例があるが，過去の生息地で，まったく見られなくなった所も多い。

△ニセトックリゴミムシ *Oodes helopioides tokyoensis* Habu

【減少種H】

〔生息環境〕前種と共に見られるが，本種はむしろや土地や水田地帯の湿地などに多く見られ，夏期に灯火によく飛来する。県内では本種のほうが多く見られるが，近年の減少が著しい。

〔過去の分布〕野比（坂本，1983；坂本・土屋，1983），横浜市（田尾，1985），横須賀市長坂（田尾，1989），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）。

〔調査結果〕茅ヶ崎からの最近の採集例があるが，生息地，個体数共に減少の傾向が著しい。

○オオトックリゴミムシ *Oodes vicarius* Bates

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕溜池などの周辺に水辺に生息し，驚くと水中に潜入する。

〔過去の分布〕相模湖（Habu，1958），小田原（平野，1981），藤野町青田（田尾，1991）。

〔調査結果〕現在確実に生息が確認されているのは，藤野町青田付近の相模湖畔のみである。今後の水質の悪化による減少が懸念される。

○オオヒラタトックリゴミムシ *Oodes virens* Wiedman

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕生態面の知見はまったくなく，灯火に飛来した個体が採集されているのみである。

〔過去の分布〕川崎市登戸（Habu，1958），愛甲郡清川村（田尾，1985）。

〔調査結果〕上記2例が，県内の採集例のすべてであり，近年まったく採集されていない。

○フタモンクビナガゴミムシ *Archicolluris bimaculata nipponica* Habu

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕河川敷内のアシ原の根際に生息。冬季に多数の個体が群集しているのを見ることがあり，灯火にもよく飛来する。県内ではきわめて稀な種であるが，関東では，むしろ普通に見られた種である。近年の個体数の減少が著しい。

〔過去の分布〕横浜市（田尾，1985）。

〔調査結果〕横浜市の上記1例の記録のみ。他に平野によ

る小田原市酒匂川での未発表の採集例がある。今回の調査では確認できなかったが，小型の種でもあり，今後の調査が必要であろう。

○ハガクビナガゴミムシ *Odacantha hagai* Nemoto

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕湿地内のきわめて湿潤な場所に見られ，倒伏したアシの茎の中に生息する。

〔過去の分布〕箱根仙石原（平野，1993）。

〔調査結果〕仙石原の湿地部分の乾燥化が，非常に懸念される。今後，他地域での湿地の精査が必要である。

○ナカグロキバネクビナガゴミムシ *Odacantha puziloi* Solsky

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕湿地内のきわめて湿潤な場所に見られ，倒伏したアシの茎の中に生息する。

〔過去の分布〕横浜市鶴見川（田尾，1978；平野，1981；田尾，1985），横浜市旭区大池町（榎戸，1989），箱根仙石（平野，1993），座間市（西川・丸山，1993）。

〔調査結果〕箱根仙石，座間市に生息しているが，鶴見川では事実上絶滅したと考えられる現状である。

△ダイミョウアトキリゴミムシ *Cymindis daimio* Bates

【減少種H】

〔生息環境〕山地の山麓部，低山帯などの林床の落葉中に生息し，灯火に飛来した個体が採集されることが多いが，どこでも個体数は少ない。

〔過去の分布〕川崎市向ヶ丘（長尾，1970）。

〔調査結果〕上記1例の記録のみ，丹沢，箱根の山麓部，津久井郡などでの再発見の可能性はある。

△ミズギワアトキリゴミムシ *Demetrias marginicollis* Bates

【減少種H】

〔生息環境〕水辺のアシ原に生息し，しばしばアシなどの葉上に登る。時に水辺から離れた，ススキなどの葉上から得られる場合もある。

〔過去の分布〕宮の下（Bates，1883），宮の下・畑宿・小田原（平野，1981），逗子市二子山（坂本・土屋，1983），茅ヶ崎市（菊田，1984；田尾・岸，1993），横浜市（田尾，1985），大和市（平野他，1991），円海山（円海山域自然調査会，1993），座間市（西川・丸山，1993）。

〔調査結果〕各地に生息するが，生息地のアシ原などの湿地の減少が著しく，生息数も減少している。

○アリスアトキリゴミムシ *Lachnoderma asperum* Bates

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕よく知られていないが，草丈の低い荒れ地に生息するようである。

〔過去の分布〕箱根宮の下（Bates，1883；平野，1981）。

〔調査結果〕箱根宮の下の原産地の1例の記録のみで，その後まったく採集されていない。

○イマイチビアトキリゴミムシ *Microlestes imaii* Habu

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕よく知られていないが，九州地方などでは，畑地の周辺の裸地などで採集されているという。

〔過去の分布〕横浜市豊顕寺，鎌倉（Bates，1883；Habu，1967；平野，1981），湘南鷹取（坂本・土屋，1983）。

〔調査結果〕Batesの記録以降は，上記，湘南鷹取の1例が報告されているに過ぎない。

○クロサヒラタアトキリゴミムシ *Parena kurosai* Habu

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕雑木林のコナラなどの樹上に生息し、クリの花などにも集まるが、個体数は非常に少ない。

〔過去の分布〕横浜市（田尾，1988；和泉，1991；倉形，1993），藤野町（田尾，1991）。

〔調査結果〕確認できなかったが，上記2産地については，生息していると考えられる。調査が不十分な種で，今後の精査が必要である。

●オオアオホソゴミムシ *Desera geniculata* (Klug)

【絶滅種B】

〔生息環境〕生態に関する知見はほとんどなく，冬季採集の際土中からの採集例や，灯火に飛来した個体の採集例などが報告されている。県外においても近年の採集例は少なく，目立って個体数の減少が見られる種である。

〔過去の分布〕横浜市金沢文庫・相模原市大沼・大和市上鶴間・大和市東林間・山北町市間（平野，1981），横須賀市田浦（坂本・土屋，1983）。

〔調査結果〕今回の調査においては，確認することができなかった。坂本・土屋の報告以後の採集例はない。

ホソクビゴミムシ科 *Brachinidae*

驚くと腹端からガスを発射する特異な生態を持つ比較的小さなグループで，全世界から600種あまりが知られ，日本からは10種ほどが記録されている。県内からはそのうち5種が報告されている。

○アオバネホソクビゴミムシ *Brachinus aeneicostis* Bates

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕よく知られていないが，河川敷内の比較的湿潤な場所に生息しているものと思われる。灯火に飛来した個体や，冬季採集の折土中で越冬中の個体を見ることが多い。一般に少ない種である。

〔過去の分布〕相模原市下溝（土屋，1982）。

〔調査結果〕上記相模原市よりの1例のみが知られ，以後の記録はまったくない。

○ヒメホソクビゴミムシ *Brachinus incomptus* Bates

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕湿地の周辺部や，小川の周辺，水田の付近で得られることが多く，冬季土中からの採集例が多い。

〔過去の分布〕箱根仙石原（平野，1957），横須賀市佐原・長沢（坂本，1983；坂本・土屋，1983）。

〔調査結果〕上記採集例以外の記録はなく，それ以後の採集例もない。県内の湿地の現状を考えると，本種も絶滅の危惧される種である。

（以上，田尾美野留）

水生甲虫の概略

1960年代に始まったと思われる神奈川県における水生昆虫相の貧弱化は，近年さらに加速し既に絶滅してしまっと思われる種も少なくない。水生甲虫もその例外ではなく，まさに目を覆わんばかりの惨状であり，日本でも最も劣悪な水環境しか残されていない県といっても過言ではなからう。

神奈川県内の水生甲虫については，戦前の数点の記録

以降ほとんど調査されないまま経過し，やっと本格的に調査が始まったのが80年代も半ばになってからであった。その後県内のファウナは急速に解明されたが，開発の進んだ本県では実際には調査は既に遅きに達した感があり，過去においては県内に広く分布したであろうと考えられる，かつてのいわゆる‘普通種’についても確認できたものはわずかで，大部分は標本はおろか記録さえ残されていない。

現在県内には，良好な環境と言える水域はごく少ない。特に止水域については壊滅状態である。かつては，これら水生甲虫の格好の住み家であった水田は，農薬の使用や乾田化によって著しく劣悪な環境になり，現在ではごく一部の谷戸田を除けば，水生甲虫は生息不能である。また，池沼も水域そのものが埋め立てによって消滅している例が多く，運良く池が残された場合も，公園化による護岸工事や近隣の宅地化に伴う水質汚染の進行などによる環境悪化は深刻で，水生甲虫の生息できる環境そのものが既にほとんど存在していない。80年代後半までは，かろうじて命脈を保っていたゲンゴロウ・マルガタゲンゴロウなども，生息地の破壊や環境悪化によって絶滅してしまった。流水域においても，護岸工事による植生破壊や家庭排水などによる水質汚染が進行し，やはり水生甲虫が生息できる環境はごく少ない。

今回の調査は，筆者らの知る水域を再調査するとともに，地図・文献やナチュラリストなどからの情報収集に努め，県内の環境良好と思われる水域を現地調査する形で進めた。人数・時間の制限もあり，充分納得のいく調査にはならなかったが，県内の現状についてはほぼ把握できたものと思われる。

県内の水域は，前出のようにほぼ破壊しつくされているが，今回の調査結果を踏まえ，幸いにも現在良好な環境が残されているごくわずかな地域だけは，せめてこれ以上の開発を行う愚はさけて是非とも手厚い保全を行ってほしい。我々の子孫にこれ以上寂しい思いをさせぬためにも。

水生甲虫は，ごく狭い池や湿地でも生き延びる例も多い。筆者らは確認できなかった今回の絶滅種がどこかで再発見されることを願う。

コガシラミズムシ科

県内からは6種が知られるが，そのうち2種が不明種，2種が絶滅危惧種と判断される。

○キイロコガシラミズムシ *Haliphus eximus* Clark

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕平地～丘陵地の池・湿地などに生息する。全国的にも稀な種とされている。

〔過去の分布〕葉山町下山口（高桑，1990）。

〔調査結果〕6 exs., 葉山町下山口，9.X.1993，高桑採集；1 ex., 同，7.XI.1993，荻部治紀採集。

県内では葉山町下山口の池が唯一の産地である。ゲンゴロウ類のところで詳しく触れるが，この池は90年代に入って急激に環境が悪化した。コガシラミズムシ類は幸いにもまだ生き延びているが，その個体数は激減した。本種が今後どのような推移をたどるかわからないが，現

在の限られた分布から考えて水質の悪化などに敏感なことから、池の環境悪化が進行すると、県内から絶滅してしまう危険性が高い。

○カミヤコガシラミズムシ *Halipilus kamiyai* Nakane

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕平地～丘陵地の池・湿地などに生息する。

〔過去の分布〕葉山町下山口（高桑，1990）。

〔調査結果〕3 exs.，葉山町下山口，9.X.1993，高桑採集；1 ex.，同，7.XI.1993，荻部治紀採集。

前種とともに県内では葉山町下山口の池が唯一の産地であり、同様に絶滅が心配される。

ゲンゴロウ科

県内からは29種が知られるがそのうちの4種が絶滅危惧種，9種が絶滅種と判断される。なお，本科に関する文献については，紙面の都合上主要なものだけにとどめた。詳細はこれらの文献を参照されたい。

○ツブゲンゴロウ *Laccophilus difficilis* Sharp

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕低地の池沼や水溜りに生息する。

〔過去の分布〕県内からははっきりした記録は逗子市と葉山町（大場，1981），相模原市相模川（高桑，1987）しか知らないが，かつては低地部には広く分布していたものと考えられる。〔未発表記録〕多数目撃，厚木市上荻野，4.X.1987，高桑。

〔調査結果〕今回の調査では発見できなかったが，相模川の河跡湖などに生息している可能性がある。厚木市上荻野の池は，ゲンゴロウのところで詳しく解説してあるように，池の改修により生息環境が失われてしまった。

●ルイスツブゲンゴロウ *Laccophilus lewisius* Sharp

【絶滅種A】

〔生息環境〕低地の池沼や水溜り，湿地，水田などに生息する。

〔過去の分布〕県内からははっきりした記録は横須賀市（高桑，1987）しか知らないが，かつては低地部には広く分布していた可能性がある。

〔調査結果〕今回の調査では発見できなかった。横須賀市では近接した2ヶ所（湿地と水田）で記録されたが，いずれも乾燥してしまい，水生昆虫の生息できない環境になってしまった。

●コウベツブゲンゴロウ *Laccophilus kobensis* Sharp

【絶滅種A】

〔生息環境〕低地の池沼や水溜りに生息する。

〔過去の分布〕県内からははっきりした記録は横須賀市（高桑，1987）しか知らないが，かつては局地的ながらも低地部には広く分布していた可能性がある。

〔調査結果〕今回の調査では発見できなかった。本種が採集された池は現存しているが，汚れが著しい。

●ヒメケシゲンゴロウ *Hyphydrus laevis* Sharp

【絶滅種A】

〔生息環境〕平地～丘陵地の池・湿地などに生息するが，産地は局限される。

〔過去の分布〕横浜（Sharp，1882）；葉山町下山口（高桑，1990）。

〔調査結果〕県内の特定できる生息地は，葉山町峰山の池が唯一の産地であったが，近年の調査では確認できなかった。生息地の環境悪化によるものと思われる（生息地の変遷についてはマルガタゲンゴロウの項で触れる）。県内の水域の現状を考えると，本県からは絶滅したものと考えられる。

○マルケシゲンゴロウ *Hydrovatus subtilis* Sharp

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕浅い水溜まりや湿地を好んで生息する。

〔過去の分布〕岩瀬ほか（1994）による横浜市円海山での記録があるだけ。かつては県内の低湿地には広く分布していたのであろう。

〔調査結果〕今回の調査では発見できなかったが，高桑は1992年頃に県央部で採集された1個体を検している。良好な環境の湿地がほとんど消失した現在では，本種の生息はきびしいものと考えられる。

●セスジゲンゴロウ *Copelatus japonicus* Sharp

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕低地部の浅い水域，とくに湿地に見られる。

〔過去の分布〕県内からははっきりした記録は相模原市と寒川町（高桑，1987）しか知らないが，かつては局地的ながらも低地部には広く分布していた可能性がある。

〔調査結果〕今回の調査では発見できなかった。相模原市では湿地で得られたが，その場所は土地の改変を受け，湿地は消失してしまっていた。

●キボシケシゲンゴロウ *Nipponhydrus flavomaculatus* (Kamiya)

【絶滅種A？】

〔生息環境〕丘陵地～山地の溪流に産するが，分布は極限される種である。

〔過去の分布〕逗子市二子山森戸川（高桑，1987）。

〔調査結果〕調査期間中には確認できなかった。県内では，二子山が唯一の産地である。ここを流れる森戸川は，三浦半島では貴重なかなり良い状態で残されてきた川であり，本種が生息していた源流部はそれほど変化していないように思われるが，近年の確認例がない。なんらかの水質変化があったのかもしれないが，減少・絶滅要因は不明である。現状では県内に生息地は知られておらず，絶滅状態といえるが，丹沢・箱根を始めとした山地溪流の調査が遅れていることから，県内にまだ生息している可能性も否定できない。今後の積極的な調査が望まれる種である。

●キベリクロヒメゲンゴロウ *Irybius apicalis* Sharp

【絶滅種A？】

〔生息環境〕平地～丘陵地の池・湿地に生息する。

〔過去の分布〕岡野（1941）による地域未特定の記録，それに平野（1957）による箱根仙石原の記録があるにすぎない。

〔調査結果〕調査期間中には確認できなかった。本種は産地においては個体数も多く，近県ではそれほど稀な種ではない。しかし，県内では上記以外には記録がなく，近年の調査でも確認できないでいる。他県では休耕田に多産する例もあり，今後の調査で発見される可能性もあるが，ここでは絶滅種として扱う。

○シマゲンゴロウ *Hydaticus bowringi* Clark

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕平地～丘陵地の池・湿地に生息する。

〔過去の分布〕県内に広く分布していたようである。

〔調査結果〕調査期間中には確認できなかった。本種は近年各地で減少しており、比較的稀な種となっている。県内でも80年代後半までは、それでも各地でボツボツ採集例を聞いたが、90年代に入ってからの実確な生息地として知られるのは厚木市七沢（高桑ほか、1993）だけである。本種のようにかつては水田などでも多数見られた種が、絶滅状態にまで追い詰められてしまっていることは、本県の止水域の現状を端的に表していると言えよう。

●マルガタゲンゴロウ *Gaphoderus adamsii* (Clark)

【絶滅種B】

〔生息環境〕平地～丘陵地の池・湿地などに生息する。

〔過去の分布〕横浜市港北区（高桑、1987）；葉山町下山口（荻部、1989）；藤沢市片瀬（高桑、1987）。

〔調査結果〕最近の実確な記録は葉山町のみであり、発見以来1990年頃までは見られたが年々減少し、調査期間中にも数度の調査を行ったがついに発見できなかったもので、絶滅したものと思われる。ここは丘陵地の山頂近くの凹地に生じた池で、主に降雨によって給水されていた。汚染や開発の心配もなく、発見当時はまさか絶滅するとは思ってもよらなかった。

本種が減少・絶滅していった過程は明らかではないが、1989年頃と較べると池はかなり浅くなり、大きさも縮小している。近年降雨の少ない年には干上がることもあったと言われ、この水位の激減が減少の一つの原因であろう。また、聞き込みによると産地が知られてからは、同地を訪れるトンボ撮影を目的とする愛好家が増え、毎日のように池に踏み込むようになったという。このためか還元状態になった腐植質の泥が踏み込みによってかき回され、特に降雨の少ない夏には水が腐ったような異臭を漂わせるような状況になってしまい、この頃から本種を始めとした水生昆虫の減少が目につくようになったとのことで、狭く流入水のない池であったことがこのような特殊な事例を招いたのかもしれない。後者の与えた影響は明らかではないが、水域への過度の踏み込みに対する一つの警鐘となろう。なお、少なくとも戦前には県内に広く分布していたものと考えられるが、記録は上記の3地点しか残されていない。

○クロゲンゴロウ *Cybister brevis* Aube 【絶滅種危惧F】

〔生息環境〕平地～丘陵地の池・休耕田などに生息する。

〔過去の分布〕横須賀市衣笠（大場、1981）；横須賀市秋谷前田川流域（高桑、1987）；横須賀市秋谷子安（川島、私信）；厚木市上荻野（高桑、1991）。

〔調査結果〕1♀、葉山町下山口、9.X.1993、荻部採集；1♀、愛川町八菅、24.X.1993、高桑目撃。

県内でも、近年まで数地点の多産地があったが、主に農業や排水による水質汚濁や池や休耕田の埋め立てによってここ数年でほぼ壊滅してしまった。他種のところでふれているが、厚木市の産地は池の改修によって、横須賀市の産地は湘南国際村の建設や乾燥化によって絶滅してしまった。調査期間中に確認できたのは、上記の2ヶ所のほか、厚木市における幼虫採集例がある。しかし、かつて多産していた葉山町でも個体数は激減しており

（おそらくマルガタゲンゴロウと同様の原因による）、また確認できた個体数はいずれもごく少なく、そう遠くない将来県内から絶滅してしまうのではないかと危惧される。

●コガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus orientalis* Gschwendtner 【絶滅種C】

〔生息環境〕平地～丘陵地の池・水田・湿地などに生息する。

〔過去の分布〕藤沢市片瀬（高桑、1987）。〔未発表記録〕1♂、平塚海岸、12.VIII.1960、K.Mizusawa採集；1♀、山北、IX.1967、平塚農試。データを伴った記録はこの3例しか探すことができなかったが、かつては低地にごく普通であったと考えられる。

〔調査結果〕県内では1960年代を最後にここ30年ほど記録されていない。本県からは絶滅したものと思われる。本種は *Cybister* 属の中でも特に平地の水田を中心に見られたもので、戦前には普通種であったようだが、農業の大量散布が行われた60年代を境に、西日本の一部を除いてほぼ全国的に姿を消してしまった。県内の他の *Cybister* 属のものが比較的最近まで残存していたのに比べ、かなり早い時期に絶滅してしまったのは、その生息域が最も環境悪化の影響を受けやすい平地の池・水田に限られていたためと思われる。

●ゲンゴロウ *Cybister japonicus* Sharp 【絶滅種？C】

〔生息環境〕平地～山地の水質のよい、水生植物の豊富な池・沼に生息する。農業や下水などによる水質汚染で各地で激減している。

〔過去の分布〕逗子市沼間（大場、1981）；相模湖（高桑、1987）；厚木市上荻野（高桑、1991）；清川村札掛川（槐、1993）など。〔未発表記録〕3 exs.、厚木市上荻野上峰、24.IV.1988、荻部採集。

〔調査結果〕調査期間中には確認できなかった。県内でもかつては普通に見られたはずだが、生息域の水田・池・沼の水質汚染・埋め立てなどによって絶滅に追い込まれたものと考えられる。なお、発表されている実確な記録はごく少ない。

1980年代後半に発見された厚木市上荻野上峰のため池は、湧き水が豊富で水生植物も多い、県内では最後の‘良い池’であり、本種を始めとした各種ゲンゴロウも多く見られた。立地的にも人手の加わりそうにない場所であり、ここだけは残っていくと思われたが、90年代始めから突然行われた池の改修工事によって、県内最後と思われる本種の生息地は面影がないまでに破壊され（特に水質の悪化が著しい）本種も姿を消した。

現在県内では絶滅といっても差し支えない。ただし、今回の調査では確認できなかったが、かつての記録のある相模湖周辺では、まだ生息している可能性もあり、探索の必要がある。

●シャープゲンゴロウモドキ *Ditiscus sharpi sharpi* Wehncke

【絶滅種A】

〔生息環境〕平地～丘陵地の湧き水のある水生植物の豊富な水田・湿地などに生息する。

〔過去の分布〕1♀、横浜、17.VIII.1935、神田重夫採集（阿部、1990）の記録のみ。採集地は現在の横浜市鶴見区三ツ池公園と推定されている。

〔調査結果〕県内からは60年以上記録はない。生息域の水田・池・沼の水質汚染・埋め立てなどによって、すでに絶滅したものと思われる。本種は他のゲンゴロウ類より水深の浅い、湿地的な環境を好み、現在千葉県などで知られる産地は、休耕田や湿田が中心になっている。これらの環境は県内ではすでに破壊しつくされており、わずかに残る山間の水田も近年乾田化が進行している。

本種の記録地と推定される三ツ池公園は、ベッコウトンボなど水質悪化にきわめて敏感なトンボも記録されており、当時は良好な湿地環境が広がっていたものと想像されるが、現在は岸辺も護岸され、水質も悪化し、植生もほぼ消失するなど環境悪化が進み、本種の生息できる環境ではない。

ミズスマシ科

県内からは7種が知られるが、そのうちの6種までが絶滅危惧種と判断される。

○オオミズスマシ *Dineutus orientalis* (Modeer)

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕平地～丘陵地の池・沼などに生息する。

〔過去の分布〕県内に広く分布していた。

〔調査結果〕逗子市池子に生息するという確実な情報を得た。他では確認できなかった。

生息域の池沼の水質汚染・埋め立てなどによって激減したものと考えられる。本科の種のうち、県内で特に危機的状況に陥っているのは止水を生息地とするもので、良好な止水環境がほとんど失われた本県ではきわめて危険な状況にある。

○ミズスマシ *Gyrinus japonicus* Sharp 【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕平地～丘陵地の池沼、河川などに生息する。

〔過去の分布〕県内に広く分布していたものと思われる。

〔調査結果〕5 exs., 藤野町綱子, 8.X.1994, 荇部・高桑採集; 8 exs., 藤野町菅井, 8.X.1994, 荇部・高桑採集; 5 exs., 清川村宮ヶ瀬, 20.IX.1993, 岸採集; 5 exs., 清川村宮ヶ瀬, 30.XII.1993, 岸採集; 1 ex., 厚木市上荻野横林, 15.IX.1993, 岸採集; 2 exs., 厚木市中荻野, 28.III.1995, 荇部採集; 1 ex., 厚木市七沢, 17.IX.1993, 高桑採集。

生息域の池・沼・小川の水質汚染・埋め立てなどによって激減している。本種は、かつてはそれこそどこにでも見られた種であるが、減少が著しい。ただし、本種はかなり小規模な水域でも生息可能なので、この他にも残存する産地はあるものと思われる。

○コミズスマシ *Gyrinus japonicus* Sharp 【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕平地～丘陵地の池沼、河川などに生息する。

〔過去の分布〕県内に広く分布していたものと思われる。

〔調査結果〕2 exs., 藤野町綱子, 8.X.1994, 高桑採集; 3 exs., 藤野町菅井, 8.X.1994, 高桑採集。

前2種同様に、かつてはそれこそどこにでも見られた種であるが、減少が著しい。ただし、本種はかなり小規模な水域でも生息可能なので、この他にも残存する産地はあるものと思われる。

○ヒメミズスマシ *Gyrinus gestroi* Regimbart 【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕平地～丘陵地の池沼、河川などに生息する。

〔過去の分布〕県内に広く分布していたものと思われる。

〔調査結果〕まったく発見できなかった。本種もかなり小規模な水域で生息可能なので、実際にはどこかで生息を続けているものと期待される。

○ツマキレオナガミズスマシ *Orectochilus agilis* Sharp

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕平地～山地の清流に生息する。

〔過去の分布〕かなり珍しい種のようにあり、県内では(守屋, 1991)と(西川・丸山, 1993)における相模川中流域での記録があるにすぎない。

〔調査結果〕1 ex., 藤野町馬本(相模湖), 8.X.1994, 高桑採集。

県内の生息状態がはっきりつかめていないが、相模川中流域では生息は難しいものと考えられる。

○コオナガミズスマシ *Orectochilus punctipennis* Sharp

【絶滅危惧種E?】

〔生息環境〕平地～山地の清流に生息する。

〔過去の分布〕全種同様にかなり珍しい種のようにあり、県内では相模川中流域(守屋, 1991)と道志川(守屋, 1994)の記録を見るにすぎない。

〔調査結果〕1 ex., 愛川町館山中津川, 2.VII.1994, 愛川昆虫調査団採集。

前種同様に、相模川中流域での今後の生息は難しいものと考えられる。

ガムシ科

県内からは31種が知られるが、そのうちの水生の3種が絶滅危惧種と判断される。

○タマガムシ *Amphiops mater* Sharp 【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕低地部の湿地や池沼に生息する。

〔過去の分布〕県内からののはっきりした記録は松田町(田尾, 1988)しか知らないが、かつては低地部に広く分布していたのであろう。〔未発表記録〕1 ex., 横須賀市秋谷前田川流域, 4.V.1986, 高桑採集。

〔調査結果〕1 ex., 逗子市久木, 18.VI.1993, 荇部採集; 1 ex., 逗子市久木, 20.X.1993, 荇部採集。

県内ではなぜか採集例が少ない。農業や水質の悪化などによって衰退したものと考えられる。非常に小さな水域でも見られる種類であるため、各地に残存している可能性もある。

○コガムシ *Hydrochara affinis* (Sharp) 【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕平地～山地の水田・池・沼などに生息する。

〔過去の分布〕県内各地に分布していた。

〔調査結果〕1 ex., 愛川町角田, 2.X.1994, 荇部採集; 1 ex., 山北町丹沢湖, 27.VI.1994, 荇部採集。

生息域の水田・池・沼の水質汚染・埋め立てなどにより、減少が著しい。県内でも1980年代までは普通に見られた種であるが、近年激減している。本種の場合小規模な水たまりや水田でも生息するので、山間部では生き残るものと思われるが、平地ではほぼ壊滅状態である。

○ガムシ *Hydrophilus acuminatus* Motschulsky

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕平地～山地の水生植物の豊富な湿地・池・沼に生息する。農業や下水などによる水質汚染で各地で激

減している。

〔過去の分布〕県内各地に分布していた。

〔調査結果〕2 exs., 愛川町角田, 2. X. 1994, 荻部採集。

本種もかつては県内に広く分布していたが、水田・池・沼の水質汚染・埋め立てなどが進行し、潰滅的な打撃をこうむった。1980年代までは個体数は少ないながらも各地で発見できたが、現在ではほぼ絶滅状態にあるものと考えられる。

今回確認できた愛川町の産地は休耕田で、どこかに生き延びていたものが飛来してきたものと考えられる。現在も潜在的には丹沢山麓部などに残存しているものと思われるが、本来安全な山間部の水田にまで及んでいる乾田化が、本種にとどめをさす可能性もあり、絶滅の危険性が高い。

(以上、荻部治紀・高桑正敏)

エンマムシ科 Histeridae

日本では120種、県内では60種が報告されており、日本で最も多くの種類数を誇る県である。見方を変えれば最もよく調査されている地域である。エンマムシは各種の腐敗物に集まり、ハエのウジなどを捕食する種が多いが、砂地に生息するものや、アリの巣などに寄生するグループもある。ここで問題となるのは砂地に生息する種類で、県内ではルリエンマムシ、ドウガネエンマムシ、カラカネハマベエンマムシ、ヤマハマベエンマムシ、ヒメハマベエンマムシ、ニセハマベエンマムシ、ハマベエンマムシ、ツヤハマベエンマムシの8種が該当する。このうち、ヤマハマベエンマムシのみは山地の河川敷に生息しているが、他の7種はいずれも海岸の砂地に見られる。絶滅種と思われるものが1種、絶滅危惧種と思われる種が3種、減少が目立つ種が3種、希少種が6種認められる。

▲ツツエンマムシ *Trypeticus fagi* (Lewis) 【希少種】

〔生息環境〕ブナ帯の大木の樹皮下に生息する。キクイムシなどを捕食しているものと思われる。

〔過去の分布〕丹沢堂平(平野, 1985)の記録のみ。

〔調査結果〕最近でも採集されているが、堂平だけで他からは得られていない。

▲チャイロムネミゾツブエンマムシ *Plegaderus shikokuensis* Hisamatsu 【希少種】

〔生息環境〕ブナ帯の大木の樹皮下に生息する。

〔過去の分布〕丹沢堂平(平野, 1986)の報告のみ。

〔調査結果〕その後まったく採集されない。

▲ムネミゾツブエンマムシ *Plegaderus marseuli* Reitter 【希少種】

〔生息環境〕樹皮下に生息する。

〔過去の分布〕城山町(沢田, 1989)の記録だけである。

〔調査結果〕その後まったく採集されない。

○ルリエンマムシ *Saprinus splendens* (Paykull)

【絶滅危惧種 F】

〔生息環境〕昔は家庭に設置した木製の黒いゴミ箱が発生源であったが、現在は衛生的なポリ袋となり、すぐに収集するためまったく見られなくなった。もともとは沿岸性のものと思われ、稀に海岸で発見される。腐敗物や糞

のウジを捕食する有益な天敵とされている。

〔過去の分布〕横浜市緑区(田尾, 1987), 三浦市城ヶ島(平野, 1981), 座間市(西川・丸山, 1993), 茅ヶ崎市(田尾・岸, 1993), 小田原市(平野, 1972), 真鶴(平野, 1972)。県内の沿岸地域にきわめて普通であった。

〔調査結果〕筆者らはここ数年、まったく発見できないでいる。

○ドウガネエンマムシ *Saprinus planiusculus* Motschulsky

【絶滅危惧種 E】

〔生息環境〕海浜や河川などで魚介類の腐敗したものなどに集まる。

〔過去の分布〕小田原市(平野, 1972)と津久井湖(平野, 1993)の記録のみ。津久井湖の記録は1990年に採集されたもの。

〔調査結果〕ここ数年、まったく発見できない。

○ヤマハマベエンマムシ *Hypocaccus subaenus* (Schmidt)

【絶滅危惧種 D】

〔生息環境〕山地の河川敷などの砂地に生息する。クマの糞から採れたという報告もあるが、やはり腐敗物にいるハエ類のウジなどを捕食するものと考えられる。

〔過去の分布〕西丹沢の西沢出合の河川敷から数頭採れた(平野, 1985)だけである。

〔調査結果〕1992年には生息を確認(西沢出合, 4. IV. 1992, 平野幸彦採集)したが、1993年にこの場所はキャンプ場となり、生息場所はまったく破壊された。別の場所に生息しているかどうか確認は難しい。

△カラカネハマベエンマムシ *Hypocaccus lewisi* (Schmidt)

【減少種 G】

〔生息環境〕海岸の砂地に生息する。海藻やゴミの下などから見つかるが草の根際にも生息している。

〔過去の分布〕従来の記録は三浦市三津浜(平野, 1981)のみ。

〔調査結果〕鎌倉市七里ヶ浜(3. X. 1994, 平野幸彦採集)で確認できたが、きわめて少ないようである。

○ヒメハマベエンマムシ *Hypocaccus asticus* Lewis

【絶滅危惧種 E】

〔生息環境〕海岸の砂地に見られる。特に海浜植物の根際に潜っていることが多い。食性などの生態は不明だが、海浜植物がないと発見できないことから、植物と何らかの関係があるものと思われる。しかし、食肉性であろう。

〔過去の分布〕横須賀市芦名(沢田, 1986), 葉山町下山口(沢田, 1986), 三浦市三浦海岸(田尾, 1987), 藤沢市(平野, 1986)。

〔調査結果〕鎌倉市由比ヶ浜(1. XI. 1992, 平野幸彦採集)及び、鎌倉市七里ヶ浜(3. X. 1994, 平野幸彦採集)で確認できたが、鎌倉市由比ヶ浜の海岸は砂が減少し、他から砂を運び込んでいるとのこと、生態系に悪影響を及ぼさないかと危惧している。

△ニセハマベエンマムシ *Hypocaccus sinai* (Marseul)

【減少種 G】

〔生息環境〕海岸の砂地の海藻やゴミの下などからハマベエンマムシと共に見つかるが、少ない種である。また、河川敷の砂地でも稀に発見される。

〔過去の分布〕川崎市高津区(沢田, 1987), 三浦市三津

浜（平野，1981），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993），海老名市・中新田（沢田，1987），小田原市（平野，1972），西丹沢・西沢（平野，1987）の記録があるが，数は少ない。

〔調査結果〕最近はどういうわけかさらに少なくなったようで，なかなか発見できない。

△ツヤハマベエンマムシ *Eopachylopus ripae* (Lewis)

【減少種 G】

〔生息環境〕本種も海岸の砂地に生息する。赤紋を装う個体 (f. *tsherskii* Reichardt) もあるが，きわめて稀である。詳しい生態は知られていない。

〔過去の分布〕大磯町（沢田，1986），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）の記録のみ。

〔調査結果〕今回，田尾の調査により鎌倉市七里ヶ浜でえられたが，他からの情報はなく，少なくなったようである。

▲ニセセスジエンマムシ *Onthophilus aonoi* M. Ohara et Nakane

【希少種】

〔生息環境〕落葉下に生息する。

〔過去の分布〕小田原（平野，1988）の記録のみ。

〔調査結果〕その後，まったく発見されない。

▲ヘリナガエンマムシ *Platysoma vagans* Lewis

【希少種】

〔生息環境〕山地の朽木や倒木の樹皮下に生息する。

〔過去の分布〕丹沢堂平（西川，1992）の記録のみ。

〔調査結果〕最近でも採集されているが堂平のみで，他からは得られていない。

▲ノッポロヒメエンマムシ *Margarinotus yezoensis* M. Ohara

【希少種】

〔生息環境〕平野はヘビの死体から得た。

〔過去の分布〕丹沢浅瀬 (M. Ohara, 1989) の原記載の記録のみ。

〔調査結果〕その後，まったく採集されない。

▲ヒラタカクヒメエンマムシ *Margarinotus kurbatovi* (Tishechkin)

【希少種】

〔生息環境〕ブナの樹皮下に生息。

〔過去の分布〕丹沢三国山，堂平（平野，1994）。

〔調査結果〕2ヶ所から発見されているが，ごく限られた場所にしか生息していないと思われ，1994年には採れなかった。

タマキノコムシ科 Leiodidae

タマキノコムシは日本から 50 種ほど知られ，神奈川県では 27 種の記録がある。キノコや朽木，落葉下から発見される。微小なものが多く未記録種が多数ある。ここでは希少種 2 種をあげる。

▲タケイオオタマキノコムシ *Leiodes fracta* (Seidlitz)

【希少種】

〔生息環境〕落葉の中などに生息しているものと思われる。

〔過去の分布〕丹沢ユーシン（平野，1993）の記録のみ。

〔調査結果〕1984 年に採集されて以来，採れない。

▲ヒトツメタマキノコムシ *Liodopria maculicollis* Nakane

【希少種】

〔生息環境〕山地のキノコに生息すると思われるが，詳しい生態は不明。

〔過去の分布〕丹沢堂平（平野，1985）のみの記録。

〔調査結果〕その後，まったく発見されない。

ヒゲブトチビシデムシ科 Colonidae

日本からは 6 種が記録されている小さなグループで，神奈川県からは 2 種の報告がある。落葉下やキノコから発見されるが，アリの巣に生息する種もある。

▲アリスヒゲブトチビシデムシ *Colon* (*Myloechnus*) *appendiculatum* (Sahlberg)

【希少種】

〔生息環境〕クロヤマアリの巣から得られた。

〔過去の分布〕日本では小田原市（西川，1988）の記録のみ。

〔調査結果〕1980 年に発見されたが，それ以後まったく採れない。

チビシデムシ科 Catopidae

日本では 40 種ほど記録されており，神奈川県では 19 種の報告がある。主に腐敗動植物に見られ，なかには洞窟や地中に生息するものもある。いずれも 5 mm 以下の微小なものが多い。ここでは希少種として 1 種あげる。

▲ホソアシチビシデムシ *Cholevodes tenuitarsis* Portevin

【希少種】

〔生息環境〕山地の大木の樹皮下などに生息する。

〔過去の分布〕丹沢堂平（平野，1993）。全国的にみても 2～3 例の記録しかない。

〔調査結果〕堂平以外では発見されていない。

シデムシ科 Silphidae

日本では 38 種，県内では 18 種の報告がある。ほとんどのシデムシは動物の腐肉を食べる清掃人だが，チョウ・ガ類の幼虫やカタツムリなどを食べるものもある。また，ツヤシデムシ族の仲間は石の下，朽木等に生息し，キノコや花に集まる種もあるが，いずれも食肉性の甲虫である。この中で問題となるのは海岸に生息するオニヒラタシデムシと河川敷などに多く生息しているヤマトモンシデムシである。2 種が絶滅危惧種，1 種が減少種である。

○ヤマトモンシデムシ *Nicrophorus japonicus* Harold

【絶滅危惧種 F】

〔生息環境〕河川敷や荒地などに生息する。林に入るとヨツボシモンシデムシが多くなる。動物の腐肉に集まり，しばしば灯下に飛来する。

〔過去の分布〕横須賀市追浜（鈴木，1966），秦野市（平野，1957），相模原市（相模原市教育委員会，1991）。県内各地に普通に見られたが，最近の報告は少なくなってしまった。

〔調査結果〕過去 2 年間，見ていない。相模川に卡ろうじて生息しているか？

△ヒメヒラタシデムシ *Thanatophilus sinuatus* (Linne)

【減少種 H】

〔生息環境〕各種の腐敗物に多く，ゴミ捨場などによく見られる。海岸にも生息する。

〔過去の分布〕横浜市緑区寺家町（高桑，1991），横浜市金沢八景（鈴木，1966），横須賀市秋谷（鈴木，1966），三浦市城ヶ島（鈴木，1966）座間市（西川・丸山，1993），

小田原（平野，1957），西丹沢浅瀬（平野，1972）。〔未発表記録〕1 ex.，小田原海岸，27.II.1971，平野幸彦採集；2 exs.，箱根早雲山，13.IX.1970，平野幸彦採集；1 ex.，秦野市菩提，5.IV.1973，平野幸彦採集。

以前は海岸から山地にかけて各地に普通であった。

〔調査結果〕田尾の調査で三浦市金田海岸で得られたが，他の情報は聞いている。横浜市円海山の調査（久保他，1993）や大和市の昆虫調査（平野他，1991），茅ヶ崎市の報告（田尾・岸，1993）にも記載されていないので，少なくなったことは明らかである。

○オニヒラタシデムシ *Thanatophilus rugosus* (Linne)
【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕前種と同様，海岸のゴミの下などに生息する。
〔過去の分布〕横浜市金沢文庫（鈴木，1966），三浦市三崎町（鈴木，1982）の2例のみ。

〔調査結果〕最近の報告はまったくない。海岸を調査しても発見できない。絶滅した可能性も考えられる。

ハネカクシ科 Staphylinidae

日本で最も種類数の多いグループで，現在1000種以上の種が記録されているが，少なくともその2倍以上の種が生息しているだろうと言われている。県内では440種以上の報告があるが，かなりの追加種がある。ハネカクシの生態は多岐多様にわたり，食植性，食腐性，食肉性のものから他の動物に寄生するもの，アリやシロアリと共生するものなど興味深い種類もある。分布範囲も海岸から高山まで，さらに地中に生息するものもある。ここで問題となるのはやはり海岸に生息する種である。海岸に見られる種でも砂地に生息するグループと岩礁地帯に生息する種とに大別される。神奈川県に生息する砂地にいる種類はツヤウミベハネカクシ，アバタウミベハネカクシ，ホソアバタウミベハネカクシ，アカウミベハネカクシ，ホソウミベハネカクシ，ツマグロアカバハネカクシ，ウミベアカバハネカクシ，カタモンハネカクシなどが知られている。これらの種はいずれも打ち寄せられたゴミや海藻の下から発見されるが，どういう訳か少なくなりつつある。岩礁地帯に生息する種にはオオズミハネカクシ，ウスアカウミハネカクシ，*Diaulota pacifica* Sawada，ウミハネカクシなどがあり，いずれも潮間帯に生息し，石下や海藻中で小さなヨコエビ類などを食うという。県内の分布は三浦半島と真鶴半島に限られ，特殊な環境に生息していることから環境に弱い種と思われる。ここでは砂地にいるカタモンハネカクシを減少種と認めるにとどめ，希少種として代表的なものを4種をあげる。

▲キイロツヤシデムシ *Camioleum loripes* Lewis
【希少種】

〔生息環境〕溪流の石下などに生息する。

〔過去の分布〕西丹沢棚沢（平野，1993）。

〔調査結果〕生息環境が他では見られないゆえか，1994年には見つけられなかった。

▲メダカオオキバハネカクシ *Megalopsidia japonicus* Nakane
【希少種】

〔生息環境〕平野は道に落ちていた木の下から採集した。

〔過去の分布〕小田原（平野，1981）の記録のみ。

〔調査結果〕その後，採集されない。

△カタモンハネカクシ *Liusus hilleri* (Weise) 【減少種H】
〔生息環境〕海岸の海藻やゴミの下に生息する大型の種である。

〔過去の分布〕三浦市長浜（Naomi，1982），三浦市三戸海岸（平野，1984）。〔未発表記録〕2 exs.，横須賀市天神島，1.V.1984，平野幸彦採集。

〔調査結果〕最近，採集したという情報はない。何回かの海岸調査でも得られなかった。

▲ドウガネアナバケハネカクシ *Syntomium japonicum* Y.Watanabe et Y.Shibata
【希少種】

〔生息環境〕樹木に生えたコケ類の中に生息する。

〔過去の分布〕箱根姥子（Y.Watanabe et Y.Shibata，1960）の原記載の記録のみ。

〔調査結果〕その後，まったく発見できない。

▲オオズミハネカクシ *Liparocephalus tokunagai* Sakaguchi
【希少種】

〔生息環境〕海岸の岩礁地帯の潮間帯に生息する。

〔過去の分布〕三浦市油壺（柴田，1986）だけの記録である。

〔調査結果〕他から採集されたという情報はない。

アリヅカムシ科 Pselaphidae

4 mm以下の微小な甲虫で，主に落葉下に生息しているが，アリと共生する種もある。日本では200種ほどが記録されているが，研究が不十分で，1000種を越す種が生息しているものと思われる。神奈川県では66種報告され，他県よりは調査されているが，未記録種が多い。ここでは2種を希少種としておく。

▲ヒラズイソアリヅカムシ *Thalassomerus reikoeae* K.Sawada
【希少種】

〔生息環境〕最近発見された種で，磯の潮間帯に生息する。

〔過去の分布〕真鶴岬（Sawada，1992）の原記載の記録のみ。

〔調査結果〕調査に行かれなかったが，特殊な環境に生息するので，真鶴半島の荒廃を見ると絶滅の危惧を感じる。

▲*Noduliceps latifrons* (Sharp)
【希少種】

〔生息環境〕生態はわからない。春に見つかっている。

〔過去の分布〕箱根宮の下（Sharp，1883）。

〔調査結果〕記載以後県内では発見されていない。東京都で採集されたものがあるので，発見できるものと思っている。

クワガタムシ科 Lucanidae

日本では38種の報告があり，神奈川県では15種の記録がある。一部の大人や子供たちに人気があるが，思ったほど記録がない。やや普通のノコギリクワガタ，コクワガタ，ミヤマクワガタ，ヒラタクワガタ，スジクワガタ，アカアシクワガタ以外はあまり採れないからかもしれない。成虫は朽木などに産卵し，幼虫は木の中で生活する。樹液に集まる種が多い。現在，クワガタムシ科そのものが少なくなりつつある。特に平地産のクワガタは顕著である。これらの原因は明らかに雑木林の減少にあ

ると考えられる。県内では絶滅種 1 種、絶滅危惧種 1 種をあげる。

○オオクワガタ *Dorcus hopei* (E.Saunders)

【絶滅危惧種 E】

〔生息環境〕クヌギなどの大木に生息している。

〔過去の分布〕横浜市豊顕寺（岩瀬，1937），逗子市神武寺付近（青柳，1939），横須賀市秋谷（志村，1988），平塚市（木附，1991）の 4 例のみ。

〔調査結果〕横浜，三浦半島では絶滅。湘南の一部に生息しているか？

●ネブトクワガタ *Aegus laevicollis* E.Saunders 【絶滅種 B】

〔生息環境〕平地に生息する。南の方に多い種である。

〔過去の分布〕1954 年に採集された横須賀市公郷町（大場他，1981）の記録のみ。

〔調査結果〕その後まったく報告がない。再捕獲されないとは言えないが，現時点では絶滅種と思われる。

コブスジコガネ科 Trogidae

日本には 11 種を産する小さなグループである。神奈川県ではオオコブスジコガネ，ヒメコブスジコガネ，アイヌコブスジコガネ，チビコブスジコガネの 4 種が分布している。ヒメコブスジコガネ以外は少ない種で，動物の古い死骸や糞，ペリットなどに来集し，灯下に飛来する。そのうちの 1 種が絶滅危惧種にあたる。

○オオコブスジコガネ *Trox obscurus* Waterhouse

【絶滅危惧種 D】

〔生息環境〕平地性のもので全国的にみても少ない種である。燈火にも飛来する。

〔過去の分布〕1972 年，小田原市（平野，1981）で発見されただけである。

〔調査結果〕その後，気を付けているが，まったく得られていない。今後，10 年間採集されなければ絶滅種と見なすべきである。

コガネムシ科 Scarabaeidae

コガネムシ科は日本で約 400 種知られ，県内では 130 種あまりが生息している。その食性から食糞性のものと食葉性のものとに大別される。食糞性のものは別名糞虫と言われ，センチコガネ，エンマコガネ，マグソコガネの仲間を言う。日本にはいないが，スカラベと言われる「糞転がし」もこのグループである。食葉性のものはほとんどが植物の根などを食害する。一部のものは害虫として知られているが，大害をあたえることは少ない。成虫は樹液などに来るものもあるが，燈火に飛来することが多い。コガネムシ科で問題となるのは平地産の大型の種でいずれも減少が著しい。コガネムシ，クロカナブン，アオカナブンなども減少種に含めるべきかもしれない。ここでは絶滅種 3 種，絶滅危惧種 3 種，減少種 7 種を挙げておく。

○アカマダラセンチコガネ *Ochodaeus macilatus* Waterhouse

【絶滅危惧種 E】

〔生息環境〕生態はよくわからないが，逗子市桜山ではススキの原を低く飛翔していたという。

〔過去の分布〕逗子市神武寺（大場他，1981），逗子市桜

山（大場他，1981）の記録のみ。

〔調査結果〕その後の情報はまったくない。

△ムネアカセンチコガネ *Bolbocerosoma nigroplagiatum* (Waterhouse) 【減少種 H】

〔生息環境〕キノコから採った報告の他，燈火に飛来することがある。

〔過去の分布〕横浜市金沢区（大場他，1981），中区間門町（和田，1982），瀬谷区善部町（和田，1982），戸塚区原宿（和田，1984），磯子区（石渡，1989），横須賀市坂本町（大場他，1981），横須賀市猿島（柴田，1952），藤沢市亀井野（岩田，1991），厚木市船子（下村・鈴木，1981），箱根（長尾，1970）など多くの記録がある。

〔調査結果〕顕著な種であるが，最近採れたという情報が少ない。

●ダイコクコガネ *Copris ochus* Mostchulsky 【絶滅種 C】

〔生息環境〕獣糞に見られ，牛などの放牧場に多いが，全国的に少なくなっている。どちらかと云えば平地に分布する種である。燈火に飛来することもある。

〔過去の分布〕小田原市（山口，1958）の記録以外にない。昔は牛馬の飼育が盛んであったので，広く分布していたと想像される。

〔調査結果〕大型のコガネムシなので，生息していれば報告があるはずである。ここ 30 年以上注意してきたが，まったく見られない。絶滅したものと考えられる。

○ナガスネエンマコガネ *Onthophagus ohbayashii* Nomura

【絶滅危惧種 F】

〔生息環境〕平地の牧場などに見られる。

〔過去の分布〕相模原市淵野辺（長尾，1972）の記録のみ。牛馬の飼育が盛んだった頃は広く分布していたと思われる。

〔調査結果〕その後まったく得られていない。今後 10 年間発見されなければ絶滅種となる。

△オオフタホシマグソコガネ *Aphodius* (*Aphodius*) *elegans* Allibert 【減少種 G】

〔生息環境〕平地から低山地にかけて分布。牛などの獣糞にいる。丹沢札掛では鹿糞に来ていたものを観察したことがある。

〔過去の分布〕横須賀市長浦町（大場他，1981），丹沢諸戸（西川，1979）。

〔未発表記録〕1 ex., 丹沢札掛，4 .X.1981；1 ex., 西丹沢大野山，2 .X.1982。

〔調査結果〕1993 年丹沢大野山で確認したが，他からの報告はない。三浦半島などでは絶滅したものと思われる。

△アイヌケシマグソコガネ *Psammodyus ainu* Lewis

【減少種 G】

〔生息環境〕海岸の砂地に生息する。

〔過去の分布〕葉山町下山口（沢田，1985）の記録だけだった。

〔未発表記録〕6 exs., 鎌倉市由比ヶ浜，10.X.1989，平野幸彦採集。

〔調査結果〕鎌倉市七里ヶ浜の調査では採れなかった。

△ヤマトケシマグソコガネ *Psammodyus japonicus* Harold 【減少種 G】

〔生息環境〕海岸の砂地に生息する。

[過去の分布] 横須賀市秋谷 (沢田, 1985), 茅ヶ崎市東海岸 (沢田, 1985)。

[調査結果] 鎌倉市由比ヶ浜 (1.XI.1992.平野幸彦採集) で確認, 田尾の鎌倉市七里ヶ浜の調査でもとれたが, 少なくなったようである。

△ヒゲコガネ *Polyphylla laticollis* Lewis 【減少種H】

[生息環境] 海岸付近や河原などに生息している。

[過去の分布] 横浜市綱島 (吉田, 1967), 横浜市緑区 (土屋・焼田, 1990), 鎌倉市手広 (大場他, 1981), 相模原市大島河原 (相模原市教育委員会, 1991), 相模原市番田, 厚木市倉見, 海老名市門沢橋 (和田, 1984), 座間市 (西川・丸山, 1993), 寒川町 (黒沢, 1993), 茅ヶ崎市 (平井, 1983), 小田原 (平野, 1981), 丹沢宮ヶ瀬 (平野, 1981) など以前は各地に広く分布していた。

[調査結果] 現在唯一の発生地と知られた厚木市の相模川は激減したとの情報がある。

△シロスジコガネ *Polyphylla albolineata* (Mostchulsky) 【減少種H】

[生息環境] 海岸付近の松林などにきわめて多かった。燈火にも多く飛来する。

[過去の分布] 横須賀市野比 (大場他, 1981), 三浦市上宮田 (大場他, 1981), 三浦市初声 (石渡, 1981), 逗子市新宿 (鈴木, 1965), 鎌倉市手広 (鈴木, 1965), 茅ヶ崎市 (田尾・岸, 1993) 小田原市 (平野, 1981), 箱根大平台 (平野, 1981), 沿岸地域にきわめて多かった。

[調査結果] ここ2年間筆者は見えていない。円海山地域でも発見されていない。

●オオダイセマダラコガネ *Blitopertha ohdaiensis* (Sawada) 【絶滅種A】

[生息環境] 草地に生息する。全国的にみても産地はごく限られる。

[過去の分布] 1965年の箱根下双子の記録しかない。この標本は故野村鎮氏のコレクションにあるはず。

[調査結果] 箱根下双子は現在, 立ち入り禁止。その後まったく報告がない。草地にかりうじて生息していたものが, 環境悪化のために絶滅したものと考えられる。再発見される可能性がないわけではない。

△アカマダラコガネ *Poecilophilides rusticola* (Burmeister) 【減少種H】

[生息環境] 平地の雑木林でクヌギやコナラなどの樹液に集まる。

[過去の分布] 横浜市金沢区 (大場他, 1981), 横浜市緑区 (大木, 1990; 土屋・焼田, 1990), 葉山町長柄 (大場他, 1981), 横須賀市衣笠 (柴田, 1955), 横須賀市秋谷 (中山, 1989), 大楠山 (柴田, 1955), 大船天園 (井本, 1968), 藤沢市川名 (上田, 1992), 小田原 (佐藤, 1966), 秦野震生湖 (高橋, 1967) など平地の記録が多い。

[調査結果] ここ2年間採ったと言う情報がない。上田の報告は1975年に得られたもの。

●シラホシハナムグリ *Protaetia brevitarsis* (Lewis) 【絶滅種C】

[生息環境] 平地の雑木林でクヌギやコナラなどの樹液に集まる。

[過去の分布] 横須賀市 (大場他, 1981) で1958年採集

されたもののみ。他にも横浜市などで記録があるが, シロテンハナムグリの可能性が高い。

[調査結果] 最近, 20年間発見されていないので, 絶滅したものと思われる。

○ムラサキツヤハナムグリ *Protaetia cataphracta* Arrow 【絶滅危惧種E】

[生息環境] 平地の雑木林でクヌギやコナラなどの樹液に集まる。花にも来る。

[過去の分布] 逗子市神武寺, 葉山町長柄, 横須賀市田浦 (大場他, 1981) の記録のみで, 三浦半島だけである。

[調査結果] 最近10年間, まったく情報が無い。絶滅したのかも知れない。

▲オオヒラタハナムグリ *Charitovalgus fumosus* (Lewis) 【希少種】

[生息環境] むは花に, ♀は朽木などに見られる。

[過去の分布] 丹沢堂平 (平野, 1994) の記録のみ。

[調査結果] 堂平以外では生息が確認されていない。

タマキノコムシモドキ科 Clambidae

微小な甲虫で, 日本では9種の記録がある小さなグループである。神奈川県では4種の報告がある。落葉下や植物質の腐敗したものなどに集まる。希少種1種をあげる。

▲ミフシタマキノコムシモドキ *Acalyptomerus asiaticus* Crowson 【希少種】

[生息環境] 平野はワラの下から発見した。

[過去の分布] 山北町塩沢 (平野, 1992) のみ。

[調査結果] かなり注意しているが, 再発見にはいたらない。

マルハナノミ科 Helodidae

日本では40種ほどが知られ, 県下では13種の記録がある。幼虫は水生であるので, 成虫は溪流や湿地などに多い。大木のくぼみに溜った水からも発生する。1種, 希少種としてあげる。

▲ムツボシマルハナノミ *Priocyphon sexmaculatus* Lewis 【希少種】

[生息環境] 木のくぼみの溜り水から発生しているのではない。

[過去の分布] 丹沢堂平 (平野, 1994) から2個体得られたもののみ。

[調査結果] 堂平以外からは採れなかった。

タマムシ科 Buprestidae

日本では205種が報告されており, 県内では63種の記録がある。タマムシはすべてが植物を食する。大型のものは材に小型のものは葉の中にもぐりこむ種もある。平地の大型種は, 詳しい理由は分からないが, 確実に減少している。ここではあえてウバタマムシ, ヤマトタマムシ (タマムシ) を減少種に含めたい。絶滅種と思われるものが2種, 絶滅危惧種と思われる種が1種, 減少が目立つ種が3種, 希少種1種が認められる。

▲トゲフタオタマムシ *Dicerca tibialis* Lewis 【希少種】

[生息環境] 杉, 桧, モミなどの針葉樹につき, 樹皮下で

成虫越冬する。

〔過去の分布〕県内では大山（高桑，1981）と津久井道志山（大坪，1992）のみ。

〔調査結果〕上記以外で採れたということを聞いていない。

●クロマダラタマムシ *Nipponobuprestis querceti* (E.Saunders) 【絶滅種B】

〔生息環境〕エノキの枯材につく。

〔過去の分布〕1959年の逗子の記録（秋山，1980）のみ。

〔調査結果〕それ以後の記録はない。再発見の可能性がないわけではないが、現時点では絶滅したものと考えられる。

△ウバタマムシ *Chalcophora japonica* (Gory) 【減少種H】

〔生息環境〕マツ類の枯材につく。

〔過去の分布〕川崎市登戸（高桑，1981），横浜市中区，南区，港南区（高桑，1981），鎌倉市十二所（高桑，1981），横須賀市追浜，大楠山，天神島（高桑，1981），三浦市引橋（高桑，1981），大和中央林間（高桑，1981），厚木市七沢（高橋，1987），大磯町湘南平～高麗山（高桑，1981），小田原市久所，城山（高桑，1981），大和市（平野他，1991），座間市（西川・丸山，1993），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）など各地に広く分布。

〔調査結果〕ここ数年，きわめて少なくなった。

△タマムシ（ヤマトタマムシ） *Chrysochroa fulgidissima* (Schonherr) 【減少種H】

〔生息環境〕エノキ，ケヤキ，サクラ，カシ類などの枯木につく。以前はよくエノキの樹上を飛び回っているのを観察できた。

〔過去の分布〕横浜市中区，南区，磯子区（高桑，1981），横須賀市馬堀（高桑，1981），三浦市三崎（高桑，1981），座間市（高桑，1981），海老名市中新田（高桑，1981），大磯町湘南平～高麗山（高桑，1981），小田原市久野（高桑，1981），相模湖町（高桑，1981），津久井町中野（高桑，1981），大和市（平野他，1991），座間市（西川・丸山，1993），厚木市七沢（高橋，1987），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）など各地に広く分布している。

〔調査結果〕最近，あまり見かけなくなった。川崎市麻生区産甲虫目録（倉形，1993）には記載されておらず，都市化の激しい所はいなくなったのではないか。

△クロタマムシ *Buprestis haemorrhoidalis* Herbst

【減少種H】

〔生息環境〕マツ類，モミ類，エゾマツ類の枯材につく。

〔過去の分布〕厚木市飯山（高桑，1981），藤沢市川名（高桑，1981），大磯町湘南平～高麗山（高桑，1981），茅ヶ崎市（田尾・岸，1993）など。

〔調査結果〕最近，少なくなった。

○アヤムナピロタマムシ *Sambus quadricolor* E.Saunders

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕イヌビワ，ハマビワ，オオイタビなどにつく。

〔過去の分布〕横須賀市猿島（大場，1978；藤田，1980；高桑，1981），三浦市観音崎（塩崎，1981）の記録のみ。本州では神奈川県だけに生息している。

〔調査結果〕横須賀市猿島は渡航できず，調査は不可能。1981年以後の記録はない。

●クロチビタマムシ *Trachys pseudoscrobiculata* Obenberger

【絶滅種A】

〔生息環境〕加害植物は未知。フウロソウにつくのではないかとされている。

〔過去の分布〕1972年小田原市城跡公園で得られた記録（平野，1965）だけである。

〔調査結果〕それ以後，注意しているが，再発見にはいたらない。小田原市城跡公園の環境では現在，生息することは不可能。

コメツキダマシ科 Eucnemidae

日本では70種ほどの記録があるが，未記録種が多い。神奈川県では26種が記録されている。朽木や枯木に集まる。ここでは希少種2種をあげる。

▲シコクカクムネコメツキダマシ *Melasis shikokuensis* Hisamatsu 【希少種】

〔生息環境〕山地の朽木などに生息する。

〔過去の分布〕箱根神山（1988）の記録のみ。

〔調査結果〕その後，まったく見られない。

▲オオナカミゾコメツキダマシ *Rhacopus olexai* (Hisamatsu) 【希少種】

〔生息環境〕朽木や枯木に集まる。

〔過去の分布〕石老山（平野，1987）の記録のみ。

〔調査結果〕その後，採集されない。

コメツキムシ科 Elateridae

日本では約600種，神奈川県では135種の報告があるが，県内の調査は不十分である。成虫は花や樹液に集まるものや葉上，地上，石下などに見られる。主に食植性だが食肉性のものもあり，幼虫は土中や朽木に生息する。大型の種が問題で，絶滅危惧種，減少種，希少種を1種ずつ挙げておく。

△ウバタマコメツキ *Paracalais berus berus* (Candeze)

【減少種H】

〔生息環境〕枯れた松などの樹皮下に見られる。

〔過去の分布〕横浜市金沢区（塚原，1979），大和市（平野他，1991），座間市（西川・丸山，1993），厚木市七沢（高橋，1987），大磯町（高桑，1981）など。

〔調査結果〕1994年，厚木市で得られたものを見ているが，最近，特に少なくなった。川崎市麻生区（倉形，1993），茅ヶ崎市の調査（田尾・岸，1993）では記録がない。松喰虫の薬剤散布をしている所は絶滅したと思われる。

○フタモンウバタマコメツキ *Paracalais larvatus* (Candeze)

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕樹皮下に見られる。

〔過去の分布〕藤沢市鶴沼（上田，1984）の記録のみ。

〔調査結果〕大型の種なので採れれば情報があるはず。

▲ダイミョウコメツキ *Anostirus daimio* (Lewis) 【希少種】

〔生息環境〕山地の花などに集まる。

〔過去の分布〕丹沢堂平（平野，1987）の記録のみ。

〔調査結果〕顕著な種なので，採集されていれば情報があるはず。

ジョウカイボン科 Cantharidae

日本では100種ほどの記録があるが、調査研究が不十分で相当数の未記録種がある。成虫は花上や葉上で小昆虫を捕らえて食う。幼虫は林床に生活し、捕食性である。神奈川県では65種の記録があり、他県に比してよく調べられている。希少種3種をあげる。

▲コバネチビジョウカイ *Caccodes niponicus* (Kiesenwetter)
【希少種】

〔生息環境〕生態はよくわからない。

〔過去の分布〕1955年に得られた逗子市（高橋，1992）の記録のみ。

〔調査結果〕その後得られていない。

▲クシヒゲジョウカイ *Laemoglyptus pectinatus* (Lewis)
【希少種】

〔生息環境〕南方系の種と思われるが、生態など不明。

〔過去の分布〕大平台（平野，1977）の記録のみ。

〔調査結果〕それ以後の採集報告はない。

▲ブランクッチコバネジョウカイ *Trypherus atratulus* Brancucci
【希少種】

〔生息環境〕生態はよくわからない。

〔過去の分布〕1988年に得られた丹沢玄倉（高橋，1992）の報告のみ。

〔調査結果〕その後、採集されていない。

ヒメトゲムシ科 Nosodendridae

全世界中に45種ほど、日本では2種しか知られていない。樹液や樹皮下より発見される小さな甲虫である。神奈川県は1種だけ記録されている。

▲ケモンヒメトゲムシ *Nosodendron asiaticum* Lewis
【希少種】

〔生息環境〕山地のニレなどの樹液に集まる。

〔過去の分布〕丹沢堂平（平野，1993）のみ。

〔調査結果〕1994年には採れなかった。

シバンムシ科 Anobiidae

日本からは60種ほどのものが記録されている。神奈川県では25種の報告がある。食性から食材性のものと食菌性ものとに分けられる。中には乾燥動植物を食べたりして害虫と呼ばれるものもある。ここでは希少種として2種をあげる。

▲ニセオオナガシバンムシ *Priobium persimile* Nakane
【希少種】

〔生息環境〕よくわからない。

〔過去の分布〕真鶴岬（平野，1989）のみの記録。

〔調査結果〕その後、採れない。

▲ホソアシシバンムシ *Nesocoelopus miyatakei* Sakai
【希少種】

〔生息環境〕真鶴ではライト・トラップに多数飛来した。沿岸性のものらしい。

〔過去の分布〕真鶴岬（平野，1984）のみの記録。

〔調査結果〕その後、採れない。

コクヌスト科 Trogossitidae

コクヌスト科、マルコクヌスト科、チビコクヌスト科

の3科に分ける考えもあるが、ここでは1科として扱う。食菌性のものが多いが、食花粉性や穀物を食う害虫もある。日本では20種が記録されているが、県内の報告は8種のみ。1種を希少種とする。

▲ユヤマセダガコクヌスト *Thymalus punctidorsum* Lewis
【希少種】

〔生息環境〕サルノコシカケなどの堅いキノコに生息する。

〔過去の分布〕相模大山（石田，1985）のみの記録。

〔調査結果〕その後、採れない。

カッコウムシ科 Cleridae

日本では50種ほど記録されており、神奈川県では16種の報告がある。いずれの種も食肉性である。河原に生息する種の1種が絶滅危惧種に該当する。

○ヤマトヒメメダガカッコウムシ *Neohydnum hozumii* Nakane
【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕河口や湿地のヨシ草原に生息している。

〔過去の分布〕川崎市多摩川（芳賀，1984），座間市（西川・丸山，1993）の記録のみ。

〔調査結果〕最近採れない。多摩川は年々環境が悪化していて絶滅の恐れがある。

ジョウカイモドキ科 Melyridae

日本では40種ほどの報告があり、神奈川県では14種の記録がある。いずれも食肉性で、小さな虫などを食う。山地性のものと沿海性のものとあり、海岸に生息する種で絶滅危惧種に該当するものがある。また、希少種を3種あげる。

▲コケシジョウカイモドキ *Celsus spectabilis* Lewis
【希少種】

〔生息環境〕成虫はクリの花に集まる。

〔過去の分布〕小田原市入生田（平野，1981）のみに生息。

〔調査結果〕1994年、以前採集したと同じクリの花から採ることができた。

▲チバクギヌキジョウカイモドキ *Ebaeus chibaensis* Nakane
【希少種】

〔生息環境〕クギヌキジョウカイモドキが沿岸にいののに対し、本種は内陸部に生息しててる。詳しい生態はわからない。

〔過去の分布〕相模原市（守屋，1991）の報告のみ。

〔調査結果〕最近採れたという情報がない。

○ルリキオビジョウカイモドキ *Laius takaraensis* Nakane
【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕海岸の砂地で植物の根際に生息しているが、稀に河川敷でも発見されることがある。南の方に分布域がある種である。

〔過去の分布〕横須賀市天神島（大場，1981）と座間市の相模川（西川・丸山，1993）での記録のみ。

〔調査結果〕横須賀市天神島は横須賀市博物館の付属自然公園として保護されているが、他の地域では砂地の減少などで絶滅の心配がある。

○イソジョウカイモドキ *Laius asahinai* Nakane
【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕海岸の岩礁地域に生息する。

〔過去の分布〕横須賀市佐島（平野，1988），真鶴（平野，1988）。ほかに逗子や三浦半島で採集されたものもあるようである。

〔調査結果〕その後，報告がない。再捕獲されないとは言えないが，絶滅が危惧される。

▲コバネジョウカイモドキ *Carphuroides plagiat* (Kiesenwetter) 【希少種】

〔生息環境〕生態はよくわからない。

〔過去の分布〕1985年採集された大磯町高麗山（平野，1990）の記録のみ。

〔調査結果〕その後も発見されない。

ケシキスイ科 Nitidulidae

日本には160種あまりを産する大きなグループである。神奈川県では100種以上の報告があり，他県に比してよく調べられている。食性は多岐多様で，花，樹液，落果，キノコ，朽ち木，貯穀，腐肉などに見られる。キクイムシの天敵である種もある。絶滅危惧種2種，希少種2種をあげる。

▲ニセキボシヒラタケシキスイ *Omosita japonica* Reitter 【希少種】

〔生息環境〕骨に集まることが知られており，平野は鹿と思われる骨の下から得た。

〔過去の分布〕丹沢堂平（平野，1993）の記録のみ。

〔調査結果〕その後，採集されない。

▲アカホシクロヒラタケシキスイ *Ipidia octusis* Reitter 【希少種】

〔生息環境〕平野はキノコより採集した。

〔過去の分布〕丹沢堂平（平野，1985）の記録のみ。

〔調査結果〕以後，まったく採集されない。

○ミカドケシキスイ *Meligethes mikado* Reitter 【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕草地性のもので全国的にみても少ない種である。詳しい生態はわからない。

〔過去の分布〕原産地は箱根宮の下であるが，箱根の仙石原（平野，1984）のみに生息している。

〔調査結果〕最近，まったく採れない。

○オオアオチビケシキスイ *Meligethes cyaneus* Easton 【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕生態はよくわからない。全国的にみると稀な種で，箱根付近にのみ多く見られるもの。

〔過去の分布〕箱根仙石，神山（平野，1981）の記録のみ。

〔未発表記録〕1 ex.，箱根畑宿，27.IV.1986。

〔調査結果〕最近，まったく採れない。

ヒラタムシ科 Cucujidae

著しく扁平な甲虫で日本には28種の記録があり，神奈川県では17種の報告がある。朽木や倒木の樹皮下に多いが，貯穀の害虫とされるものもある。コスモポリタンな種もあり，小型種は未記録種がある。希少種を4種あげる。

▲ルリヒラタムシ *Cucujus mnischei* Grouvelle 【希少種】

〔生息環境〕朽木や倒木の樹皮下に生息する。

〔過去の分布〕丹沢堂平（西村，1985）のみ。

〔調査結果〕堂平では確実に生息しているが，他からは得られていない。

▲エソベニヒラタムシ *Cucujus opacus* Lewis 【希少種】

〔生息環境〕朽木や倒木の樹皮下に生息する。

〔過去の分布〕丹沢畔ケ丸（丸山，1972）の記録のみ。〔未発表記録〕1 ex.，丹沢堂平，16.IX.1993，蛹採集，数日後羽化。

〔調査結果〕最近まで生息の確認ができなかったが，かうじて生息していることがわかった。2ヶ所から発見されているが，希少種とする。

▲ヒゲナガホソチビヒラタムシ *Leptophloeus abei* Sasaji 【希少種】

〔生息環境〕生態はよく分からない。平野はライト・トラップに飛来したものを採集した

〔過去の分布〕三浦市小網代（平野，1988）の記録のみ。

〔調査結果〕その後，県内では採集されたという情報は無い。

▲ホソチビヒラタムシ *Leptophloeus femoralis* Sasaji 【希少種】

〔生息環境〕生態はよく分からない。

〔過去の分布〕小田原（平野，1984）の記録のみ。

〔調査結果〕それ以後，採集できない。

オオキシムシ科 Helotidae

日本では1属3種しか分布していない小さなグループの甲虫である。神奈川県には3種とも生息している。樹液に集まるものが多い。ここでは希少種1種をあげる。

▲ミドリオオキシムシ *Helota cereopunctata* Lewis 【希少種】

〔生息環境〕平野は県内ではないが花にきていたものを採集したことがある。

〔過去の分布〕西丹沢本棚沢（西川，1984）の報告のみ。

〔調査結果〕その後，得られたという情報は無い。

コメツキモドキ科 Languriidae

日本では40種近くの報告があり，県内では12種記録されている。いずれの種も食植性で，幼虫の多くは植物の茎のなかに入り食害する。草原などに生息する種の生存が心配される。ここでは希少種1種をあげるにとどめる。

▲アオバヒメコメツキモドキ *Anadastus praeustus* (Crotch) 【希少種】

〔生息環境〕草原に生息する。

〔過去の分布〕箱根仙石（平野，1968）の記録のみ。

〔調査結果〕仙石原以外で，採れたという情報は無い。

オオキノコムシ科 Erotylidae

日本では100種ほど記録があり，神奈川県では46種の報告がある。美しい斑紋があるものもあって，人気の高い食菌性の甲虫で，キノコや樹皮下から採集される。山地には珍しい種も多いが，ここでは希少種1種をあげる。

▲ムモンシリグロオオキノコ *Pselaphandra inornata* (Chujo)

【希少種】

〔生息環境〕キノコに集まる。

〔過去の分布〕丹沢大山（平野，1980）の報告のみ。

〔調査結果〕その後、まったく採集されない。絶滅の可能性もある。

テントウムシダマシ科 Endomychidae

テントウダマシはキノコ類、枯木、朽木、ワラの下などに生息する小さな甲虫で、日本では50種ほどが知られている。県内には22種の報告がある。ここでは珍しい1種を希少種としてあげる。

▲キイロアシボソテントウダマシ *Chondria lutea* Gorham

【希少種】

〔生息環境〕落葉下から発見された。日本での記録は数例のみで生態も分からない。

〔過去の分布〕横浜市円海山（平野，1989）の記録のみ。

〔調査結果〕その後まったく採集されない。

ツツキノコムシ科 Cisiidae

ツツキノコムシはその名の通り、筒状をした微小種で主にキノコに生活する。なかでもサルノコシカケのような堅いキノコを好む。日本では60数種が知られているが、未記載種が多い。神奈川県では30種ほどが分布している。

○トカラナガツツキノコムシ *Nipponocis unipunctatus* Nakane et Nobuchi

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕キノコに生息すると思われるが、詳しい生態はわからない。

〔過去の分布〕小田原市（1971年採集）、大和市（1989年採集）の標本がある。従来の分布はトカラ中の島のみ。

〔調査結果〕平地に生息するものと思われるが、その後採集されない。

▲ニッコウツツキノコムシ *Cis nikkoensis* (Nobuchi)

【希少種】

〔生息環境〕栃木県日光から記載されたもので、ほとんど記録がなく、生態は不明。

〔過去の分布〕丹沢堂平（1993）で採集された標本がある。

〔調査結果〕堂平以外のものを見たことがない。

ホソカタムシ科 Colydiidae

ホソカタムシは日本では36種の記録があり、神奈川県では14種の報告がある。微小種が多く、いずれの種も採集は難しい。枯木や朽木から発見される。珍しい種が多いが、代表として絶滅危惧種を1種だけあげておく。

○クロツヤツツホソカタムシ *Teredolaemus politus* (Lewis)

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕平地の林の枯れ枝などに見られる。

〔過去の分布〕横浜市金沢区（岩瀬他，1991）の記録があるが、藤沢市の標本もある。

〔調査結果〕藤沢市川名では生息している模様。しかし開発が進むと絶滅の恐れがある。

ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

日本で約300種知られる大群で、県内では95種の記録

がある。食性はさまざまで、朽木、キノコ、落葉、貯穀、などから発見される。ここではハネナシセスジキマワリと砂地に生息する種類が該当する。県内では、絶滅種2種、絶滅危惧種3種、減少種1種が認められる。

○ヤマトオサムシダマシ *Blaps japonensis* Marseul

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕納屋のわらくずの下などに生息する。砂地に多いようである。

〔過去の分布〕三浦市三戸浜（近藤，1983）、藤沢市羽鳥（山上・青木，1988）、中井町井の口（岸，1993）。

〔調査結果〕大型のゴミムシダマシなので、発見されれば情報があると思われるが、中井町の報告以後聞いていない。都市化の影響が強いものと思われる。

▲オオマルスナゴミムシダマシ *Phelopatrum scaphoides* (Marseul)

【希少種】

〔生息環境〕砂地に生息する。

〔過去の分布〕平塚市馬入（平野，1993）の記録のみ。

〔調査結果〕その後、採集されない。

▲シナスナゴミムシダマシ *Gonocephalum klappericki* Kaszab

【希少種】

〔生息環境〕海岸の砂地に生息する。少ない種である。

〔過去の分布〕葉山町（沢田，1991）の記録のみ。

〔調査結果〕その後採集されない。

○オオマルチビゴミムシダマシ *Caedius maderi* Kaszab

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕海岸の砂地に生息している。

〔過去の分布〕三浦市三戸海岸（平野，1981）の記録以外ない。

〔未発表記録〕1 ex., 三浦市三戸海岸，1.V.1984，平野幸彦採集。

〔調査結果〕田尾の調査で三浦市三戸浜から確認されたが、他の地域からはまったく得られていない。

○ツメアカマルチビゴミムシダマシ *Caedius fulvialis* Nakane et Masumoto

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕河川の砂地に生息している。

〔過去の分布〕厚木市相模川（沢田，1985）の記録のみ。

〔調査結果〕その後まったく得られていない。

○ニセマグソコガネダマシ *Trachyscelis sabuleti* Lewis

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕海岸の砂地の植物の根際に生息している。

〔過去の分布〕江ノ島が原産地。付近の鎌倉市などの海岸でしか得られていない。

〔調査結果〕鎌倉市七里ヶ浜（3.X.1994）で生息を確認した。しかし、生息範囲はきわめて狭い範囲であるようだ。鎌倉市の海岸は侵食が激しく、他から砂を運び込んでいるとの情報があり、砂地の生態系に影響を及ぼす危険をはらんでいる。

●クロズハマベゴミムシダマシ *Epiphaleria atriceps* Lewis

【絶滅種B】

〔生息環境〕海岸の砂地の海藻やゴミの下から見つかる。

〔過去の分布〕江ノ島が原産地だが、記載以来記録がない。

〔調査結果〕かなり調査したが、現在では生息していない模様。静岡県では生息しているので、再発見の可能性が

ないとは言いきれない。

▲オオユミアシゴミムシ *Promethis insomnis* (Lewis)
【希少種】

〔生息環境〕朽木などの樹皮下より採集される。

〔過去の分布〕丹沢蛭ヶ岳（平野，1981）の記録のみ。

〔調査結果〕その後まったく採れない。

○ハネナシセスジキマワリ *Strongylium marseuli* Lewis
【絶滅危惧種 D】

〔生息環境〕その名のとおりに後翅が退化している種で、飛べない。神社の境内にあるイチョウの大木の樹幹を歩いてたという。

〔過去の分布〕横須賀市深田台（橋本，1986）の記録のみ。

〔調査結果〕その後の報告はない。

アカハネムシ科 Pyrochroidae

日本には 20 種ほどの記録があるが、県内では 10 種の報告がある。枯木や朽木に生息している。山地性の珍しい種 1 種を希少種とする。

▲オカモトツヤアナハネムシ *Tosadendroides okamotoi* Kono
【希少種】

〔生息環境〕山地性の種である。生態はよくわからない。

〔過去の分布〕西丹沢三国山（高橋，1992）の記録のみ。

〔調査結果〕目立つ種類であるが、その後採れたという情報はない。

ナガクチキムシ科 Melandryidae

日本では 85 種ほど知られており、神奈川県では 49 種の記録がある。朽木、キノコ、落葉下などに生息する中型の甲虫である。山地に多く、平地に生息する種は少ない。ここでは希少種 2 種をあげる。

▲ヒイロホソナガクチキムシ *Dapisloderus nomurai* (Nakane et Hayashi)
【希少種】

〔生息環境〕朽木などに見られる。

〔過去の分布〕丹沢堂平（平野，1994）の記録のみ。

〔調査結果〕顕著な種なので、採れば報告があるはず。

▲ヒゲブトナガクチキムシ *Dircaeomorpha elegans* Sasaji
【希少種】

〔生息環境〕クリの枯れ枝から得たという。

〔過去の分布〕逗子市、鎌倉市（露木，1993）の記録のみ。

〔調査結果〕その後採れたという情報はない。

カミキリモドキ科 Oedemeridae

日本では 52 種知られており、県内では 24 種分布している。幼虫は主に朽木中に生息し、成虫は花に集まり、花粉や蜜を食べると考えられる。沿海性のものと山地性のものとあり、ここでは沿海性のものに問題がある。燈火に飛来することが多く、皮膚に炎症を起こさせる衛生害虫もある。サタカミキリモドキが絶滅に瀕している。

○サタカミキリモドキ *Asclera japonica* Pic
【絶滅危惧種 D】

〔生息環境〕沿岸性の甲虫らしく南の方に分布するが、本州では横須賀市猿島が唯一の産地である。平野はネズミモチの花上から得た。

〔過去の分布〕横須賀市猿島（山崎，1955；大場，1979；

平野，1984）のみの記録。

〔調査結果〕横須賀市猿島は渡航できず調査不可能。平野が採集した 1983 年以後、発見されていないようである。

ツチハンミョウ科 Meloidae

日本からは 16 種の報告があり、神奈川県では 7 種が得られている。幼虫はハナバチの巣やバッタ類の卵塊などに寄生する。過変態をすることで知られている。

○マメハンミョウ *Epicauta gorhami* Marseul

【絶滅危惧種 F】

〔生息環境〕幼虫はイナゴ類やフキバッタ類などの卵塊に寄生する。成虫は各種の植物の葉を食べる。以前は畑などに多く群生していた。

〔過去の分布〕箱根仙石（平野，1970），秦野市（平野，1970；1981），横須賀市長沢（坂本，1981），葉山町木古庭（高橋，1981）など。昔は各地に多かった。

〔調査結果〕鶴見川で得られた情報があるだけで、最近少なくなった。

アリモドキ科 Anthicidae

日本では 60 種ほど知られており、神奈川県では 30 種の記録がある。海岸、河川、荒地などに生息する種が多い。ここでは希少種 2 種を記述する。

▲オオクビボソムシ *Stereopalpus gigas* (Marseul)

【希少種】

〔生息環境〕中型の種で河原などに生息しているが、詳しい生態は不明。平野はライト・トラップで採集した。

〔過去の分布〕西丹沢簪沢（平野，1984）の記録のみ。

〔調査結果〕その後、どうしても採れない。

▲ヒラタホソアリモドキ *Anthicus perileptoides* Lewis

【希少種】

〔生息環境〕畑などにいるという。

〔過去の分布〕平塚市（野村，1961）の記録のみ。

〔調査結果〕その後、まったく採れない。絶滅した可能性がないわけではない。

（以上、平野幸彦）

カミキリムシ類 Cerambycidae + Disteniidae

甲虫の中では中・大形種を多く含むこと、またとくに戦後は県内在住の愛好者によるカミキリ熱が盛んで、各地の目録もいくつか発表されてきたことから、戦後以降のカミキリムシ相の変遷は比較的把握しやすいように思えるかもしれない。しかし森林性甲虫の常として、短期日でもしかも限られた人数による調査では、その現状を把握することがきわめて困難であることに変わりはない。このため、今回の調査においては、個々の種類の生息の有無についての現地確認も行ったが、むしろ県内でのカミキリムシ類調査を継続的に行ってきた方々の経験を多く取り入れることにした。とくに、神奈川県昆虫談話会の露木繁雄・木下富夫・岡部洋一の 3 氏から多くの知見を授かったが、当然のことながら以下の内容は執筆者に責任がある。

神奈川県から記録されたカミキリムシ類のうち、同定誤りと考えられる種類、県外からの人為的な移入種ない

し県内での定着が疑問な種、それに外国からの未定着の人為的移入種と判断されるものを除けば、約 258 種が認められる。これらのほとんどは多少とも減少傾向にあるが、ここでは絶滅度を次のように判断した。絶滅種 5 種、絶滅危惧種と思われるもの 13 種、減少種 26 種、健在種 214 種（うち希少種の概念に当てはまるもの約 15 種）である。

カミキリムシを生息環境でみると、そのほとんどが森林性であり、草地環境を好む種類はごく限られている。また、乾湿でみるなら、その多くが乾燥に弱い（それゆえに都市環境への進出は一部の種類に限られる）。

草地をハビタットとする種類は、帰化種であるラミーカミキリを除いて 6 種に限られるが、そのうちの 3 種が絶滅種であり、1 種が絶滅危惧種となっている。したがって、いかに草地環境に棲むものの衰退が著しいかわかる。残りのすべての種類（約 251 種）が森林性のものと見なされるが、絶滅種は 2 種、絶滅危惧種が 12 種、減少種が 26 種となっている。この数字からは、森林環境に棲むカミキリムシは衰退がそれほど顕著ではないように思える。しかし、絶滅危惧種のうちの 7 種は低地に分布するものであり、残りの 5 種も低地部では絶滅状態にある。同様に減少種でみると、そのすべてが低地だけに棲むもの、もしくは低地での減少が著しい種類である。これら絶滅危惧種と減少種からは、森林性のものであっても、低地部では棲めなくなりつつあるほど、森林環境が失われていることが読み取れる。さらに、これらのうちではクロマツやアカマツ、モミへの依存度が高い種が 7 種も含まれている。このことから、県内における低地のマツ林やモミの後退をよく反映している。また、広葉樹の伐採木や薪に好んで集まる種類の減少も著しい（絶滅危惧種と減少種ではトラカミキリ類を主体に計 10 種程度）。もちろんその原因は、広域な二次林の減少、ならびに二次林の放置（非更新）という近年的な森林形態の変化による。

なお、以下に各種の解説を行うが、減少種と希少種については代表的な種類を挙げるにとどめた。

△ベーツヒラタカミキリ *Eurypoda* (*Neopron*) *batesi* Gahan

【減少種 G】

【生息環境】主にシイ類などブナ科を寄主植物とし、関東地方以西のシイ類の優占する照葉樹林に多い。また、しばしば町中の社寺林にも見られる。

【過去の分布】県内では海岸沿いの暖地を中心に局地的に記録があり（露木ほか、1981 など）、照葉樹林が比較的残されていた頃までは、低地部に広く分布していたのであろう。

【調査結果】照葉樹林の消失とともに、本種も分布を狭められてきたものと考えられる。ただし、既知の産地には健在な場所もあり、調査期間中に逗子市神武寺、伊勢原市で生息が確認された。

○ニセノコギリカミキリ *Prionus sejunctus* Hayashi

【絶滅危惧種？ E】

【生息環境】マツ類の伐根を寄主植物とし、関東地方以西の照葉樹林に多い。

【過去の分布】県内では伊勢原市（露木ほか、1981）、南足柄市大雄山（山上、1978）、真鶴（露木、1985）の 3 ケ

所から記録があるにすぎないが、1972 年採集の丹沢札掛産の標本があるという。

【調査結果】最近の記録はないが、1993 年の湯河原町産の未発表採集例がある。灯火での発見例が多く、生息確認は困難である。

△サビカミキリ *Arhopalus coreanus* (Sharp)

【減少種 H】

【生息環境】寄主植物は主にアカマツやクロマツ、モミなどのマツ科であることから、低地部のマツ林に多いほか、山地のモミ林やウラジロモミ林まで広く分布する。

【過去の分布】丹沢・箱根の高所を除くほぼ全県下にふつうに分布しており（露木ほか、1981 など）、1970 年代前半までは横浜市金沢区の町中でもしばしば灯火に飛来していた。

【調査結果】最近ではマツ林の衰退にともない、減少が著しいようである。調査期間中においては、相模川以東の低地部での採集例は鎌倉市における 1 例しか知ることができなかったが、丹沢の山麓部ではいくつか確認されている。

△モモグロハナカミキリ *Toxotinus reini* (Heyden)

【減少種 H】

【生息環境】寄主植物は不明だが、幼虫は地中で生活するものと推定される。低地から山地にかけての広葉樹林や針葉樹林まで広く分布し、多少とも湿り気のある場所で発見される。

【過去の分布】ほぼ全県下に記録があるが、丹沢周辺を除けば局地的である。低地部では川崎市多摩区（丸山、1961）、鎌倉市（森、1948）、逗子市（草間、1954）、藤沢市（藤沢一中昆虫部、1952）、小田原市（平野、1958）などで記録を見る。

【調査結果】調査期間中においては丹沢山地とその山麓部、箱根山麓での採集例がある。しかし、相模川以東の低地部での記録はいずれも 1960 年までのものであり、すでに絶滅してしまった可能性が高い。

△ヨツスジハナカミキリ *Leptura* (*Leptura*) *ochraceofasciata* (*Motschulsky*)

【減少種 H】

【生息環境】広葉樹から針葉樹までの朽ち木を寄主植物とし、低地部から高山までの林分に幅広く生息する。

【過去の分布】県内各地にふつうに見られ（露木ほか、1981 など）、とくに山地に多い。

【調査結果】低地部では 1960 - 1970 年代に激減したようで、最近ではほとんど採集例を聞かない。調査期間中に確認できた場所は、横浜市緑区新治町だけである。ただし、丹沢や箱根地域では山麓部でもしばしば見られた。

○カタキハナカミキリ *Leptura* (*Pedostangalia*) *femoralis* (*Motschulsky*)

【絶滅危惧種 E】

【生息環境】寄主植物は知られていないが、低地部から高山までの林分に幅広く生息する。

【過去の分布】県内では記録が少なく、丹沢と箱根を除けば、平塚市岡崎（上田、1986）の 1940 年の 1 例、横浜市港北区での 1950 年代の 2 例（露木、1955；露木ほか、1981）しか知られていない。

【調査結果】低地部での絶滅は確実であろう。丹沢や箱根においても最近の採集例を知ることができなかった。

○アオスジカミキリ *Xystrocera globosa* (Olivier)

【絶滅危惧種 F】

〔生息環境〕寄主植物は主にネムノキの衰弱木や枯死木で、東北地方南部以南の低地部の広葉樹林に生息する。

〔過去の分布〕県内では鎌倉市（斉藤，1967），逗子市（露木ほか，1981），横須賀市（石渡，1989），大磯町（上田，1986），津久井町（猪又，1968；原，1972），小田原市（平野，1958）などで記録されている。

〔調査結果〕1988年に三浦市での採集例があるというが、それ以後の記録を知らない。また、筆者は1986年に横浜市金沢区六浦で本種と思われるものに加害されているネムノキを見ている。調査期間中はネムノキの衰弱木や枯木を注意して見てきたが、加害木にはまったく出会っていない。

○キイロミヤマカミキリ *Margites* (*Margites*) *fulvidus* (Pascoe)

【絶滅危惧種 E】

〔生息環境〕寄主植物はシイ類の枯死木で、関東地方以西の低地部の照葉樹林に多く生息する。

〔過去の分布〕県内では江ノ島，小田原市城山，真鶴町など海岸近くの暖地から少数が記録されている（佐藤，1970；山上，1978；露木ほか，1981）にすぎない。

〔調査結果〕文献上での記録は江ノ島における1980年の採集例がもっとも最近のものであるが、大磯町では1990年以降の確実な採集例がある。灯火での発見例が多く、生息確認は一般に困難である。

○ヨツボシカミキリ *Stenyrinum quadrinotatum* Bates

【絶滅危惧種 F】

〔生息環境〕寄主植物は主にクリ，コナラ，クヌギなどブナ科の枯死木で、低地部から山地までの広葉樹林に多く生息する。

〔過去の分布〕県内各地にふつうに見られ（草間，1954；露木ほか，1981など），1970年代前半までは横浜市金沢区の住宅地でもときどき灯火に飛来した。

〔調査結果〕1960－1970年代に激減したようで、文献上に残されている記録は1980年の横須賀市野比（石渡ほか，1989）が最後である。低地ではすでに絶滅の可能性が強いが、1991年に横須賀市での採集例があるという情報もある。また、津久井や丹沢では現在も生息している可能性がある。

○ヨコヤマヒメカミキリ *Ceresium holophaeum* Bates

【絶滅危惧種 E】

〔生息環境〕各種広葉樹の枯死木を寄主植物としており、太平洋側では関東地方南部以西の主に低地部に生息する。

〔過去の分布〕県内では横浜市金沢区の1例（高桑，1978）と小田原市での2例（山上，1978）が記録されているにすぎない。

〔調査結果〕その後の採集例は知られていない。本種の生息の確認は難しく、現状の把握は困難である。

●クロツヤヒゲナガコバネカミキリ *Glaphyra hattorii* (Ohbayashi)

【絶滅種 A】

〔生息環境〕幼虫は主にグミ類を寄主植物とすることから、川原などグミ類が多く生育する明るい荒れ地や疎林に多いが、しばしばブナやコナラを主とした夏緑林にも生息する。

〔過去の分布〕1951年に川崎市多摩区稲田登戸で採集された1♀を基に記載された種で、その後同地周辺で数頭が得られているほか、東京都京王読売ランドでの1例（三宅，1984）もある。ただ後者の記録は採集日付がないが、文面から判断すると1960年代後半のようである（同地を1983年に調査したが得られなかったと記されている）。前者の地では1962年における4頭を最後にまったく得られていない。

〔調査結果〕かつて採集されていた登戸周辺は宅地造成によって環境変化が著しく、本種の生息は望めない。多摩区には生田緑地のように広い二次林を擁しており、本種が生息している可能性は考えられないことはないが、ここでは絶滅種として扱った。

△ミドリカミキリ *Chloridolum* (*Leontium*) *viride* (Thomson)

【減少種 H】

〔生息環境〕寄主植物は主にクリ，コナラ，ケヤキなど各種広葉樹の枯死木で、低地部から山地までの広葉樹林に多く生息する。平地では薪に集来するふつうなカミキリムシの1つ。

〔過去の分布〕県内各地にごくふつうに見られ（露木ほか，1981など），1960年代後半までは横浜市金沢区の住宅地でもときどき姿を見かけていた。

〔調査結果〕最近になって減少が著しく、姿を見ることは稀になってきている。調査期間中に確認できた場所は、相模川以东では横浜市戸塚区舞岡町，金沢区釜利谷（北條，1992），鎌倉市十二所などにすぎなかった。

○アカアシオオアカミキリ *Chloridolum* (*Parachloridolum*) *japonicum* (Harold)

【絶滅危惧種 D】

〔生息環境〕成・幼虫ともクヌギに依存することから、平地や内陸盆地の古いクヌギ林に多いが、東京においては住宅地や大学構内のクヌギ古木でもかつて発生を見た。

〔過去の分布〕草間（1955）による逗子市と，中山（1988）による横須賀市池上の記録があるにすぎない。

〔調査結果〕逗子では本種が発生できそうなクヌギ古木群が見あたらず、生息は望めない。横須賀市池上ではその後の採集例はないようである。また、多摩丘陵の一部、渋沢丘陵の一部などには、本種の生息が期待される場所もあったが、発見には至らなかった。

○ムネマダラトラカミキリ *Xylotrechus grayii grayii* (White)

【絶滅危惧種 D】

〔生息環境〕寄主植物は各種の広葉樹の枯死木で、低地から山地までの広葉樹林に生息するが、本州では山地に多い。

〔過去の分布〕県内では逗子市と葉山町（草間，1955），横須賀市武山（久保田，1981），同市砲台山～三浦富士（中山，1986），城ヶ島（榎戸，1983）など三浦半島に限って記録がある。

〔調査結果〕最近には砲台山でのみ採集されているにすぎない。

○クリストフコトラカミキリ *Plagionotus christophi* (Kraatz)

【絶滅危惧種 D】

〔生息環境〕寄主植物はクリ，コナラなどブナ科の薪や枯死木で、主に山地の広葉樹林に生息し、積み上げられた薪や伐採地の伐材で見かけることが多い。

〔過去の分布〕県内では津久井郡藤野町（中山，1985）と横浜市港南区（石渡，1986）に記録があるが，後者は偶産と見なされる。

〔調査結果〕藤野町における最近の記録を知らない。1985年に数個体が採集された藤野町佐野川鎌沢の伐採地はすでになく，周辺一帯は針葉樹の植林地となってしまうていた。

△キイトラカミキリ *Demonax* (*Grammographus*) *notabilis notabilis* (Pascos) 【減少種H】

〔生息環境〕寄主植物は主にクリ，コナラ，ケヤキなど各種広葉樹の枯死木で，低地部の二次林に多く生息する。平地の薪に集来するふつうなカミキリムシの1つ。

〔過去の分布〕丹沢や箱根の高所を除き，県内各地にふつうに見られた（草間，1954；丸山，1961；鈴木，1968；露木ほか，1981など）。

〔調査結果〕最近になって減少が著しく，姿を見ることは稀になってきている。調査期間中に確認できた場所は，横浜市栄区公田町，鎌倉市十二所であり，いずれもクリ園である。なお，横浜市栄区上郷では1991年にケヤキから多数が採集されている（久保，1993）。

●フサヒゲルリカミキリ *Agapanthia japonica* Kano

【絶滅種A】

〔生息環境〕成・幼虫ともにユウスゲに依存することから，ユウスゲが生育する山地や高原の明るい草地や湿地を好むが，成虫がショウブの仲間を後食していたという報告もあるので，ショウブ類が生育する湿地でも生息できるのかもしれない。

〔過去の分布〕松山（1950）は箱根の甲虫相の紹介記事の中で，‘又フサヒゲルリカミキリもいる。これの飛んでいるのを見かけたがルリ色に光りだいぶきれいだ。’と記しており，これが県内からの唯一の記録である。松山は場所を特定していないが，本種が生息していたとすれば，仙石原がもっとも可能性が高い。ただし，箱根でのユウスゲの記録はなく，本種が顕著な種であるとはいえず，何かを見誤った可能性もないではない。

〔調査結果〕仙石原にはショウブ類が多く生育するが，本種は再発見されていない。また現在，仙石原以外に本種の生息が考えられるような環境はない。

○イタヤカミキリ *Mecynippus pubicornis* Bates

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕湿地や川原などに生育するヤナギ類やハンノキ類を好んで寄主植物とする。

〔過去の分布〕県内には広く分布していたようである（露木，1981など）。

〔調査結果〕厚木市七沢における1984年の採集例（高橋，1987）以降の発見例を聞かない。低地部においては，すでに1960年代には激滅していたものと推定され，また近年まで産地として知られていた山北町皆瀬川でも，1980年代前半に姿を消してしまったという。本種の生息に適した湿地や川原環境はほとんど残っておらず，絶滅が危惧される。

○ヒメビロウドカミキリ *Acalolepta degener* (Bates)

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕ヨモギ類を寄主植物とするため，それらが安

定して生育しているような草地環境に依存する。

〔過去の分布〕県内での既産地は少なく，逗子市（草間，1955）と箱根仙石原（小田，1976；山上，1978）しか知られていない。ただし，本種の特殊な生態が解明されたのが1970年代後半であり，またある程度小さな草地でも生息できることから，実際には局地的ながらもかつては県内に広く分布していた可能性がある。なお，仙石原においてはかなりの数が得られているようである。

〔調査結果〕逗子市ではその後の採集例を聞かない。仙石原においては1990年代に入ってから個体数を減じているようであり，絶滅が危惧される。

●オオシロカミキリ *Olenecamptus cretaceus cretaceus* Bates

【絶滅種A】

〔生息環境〕成・幼虫ともにムクノキに依存し，暖かい地方の平地の林に多い。九州では社寺林や屋敷林でもしばしば発生する。太平洋側では神奈川県が分布の東限となっている。

〔過去の分布〕小島（1937）による横浜市（京浜昆虫同好会編，1959によれば中区本牧）の記録があるにすぎない。

〔調査結果〕記録地の周辺は林環境もところどころ残され，大木も多いので，本種が発生を続けている可能性もあるが，その確認はきわめて難しい。また，大磯町高麗山はムクノキ大木も比較的多く，本種の生息条件としては申し分ないが，材採集も含めた調査がなされているにもかかわらず，発見には至っていない。三浦半島などに未知の発生地が存在している可能性は捨てきれないが，顕著な種であるうえに発見後50年以上もたつので，ここでは絶滅種として扱った。

○イボタサピカミキリ *Sophronica obrioides* (Bates)

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕寄主植物はテイカカズラであるが，十分に成長した太いツルに依存する。関東地方南部を分布の東限とし，海岸近くの暖地の林に多い。

〔過去の分布〕県内では逗子市（草間，1955）と横須賀市三浦富士（露木，1986）しか知られていない。後者の地においてはかなりの数が得られているようである。

〔調査結果〕最近の採集例を聞かない。三浦富士における採集例は，ほとんどが山頂付近のテイカカズラからだが，最近はその衰退が著しく，発生している可能性は少ない。近接する砲台山の山麓でも採集例があるほか，テイカカズラの太いツルは三浦半島ではけっして稀でなく，いずれかで発生している可能性が強い。

△スジマダラモモブトカミキリ *Acanthocinus griseus orientalis* Ohbayashi

【減少種H】

〔生息環境〕寄主植物はアカマツやクロマツ，モミなどのマツ科であることから，低地部のマツ林に多いほか，山地のモミ林やウラジロモミ林まで広く分布する。

〔過去の分布〕かつては川崎，横浜のような低地から丹沢主稜部まで広く分布していた（露木ほか，1981など）。しかし，低地部ではモミの衰退，マツ林の減少にともなって次第に数を減じつつある。

〔調査結果〕調査期間中においては，低地部の採集例を知ることができなかった。

○ハンノキカミキリ *Cagosima sanguinolenta* Thomson

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕成・幼虫ともにハンノキやヤマハンノキ、オオバヤシャブシなどに依存することから、平地から山地まで、またハンノキが生育する湿地からオオバヤシャブシが群落を形成する乾燥した萌芽林まで、非常に広範な環境に生息する一方、極相状態の暗い林環境には見られない。

〔過去の分布〕かつては川崎、横浜のような低地から丹沢主稜部まで広く分布し（露木ほか、1981など）、個体数も多かった（露木、1955など）。

〔調査結果〕低地部ではハンノキ林が激減し、1980年代以降は本種の姿をほとんど見かけることがなくなったようである。今回の調査でも、横浜市緑区新治町のように良好なハンノキ林が残されている場所ですら、本種をまったく確認できなかった。ただし、三浦半島においてはオオバヤシャブシに依存するものが見られるらしい。

●アサカミキリ *Thyestilla gebleri* (Faldermann)

【絶滅種C】

〔生息環境〕成・幼虫ともにアザミ類やアサに依存することから、平地や高原の明るい草地や湿地を好む。また、戦前はアサの害虫として知られていた。

〔過去の分布〕県内各地で記録があり（露木ほか、1981など）、かつては県内に広く分布していたものと思われる。

〔調査結果〕本種は1960年代には激減したらしく、1970年代以降は箱根仙石原と相模湖町ピクニックランドに記録がある（近藤、1979）にすぎない。仙石原では1980年まで確かな記録があり、1983年頃まで姿が見られたようであるが、それ以後は採集例を聞かない。1980年代半ば以降も多くの人が本種の調査に訪れているにもかかわらず発見できないので、絶滅は確実であると判断される。現在は仙石原以外に本種の生息が考えられるような環境は見あたらない。

▲クロキクスイカミキリ *Stenostola nigerrima* Breuning

【希少種】

〔生息環境〕不明。採集例は基準標本を含めても2例しかなく、しかも採集時の状況はいずれも不明であり、生態的な知見はまったく分からない。

〔過去の分布〕Ohbayashi, 1960による丹沢山の1♂（1935年6月23日、長谷川仁採集）が知られるのみである。これが国内にある唯一の標本である。

〔調査結果〕1946年の原記載には基準標本の採集年が記されていないが、いずれにしろ50年の長きに渡って採集されていないことになる。この点からは絶滅種と見なすべきかもしれないが、本種の得られた場所（採集者によれば札掛周辺の可能性が強いとのこと）が場所だけに、再発見の可能性も充分にあり、ここでは希少種として扱った。

●アオキクスイカミキリ *Phytoecia* (*Phytoecia*) *coeruleomicans* Breuning

【絶滅種A】

〔生息環境〕採集例がきわめて少ないこともあって、本種の生息環境は詳しく分かっていない。しかし、本属の種がキク科やセリ科の草本を寄主植物とすることから、本種もまた草本に依存しているとしか考えられない。事実、本種を東京都小仏峠で採集した人の話では、セリ科のホ

タルサイコにいたということであったという。いずれにしろ、草地環境であることだけは間違いないと考えられる。

〔過去の分布〕別属のクロキクスイカミキリとして古くから記録されていたが、本種として、また採集データを伴った記録としては、露木ほか（1981）が最初であり（1頭、1947年大和市中央林間産）、これが県内産唯一の標本である。

〔調査結果〕現在は大和市内はもちろんのこと、県内にホタルサイコが群落を形成しているような環境はなく、もしホタルサイコが真に本種の寄主植物だとすれば、県内での絶滅は確実であろう。なお、全国的にみても、本種の最新の採集例は東京都府中市における1950年であり（草間・高桑、1984）、45年の長きに渡って採集されていないことになる。

（以上、高桑正敏）

マメゾウムシ科 *Bruchidae*

最近ハムシ科に含めることもあるが、ここでは別扱いする。日本では27種の報告があり、神奈川県には11種記録されている。ほとんどの種は豆類を食害し、害虫とされているものも多い。海岸に生息するクロマメゾウムシが絶滅危惧種に該当する。

○クロマメゾウムシ *Bruchus maculipes* Pic 【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕海岸のハマエンドウ類に生息する。

〔過去の分布〕藤沢市浜須賀（和泉、1984）、平塚市袖ヶ浦（和泉、1984）、茅ヶ崎市（田尾・岸、1993）などの他、葉山の標本もあるという。

〔調査結果〕海浜植物が少なくなりつつあるので、絶滅が危惧される。

ハムシ科 *Chrysomelidae*

ハムシは「葉虫」と書き、その名のとおりに植物の葉、茎、根などを食べる。日本ではおよそ500種の報告があり、神奈川県では263種記録されている。かなりよく調べられているグループだが、食草については未知のものも多い。池沼、湿地、草原などに生息する種が絶滅や絶滅危惧の対象になっている。他の科と同様、大型の種も減少しつつある。また、ヤナギハムシのようにかつては町中に生息していたものが、いなくなっている。ここでは絶滅種4種、絶滅危惧種11種、希少種4種をあげるが、微小種では何種か追加されるであろう。

●キイロネクイハムシ *Macrolea mutica japona* (Jacoby)

【絶滅種A】

〔生息環境〕池沼地に生息する。日本産の標本はごくわずかしかない。

〔過去の分布〕1885年、横浜市豊顕寺から記載されたが、以後記録なし。

〔調査結果〕豊顕寺は三ツ沢公園の中にあり、昔の面影はまったくない。県内に発生の可能性のある場所はほとんどないため絶滅したことは明らかである。

●ホソネクイハムシ *Donacia* (*Donacia*) *vulgaris* Zschach

【絶滅種A】

〔生息環境〕湿地、池沼等に生息する。食草はガマ、ミク

りなど。

〔過去の分布〕箱根の記録 (M.Chujo and S.Kimoto, 1960: 3 exs., 17.IV.-19.IV.1880, G.Lewis leg.) のみ。

〔調査結果〕箱根では現在、生息しているとは考えにくい。かつては平地の池沼に生息していた可能性もあるが、現在は生息に適した環境は見あたらない。

○ヒラタネクイハムシ *Donacia hiurai* Kimoto

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕スゲのある湿地に生息する。

〔過去の分布〕箱根仙石原 (和泉, 1985) の記録のみ。

〔未発表記録〕1 ex., 箱根仙石原, 9.V.1985, 平野幸彦採集。

〔調査結果〕その後、何回かの仙石原の調査でも発見されない。絶滅する可能性がある。

▲キイロナガツツハムシ *Smaragdina nipponensis* (Chujo)

【希少種】

〔生息環境〕雑木林に生息する。食草はエノキ、ミズキ、クヌギ、クリ、コナラなど。

〔過去の分布〕藤野町 (塚原, 1975) の記録しかない。

〔調査結果〕顕著な種であるので、採集されれば情報が得られるはずだが、今もって採れない。環境悪化のために絶滅した可能性も考えられる。

○ハコネチビツツハムシ *Cryptocephalus hakonensis* Takizawa

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕草原に生息する。食草は未知。

〔過去の分布〕1982年、箱根仙石原 (Takizawa, 1982) の標本をもとに記載された。

〔調査結果〕1993年西丹沢明神峠から再発見された。仙石原では再発見できない。

○ムツキボシツツハムシ *Cryptocephalus ohnoi* Kimoto

【絶滅危惧種E】

〔生息環境〕雑木林に生息する。食草は不明。全国的にみても少ない種である。

〔過去の分布〕小田原 (平野, 1965)。この記録はキボシツツハムシ *C.perelegans* Baly として報告されたもの。

〔調査結果〕その後、まったく報告がない。

○ジュウシホシツツハムシ *Cryptocephalus tetrdecaspilotus* Baly

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕草原に生息。食草はマルバハギ。

〔過去の分布〕箱根仙石 (平野, 1965), 湖尻 (平野, 1965) のみ。

〔調査結果〕かなり仙石原で注意しているが、ここ10年間、まったく採れない。

●オオサルハムシ *Chrysochus chinensis* Baly 【絶滅種A】

〔生息環境〕食草はイヨカズラ、ガガイモ、シロバナカモメズル、サツマイモなど。

〔過去の分布〕箱根仙石 (平野, 1965) の記録のみ。この標本は中条道夫博士所蔵。

〔調査結果〕その後、まったく情報なし。大型の種であるため採れば報告があろう。すでに30年間採集されていないので、絶滅したものと思われる。

○オオルリハムシ *Chrysolina virgata* (Motschulsky)

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕湿地や草地に見られる。食草はシロネ、クル

マバナ、エゴマなど。

〔過去の分布〕箱根仙石原 (平野, 1965)。大磯高麗山の記録があるが、疑問である。

〔調査結果〕箱根の仙石原には確実に生息している。しかし、個体数が減じている。

○ニッコウルリハムシ *Chrysolina nikkoensis* (Jacoby)

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕草原に見られる。食草はオトギリソウ。

〔過去の分布〕西丹沢三国峠 (平野, 1965) のみ。

〔調査結果〕ここ2年間に三国峠を何回か訪れたが、発見できなかった。

○ドロノキハムシ *Chrysomela populi* Linnaeus

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕食草はドロノキ、ヤナギなど。

〔過去の分布〕藤沢 (養老, 1958), 箱根乙女峠 (平野, 1981), 蛭ヶ岳 (平野, 1981) のみ。

〔調査結果〕平地では絶滅したと思われる。山地から採れたという情報もまったくない。

○ヤナギハムシ *Chrysomela vigintipunctata* (Scopoli)

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕その名のごとく、ヤナギ類から見つかる。小田原市では町中のシダレヤナギから、茅ヶ崎市のもののはネコヤナギから発生した。

〔過去の分布〕小田原市 (平野, 1965), 茅ヶ崎市浜竹 (嘉納, 1992)。茅ヶ崎の記録は1950年代の生活史を記述したもの。

〔調査結果〕顕著な種で、発生すればかなりの数が見られるので、発見されやすいはずである。他県では山地でも発見されるが、県内では見つかっていない。平地では絶滅したと考えられる。あと10年間採れなければ絶滅種と言えるだろう。

▲サクラムジハムシ *Gonioctena morimotoi* Kimoto

【希少種】

〔生息環境〕食草はナナカマドで、山地に生息する。

〔過去の分布〕丹沢蛭ヶ岳 (平野, 1981) の記録のみ。

〔調査結果〕その後、採集されていない。

○ネギオオアラメハムシ *Galeruca extensa* Motschulsky

【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕ネギ類、溝の口ではノビルに発生していたという。

〔過去の分布〕厚木市農大農場 (鈴木, 1966) の記録のみ。

〔調査結果〕最近の報告がまったくない。

▲カワシマケブカハムシ *Pyrrhalta kawashimai* Kimoto

【希少種】

〔生息環境〕食草は未知で、生態も不明である。

〔過去の分布〕湯河原から発見され、記載 (Kimoto, 1964) された。

〔調査結果〕その後、まったく得られない。

○クロヘリウスチャハムシ *Pyrrhalta nigromarginata* (Jacoby)

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕成虫は湿地の近くでゴマギの葉上から発見される。幼虫はゴマギの葉を食い、地中に潜って蛹化するが、湿地という条件が必要と思われる。日本での確実な生息地は箱根の仙石原だけではないだろうか。

〔過去の分布〕箱根仙石原 (Takizawa, 1982; 平野, 1984)
 〔調査結果〕仙石原の2本のゴマギに生息していることを確認した。以前は別の木からも発生していたが、この木は切られてしまった。木が切られれば絶滅すると思われる。

○ジュンサイハムシ *Galerucella nipponensis* (Laboissiere)
 【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕池沼などのジュンサイ、ヒシなどを食草としている。

〔過去の分布〕鎌倉 (養老, 1958) と大磯の情報があるのみ。

〔調査結果〕5 exs., 川崎市麻生区早野, 29.V.1994, 荻部。逗子市でも発生が認められているという。現在はジュンサイやヒシがある池や沼がほとんどなく、絶滅が危惧される。

▲ヘリグロタマノミハムシ *Sphaeroderma ohkuboi* Chujo
 【希少種】

〔生息環境〕本州, 四国, 九州に分布するが、産地は局所的。食草は不明。

〔過去の分布〕西丹沢三国山 (平野, 1993) の記録のみ。

〔調査結果〕三国山にはかなり生息していることがわかった。

●イカリヒメジンガサハムシ *Cassida* (Taiwania) *sigillata* (Gorham)
 【絶滅種A】

〔生息環境〕ヒキオコシの葉裏についているという。

〔過去の分布〕箱根の木賀が原産地で、1885年記載された。

〔調査結果〕かなり注意しているが、県内で採集された標本を見ていない。

ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae

ヒゲナガゾウムシは日本から170種ほどの記録があり、神奈川県では46種報告されている。食性は変化に富み、キノコやカビにつくものから、種子やカイガラムシなどを食うものもある。一般的には朽木や枯れ枝に多く見られる。ここでは2種の希少種をあげるにとどめる。

▲ツツケナガヒゲナガゾウムシ *Habrissus cylindricus* (Sharp)
 【希少種】

〔生息環境〕朽木などにいるものと思われる。

〔過去の分布〕丹沢大山が原産地だがその後の正式な記録はない。

〔調査結果〕1994年、丹沢の堂平で再発見された。

▲シロマダラネプトヒゲナガゾウムシ *Habrissus pardalis* (Sharp)
 【希少種】

〔生息環境〕朽木などに生息しているものと思われる。

〔過去の分布〕西丹沢三国山 (平野, 1993)。

〔調査結果〕その後、堂平でも得られたが珍しいものである。

ゾウムシ科 Family Curculionidae

ゾウムシは日本ではおよそ600種の記録がある大群で、さらに調査が進めば1000種を超えるものと思われる。神奈川県では298種記録されている。いずれも食植性で、多様に富み、生木から朽木、葉、茎、根などを食べる。ま

た落葉や地中に生活するものもある。海岸から高山まで広く分布している。ここでは草原、湿地に生息する2種と猿島の上に生息する1種を絶滅危惧種としてあげるが、調査がいきとどけば湿地に生息する種など何種かが候補にあがるものと思われる。希少種としたい種はいくつかあるが、とりあえず4種をあげておく。

○シラケコバンゾウムシ *Gymnaetron villosipenne* Roelofs
 【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕草原性のものと思われる。食草など不明。

〔過去の分布〕日本ではLewisの採集品以後、箱根仙石原で発見 (平野, 1988) されたものだけである。

〔調査結果〕その後、何回となく仙石原で調査したにもかかわらず、発見できない。

○ヨツボシハナコブヒメゾウムシ *Acythopeus insularis* Morimoto et Miyakawa
 【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕生態はよく分からない。本州では猿島の上に生息。

〔過去の分布〕1984年に採集された横須賀市猿島 (平野, 1994) の記録のみ。

〔調査結果〕猿島は渡島できなくなったので、調査不可能。絶滅の危険性が高い。

○ババスケヒメゾウムシ *Limnobaris babai* Chujo et Morimoto
 【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕湿地に生息する種でスゲ類が食草と思われる。

〔過去の分布〕箱根の仙石原 (高桑・高橋, 1986) の記録だけである。

〔調査結果〕1 ex., 箱根仙石原, 2.V.1992, 平野幸彦。スゲの1種をスイープして得た。かろうじて生息しているようだが、スゲのある湿地がなくなりつつあるので、絶滅を危惧している。

▲ナガクモゾウムシ *Euryommatus ellipticus* Morimoto et Miyakawa
 【希少種】

〔生息環境〕枯木や朽木などに生息する。

〔過去の分布〕相模湖町石老山 (平野, 1994) の記録のみ。本州では唯一の記録。

〔調査結果〕上記のものは1990年に採集されたが、その後は採れていない。

▲ウスモンアナキゾウムシ *Lepyrus nebulosus* Motschulsky
 【希少種】

〔生息環境〕枯木などに集まる。

〔過去の分布〕小田原 (平野, 1981) の記録のみ。

〔調査結果〕その後、まったく採集されたという情報が無い。

▲コホシメカクシゾウムシ *Mecistocerus parcimaculatus* Morimoto et Miyakawa
 【希少種】

〔生息環境〕朽木などに集まるものと思われる。本州ではきわめて少ない記録である。

〔過去の分布〕1968年採集された箱根大涌谷 (1994) の記録だけである。

〔調査結果〕それ以後記録はない。

▲ゲシクチカクシゾウムシ *Microcryptorhynchus niponicus* Morimoto et Miyakawa
 【希少種】

〔生息環境〕朽木や枯れ枝にいる。伊豆諸島はじめ南の方

に広く分布する種である。

[過去の分布] 三浦市小網代(平野, 1993)の記録のみ。
[調査結果] 最近発見された種で, 小網代で得られたが珍しいものである。希少種とするが, 環境の変化に弱いのではないかと考えている。

(以上, 平野幸彦)

- 阿部光典, 1990. 神奈川県産シャープゲンゴロウモドキの標本を発見す. *Elytra*, 18 (2): 280.
- 秋山黄洋, 1980. 神奈川県新記録のタマムシ4種. *神奈川県自然誌資料*, 1: 85-87.
- 青柳鷹之助, 1939. 鎌倉・逗子・葉山で採れる珍甲虫. *昆虫界*, 7 (65): 420-421.
- Bates, H. W., 1883, Supplement to the geodephagous Coleoptera of Japan, chiefly from the collection of Mr, George Lewis, made during his second visit, from February, 1880, to September, 1881. *Trans. ent. Soc. London*, 1883: 268.
- Chujo, M. and S. Kimoto, 1960, Description of three new species of chrysomelid-beetles from Japan, with some notes on the Japanese species. *Niponius*, 1 (4): 1-10.
- 槐 真史, 1993. 清川村のゲンゴロウの記録. *湘南昆虫*, (5): 30.
- 榎戸良裕, 1983. 神奈川県城ヶ島でムネマダラトラカミキリを採集. *月刊むし*, (145): 33.
- 榎戸良裕, 1984. 神奈川県ハンミョウ類の追加. *月刊むし*, (158): 31.
- 榎戸良裕, 1984. 鶴見川のトウキョウヒメハンミョウ. *神奈川県虫報*, (70): 14.
- 榎戸良裕, 1985. 神奈川県ハンミョウ類-基礎資料-. *神奈川県虫報*, (77): 3-10.
- 榎戸良裕, 1985. 県産ハンミョウ類-その後の記録. *神奈川県虫報*, (78): 33-34.
- 榎戸良裕, 1989. 神奈川県ハンミョウ類 (第2報). *神奈川県虫報*, (91): 8-16.
- 榎戸良裕, 1989. ナカグロキバネクビナガゴミムシの追加記録. *神奈川県虫報*, (91): 36-37.
- 榎戸良裕, 1992. ハンミョウ類の分布地追加報告 (横浜市内). *神奈川県虫報*, (99): 32-33.
- 藤沢一中昆虫部, 1952. 藤沢産甲虫目録. *Insects*, pp. 27-37. 藤沢市.
- 藤田 宏, 1980. 神奈川県横須賀市猿島のタマムシ数種. *月刊むし*, (116): 38-39.
- Habu, A., 1955. Notes and description of the *Calatus* species (Coleopt., Carabidae) from Japan. *Bull. Nat. Inst. Agr. Sci.*, ser. c, (5): 157-224.
- Habu, A., 1958. Additional note on the study of the *Oodini* from Japan (Coleopt., Carabidae). *Kontyu*, 26 (4): 191-194.
- Habu, A., 1966. *Kontyu*, Tokyo, 34 (2): 185-188.
- Habu, A., 1967. *Fauna Japonica. Carabidae: Truncatipennes Group*. 338 pp., 27 pls.
- Biogeographical society of Japan.
- Habu, A., 1973. *Fauna Japonica. Carabidae: Harpalini*, 430 pp., 24pls. 啓学出版.
- 芳賀 馨, 1984. ホズミカッコウムシの関東での採集記録. *昆虫と自然*, 19 (12): 39.
- 原 聖樹, 1973. 相模湖町でアオスジカミキリを記録す. *神奈川県虫報*, (39): 37.
- 橋本慎太郎, 1986. 三浦半島のハネナシセスジキマワリとセス

- ジナガキマワリについて. *神奈川県虫報*, (80): 25-26.
- 林長閑・平野幸彦, 1987. 大磯高麗山自然林の甲虫類. *神奈川県指定天然記念物動物調査報告書*, 129-153.
- 平井信明, 1983. 茅ヶ崎市での甲虫, 最近の一例. *神奈川県虫報*, (68): 39.
- 平野幸彦, 1957. 八月上旬仙石原付近の甲虫. *神奈川県虫報*, (12): 4-7.
- 平野幸彦, 1957. 西湘産シデムシ科について. *神奈川県虫報*, (12): 15-17.
- 平野幸彦, 1958. 小田原市産カミキリムシ科目録. *神奈川県虫報*, (14): 1-6, 20.
- 平野幸彦, 1965. クロチビタマムシ小田原に産す. *神奈川県虫報*, (17): 17.
- 平野幸彦, 1966. 西湘地方産ハムシ類について II サルハムシ亜科について. *神奈川県虫報*, (18): 1-6.
- 平野幸彦, 1966. 西湘地方産ハムシ類について IV [クビナガハムシ亜科, ナガツツハムシ亜科, ツツハムシ亜科について]. *神奈川県虫報*, (20): 2-8.
- 平野幸彦, 1968. アオバヒメコメツキモドキ箱根に産す. *神奈川県虫報*, (27): 39.
- 平野幸彦, 1969. 小田原・箱根地方産歩行虫類目録 (第1報). *神奈川県虫報*, (29): 17-30.
- 平野幸彦, 1970. 小田原箱根地方産ツチハンミョウ科について. *神奈川県虫報*, (39): 22-25.
- 平野幸彦, 1972. 小田原箱根地方産エンマムシ主科について. *神奈川県虫報*, (39): 22-25.
- 平野幸彦, 1978. 小田原箱根地方産エンマムシ主科について II. *神奈川県虫報*, (54): 14-17.
- 平野幸彦, 1980. 神奈川県オオキノコムシ科目録. 小田原市郷土文化館研究報告, (16). 小田原市郷土文化館.
- 平野幸彦, 1981. 神奈川県甲虫. *神奈川県昆虫調査報告書*, 233-372.
- 平野幸彦, 1984. *Leptophloeus femoralis* Sasaji (ヒラタムシ科)の記録. *月刊むし*, (106): 36.
- 平野幸彦, 1984. 続・神奈川県甲虫. *神奈川県虫報*, (70): 27-48.
- 平野幸彦, 1984. 図鑑に出ていない神奈川県甲虫. *神奈川県虫報*, (71): 17-20.
- 平野幸彦, 1985. 続・神奈川県甲虫 (III). *神奈川県虫報*, (77): 11-23.
- 平野幸彦, 1986. 続・神奈川県甲虫 (IV). *神奈川県虫報*, (80): 44-53.
- 平野幸彦, 1986. 続・神奈川県甲虫 (V). *神奈川県虫報*, (81): 1-7.
- 平野幸彦, 1987. ニセハマバエンマムシを丹沢の河原で採集. *月刊むし*, (200): 42.
- 平野幸彦, 1987. 大雄山杉林の甲虫類. *神奈川県指定天然記念物地域動物調査報告書*, 41-61.
- 平野幸彦, 1987. 丹沢札掛モミ林の甲虫類. *神奈川県指定天然記念物地域動物調査報告書*, 283-301.
- 平野幸彦, 1987. 続・神奈川県甲虫 (VI). *神奈川県虫報*, (84): 14-24.
- 平野幸彦, 1988. *Onthophilus aonoi* Ohara et Nakane (エンマムシ科) 神奈川県に産す. *月刊むし*, (206): 41.
- 平野幸彦, 1988. シラケコバンソウムシを箱根仙石原で採集. *月刊むし*, (209): 40.
- 平野幸彦, 1988. イソジョウカイモドキ真鶴に産す. *神奈川県虫報*, (87): 14.
- 平野幸彦, 1988. 続・神奈川県甲虫 (VII). *神奈川県虫報*, (87): 5-14.

- 平野幸彦, 1988. ヒゲナガホソチビヒラタムシ神奈川県に産す。月刊むし, (213): 36.
- 平野幸彦, 1989. 神奈川県で採集されたキイロアシボソテントウダマシ。月刊むし, (222): 36.
- 平野幸彦, 1989. ニセオオナガシバンムシの神奈川県の記録。月刊むし, (225): 39.
- 平野幸彦, 1990. 続・神奈川の甲虫 (VIII). 神奈川虫報, (93): 1-10.
- 平野幸彦, 1992. 続・神奈川の甲虫 (X). 神奈川虫報, (99): 1-10.
- 平野幸彦, 1993. 続・神奈川の甲虫 XI (神奈川県昆虫調査報告書補遺). 神奈川虫報, (101) 13-25.
- 平野幸彦, 1993. 続・神奈川の甲虫 (XIII). 神奈川虫報, (105): 7-15.
- 平野幸彦, 1989. ヒラタカクヒメエンマムシをブナより得る。月刊むし, (276): 39.
- 平野幸彦, 1994. 続・神奈川の甲虫 (XIV). 神奈川虫報, (108): 23-33.
- 平野幸彦・高橋和弘・秋山秀雄・高桑正敏, 1991. 大和市の甲虫。大和市の昆虫, 139-201.
- 平野幸彦・岸一弘, 1994. 茅ヶ崎市金山遺跡 (第1次調査) から出土した昆虫遺体。文化資料館調査研究報告, (2): 9-15. 茅ヶ崎市文化資料館.
- 平山洋人・高桑正敏, 1981. 神奈川県のオサムシ。神奈川県昆虫調査報告書, 373-379.
- 井本憲邦, 1968. コガネムシ2種の採集記録。甲虫ニュース, (1): 3.
- 猪又敏夫, 1968. 1968年採集の県下のカミキリ。神奈川虫報, (28): 13-16.
- 石田正明, 1976. セアカオサムシ箱根に産す。神奈川虫報, (49): 10.
- 石田正明, 1985. ユヤマセダカコクヌスト相模大山で採る。神奈川虫報, (76): 20.
- 石渡裕之, 1982. 城ヶ島でオオヨツボシゴミムシを採集。かまくらちょう, (8): 20.
- 石渡裕之, 1986. クリストフコトラカミキリの横浜市での採集例。かまくらちょう, (13): 18.
- 石渡裕之, 岡部洋一, 橋本慎太郎, 中山和昭, 島森浩一, 大場信義, 1989. 横須賀市野比の昆虫類。横須賀市文化財調査報告書, (19): 26-32.
- 岩瀬和夫, 1937. ノコギリクハガタに於ける大腮の一異常型に就いて (横浜付近産鋏形虫科目録)。昆虫界, 5 (44): 697-700.
- 岩瀬和夫・大坪広・久保浩一・志村宝・渡弘, 1991. 円海山域で採集した神奈川県未記録の甲虫類 (その3)。神奈川虫報, (95): 12-14.
- 岩瀬和夫・大坪広・久保浩一・志村宝・渡弘, 1994. 円海山域で採集した神奈川県未記録の甲虫類 (その6)。神奈川虫報, (107): 23-24.
- 和泉敦夫, 1984. 神奈川県産マメゾウムシ科の追加記録。神奈川虫報, (72): 14.
- 和泉敦夫, 1985. ヒラタネクイハムシの南限の記録。月刊むし, (171): 37.
- 和泉敦夫, 1991. 栗の花より採集したゴミムシ類。神奈川虫報, (95): 33-34.
- 和泉敦夫, 1994. 神奈川県におけるゴミムシ7種の新産地。神奈川虫報, (107): 31-32.
- 嘉納秀明, 1952. 藤沢市付近の甲虫3件。新昆虫, 5 (11): 38.
- 嘉納秀明, 1992. ヤナギハムシの生活。神奈川虫報, (100): 137-140.
- 笠原須磨生, 1977. ウミミズギワゴミムシの記録。甲虫ニュース, (38): 7.
- 笠原須磨生, 1982. 神奈川県産ゴミムシ類の追加記録。神奈川虫報, (66): 19.
- 笠原須磨生, 1983. 堂平の歩行虫 丹沢の歩行虫資料3。神奈川虫報, (69): 42-44.
- 笠原須磨生, 1984. キモンナガミズギワゴミムシを丹沢で採集。神奈川虫報, (70): 4.
- Kasahara, S., 1986. A new callistinae carabid (Coleopt., Carabidae) from central Japan. Pap. Ent. pres. Kurosawa, pp. 147-152.
- Kasahara, S., 1989. A new species of the genus *Stenolophus* (Coleopt., Carabidae) from Central Japan. Elytra, 17: 152-157.
- 笠原須磨生, 1993. 丹沢山地西端部のナガゴミムシ類ほか (丹沢の歩行虫資料5)。神奈川虫報, (103): 38-39.
- 菊田 毅, 1984. 神奈川県茅ヶ崎市の甲虫いくつか。コレオプテリスト, 1 (2): 15-17.
- 菊田 毅, 1984. 神奈川県の若干の甲虫類について。コレオプテリスト, 1 (3): 10-12.
- 菊田 毅, 1986. 神奈川県及び茅ヶ崎市の甲虫類の記録の訂正。神奈川虫報, (80): 92.
- Kimoto, S., 1964. The Chrysomelidae of Japan and Ryukyu Islands. VI Subfamily Galerucinae I. Jour. Fac. Agr., Kyushu Univ., 13 (2): 287-303.
- 近畿昆虫同好会, 1955. 原色昆虫図鑑, 上: 1-196.
- 岸 一弘, 1993. 神奈川県で記録された注目すべき甲虫類の記録。神奈川虫報, (101): 26.
- 桐生 亮, 1953. 早春の三浦郡葉山付近の海浜の甲虫。新昆虫, 6 (6): 46.
- 木附嘉理, 1991. 神奈川県下におけるオオクワガタの記録。月刊むし, (244): 33.
- 小島圭三, 1937. 横浜産天牛目録 (第1報)。昆虫, 11: 401-403.
- 近藤教一, 1979. 神奈川県津久井郡相模湖でアサカミキリを採集。月刊むし, (96): 30-31.
- 近藤茂昭, 1983. ヤマトオサムシダマシ (神奈川県) とホソクビキマワリ (高知県) の記録。月刊むし, (154): 19-20.
- 久保浩一, 1993. 40haの昆虫調査 - 1年間の調査が語るもの -。108 pp. +12 pls. 円海山自然調査会.
- 久保田雅久, 1981. ムネマダラトラカミキリの三浦半島の記録。月刊むし, (123): 33.
- 倉形和男, 1993. 川崎市麻生区産甲虫類目録。神奈川虫報, (103): 1-34.
- 草間慶一, 1954. 三浦半島中北部のカミキリについて。Insects Magazine, (31): 5-14.
- 草間慶一, 1955. 三浦半島中北部のカミキリについて (続)。Insects Magazine, (32): 12-24.
- 草間慶一・高桑正敏, 1984. フトカミキリ亜科 (一部)。日本産カミキリ大図鑑, pp. 352-544. 講談社, 東京.
- 丸山 清, 1961. 川崎市北部の甲虫。はんみょう, (3): 31-69. 多摩高校生物部.
- 丸山 清, 1972. 丹沢核心部西側三月の甲虫。神奈川虫報, (39): 26-30.
- 松本俊信・鈴木互, 1981. 神奈川県におけるホソハンミョウの記録。月刊むし, (130): 33.
- 松山公彦, 1950. 箱根の甲虫。箱根の自然, pp. 27-29. 小田原高等学校生物部.
- 三宅義一, 1984. 多摩丘陵のクロツヤヒゲナガコバネカミキリ。月刊むし, (155): 30.
- 森 可基, 1948. 鎌倉産天牛目録。The Biological World, 2 (1): 1-7.
- 森田誠司・田尾美野留, 1985. 神奈川県三浦半島のゴミムシ2

- 種. 月刊むし, (172): 43.
- 守屋博文, 1991. 相模原の昆虫—相模原市産甲虫目録第2報—. 87 pp. 相模原市教育委員会.
- 守屋博文, 1992. 鞘翅目. 相模原の底生動物, pp. 49-53. 相模原市教育委員会.
- 守屋博文, 1994. 相模川水系の水生昆虫 I, pp. 2-94. 相模原市教育委員会.
- 長尾 悟, 1970. 神奈川県川崎市向ヶ岡でダイミョウゴミムシを採集. 昆虫と自然, 5 (3): 9.
- 長尾 悟, 1971. ムネアカセンチコガネ 1 1 月の記録. 昆虫と自然, 6 (1): 29.
- 長尾 悟, 1972. 相模原のナガスネエンマコガネ. 月刊むし, (10): 38.
- 中村芳樹, 1981. 神奈川県におけるアカガネオサムシの新産地. 月刊むし, (130): 16.
- 中山和昭, 1985. 神奈川県初記録のカミキリ 3 種. 月刊むし, (167): 33.
- 中山和昭, 1986. 横須賀市武山でムネマダラトラカミキリを採集. かまくらちょう, (12): 21-22.
- 中山和昭, 1988. 横須賀市池上のアカアシオアオカミキリの記録. かまくらちょう, (17): 17.
- Naomi, S., 1982. Revision of the subtribe Xanthopygina (Coleoptera, Staphylinidae) of Japan. I. Kontyu, Tokyo, 50 (1): 125-133.
- Nakane, T. & Straneo, 1979. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXX. Rep. Fac. Sci., Kagoshima Univ. (Earth Sci. & Biol.), (12): 56-58.
- 西川協一, 1960. 関東地方におけるオサムシ分布調査の現状. Insect Magazine, (49): 1-20.
- 西川協一, 1971. 関東地方におけるオサムシ分布調査の現状 (続報). Insect Magazine, (76): 137-148.
- 西川協一・奥村尚, 1970. Damaster (s. str.) マイマイカブリについて. Insect Magazine, (76): 87-96.
- 西川正明, 1979. 丹沢の糞虫覚え書 1. 神奈川虫報, (58): 19-20.
- 西川正明, 1984. 神奈川県から未記録の甲虫 (1). 神奈川虫報, (71): 35.
- 西川正明, 1988. クロヤマアリの巣から採集された日本新記録のヒゲブトチビシデムシ. 甲虫ニュース, (83/84): 9-10.
- 西川正明, 1992. ヘリナガエンマムシを丹沢堂平で採集. 神奈川虫報, (100): 158.
- 西川正明・丸山清, 1993. 座間市の甲虫目. 座間市の動物, 219-308.
- 西村正賢, 1986. 丹沢堂平においてルリヒラタムシ採集. 神奈川虫報, (78): 34.
- 西村正賢, 1988. 相模原市産昆虫類目録. 相模原の動物, pp. 53-98. 相模原市教育委員会.
- 野村 鎮, 1961. アリモドキ科覚え書 [II]. 自然の観察, (15): 2-4.
- 小田義広, 1976. 箱根仙石原でヒメヒロウドカミキリを採集. Elytra, 4: 37.
- 大場信義, 1978. アヤムナビロタムシの新産地 (北限) と生息状況について. 甲虫ニュース, (40): 4.
- 大場信義, 1981. 神奈川県 of ハンミョウ類. 神奈川県昆虫調査報告書, 381-382.
- 大場信義, 1981. 神奈川県の水棲甲虫類 (除ガムシ類). 神奈川県昆虫調査報告書, pp. 383-384.
- 大場信義, 1981. 横須賀市博物館付属天神島臨海自然教育園の昆虫相. 横須賀市博物館館報, (27): 1-7.
- 大場信義・土屋裕志・坂本繁夫・石渡裕之・榎戸良裕・鈴木裕, 1981. 三浦半島のコガネムシ類. 横須賀市博物館研究報告 (自然科学), (28): 27-56.
- Ohbayashi, K., 1960. Studies of Longicornia (5). Ent. Rev. Japan, 11: 7-8.
- Ohara, M., 1989. On the species of the genus Margarinotus from Japan (Coleoptera, Histeridae). Insecta Matsumurana (N. S.), 41: 1-50.
- 大坪 広, 1992. 道志山 (石老山近く) でトゲフタオタムシを採集. 神奈川虫報, (100): 159.
- 岡野磨瑳郎, 1941. 神奈川県産甲虫誌 (1). 虫の世界, 4 (7/8): 31-34.
- 相模原市教育委員会, 1991. 相模原の昆虫, 1-86.
- 斉藤 実, 1967. 鎌倉の動物. かながわの自然, (3): 8-9.
- 坂本繁夫, 1981. アカマダラコガネを採集. かまくらちょう, (3): 8.
- 坂本繁夫, 1981. マメハンミョウを採集. かまくらちょう, (3): 8.
- 坂本繁夫, 1981. 下浦海岸のヒョウタンゴミムシ. かまくらちょう, (5): 1-5.
- 坂本繁夫, 1983. ニセトックリゴミムシ神奈川県の記録. 月刊むし, (144): 33.
- 坂本繁夫, 1983. ヒメホソクビゴミムシの採集例. 月刊むし, (147): 34.
- 坂本繁夫・土屋裕志, 1983. 三浦半島の歩行虫 (予報). 神奈川自然誌資料, (4): 7-17.
- 佐藤勝信, 1966. 珍しいコガネムシ 3 種. 神奈川虫報, (19): 26.
- 佐藤勝信, 1970. 箱根地方産動植物目録, カミキリムシ類. 箱根の自然, pp. 255-260. 箱根樹木園.
- 沢田和宏, 1985. 神奈川県未記録の甲虫 8 種の記録. 甲虫ニュース, (69): 6.
- 沢田和宏, 1985. 神奈川県三浦半島のケシマダコガネ類 3 種の記録. 月刊むし, (178): 27.
- 沢田和宏, 1985. 三浦半島秋谷海岸でヤマトケシマダコガネを採集. 神奈川虫報, (77): 2.
- 沢田和宏, 1986. ヒメハマベエンマムシの分布記録. 月刊むし, (187): 41.
- 沢田和宏, 1986. ツヤハマベエンマムシを神奈川県大磯で採集. 月刊むし, (188): 38.
- 沢田和宏, 1987. 河川敷で採集したエンマムシ 2 種の記録. 月刊むし, (199): 43.
- 沢田和宏, 1989. ムネミゾツブエンマムシを東京都と神奈川県で採集. 月刊むし, (223): 43.
- 沢田和宏, 1991. シナスナゴミムシダマシの記録. 月刊むし, (250): 7.
- Sawada, K., 1992. New genus and species of intertidal Brachyglutini (Coleoptera: Pselaphidae) from Japan. Raffles bull. Zool., 40 (1): 55-60.
- Sharp, D., 1883. Revision of the Pselaphidae of Japan. Trans. ent. Soc. London, 1883: 291-331.
- 柴田充郎, 1982. 神奈川県 of オサムシ分布資料 (1). 月刊むし, (137): 31-32.
- 柴田泰利, 1955. 横須賀市内におけるアカマダラコガネの採集記録. 新昆虫, 8 (3): 46.
- 柴田泰利, 1986. 神奈川県 of ハネカクシ. 神奈川虫報, (80): 1-9.
- 信太利智, 1984. テンリュウメダカチビカワゴミムシの一記録. 昆虫と自然, 19 (14): 11.
- 下村 徹・鈴木互, 1981. 神奈川県におけるムネアカセンチコガネの記録. 月刊むし, (130): 15.
- 塩崎啓正, 1981. 神奈川県横須賀市観音崎でアヤムナビロタムシを採集. 月刊むし, (128): 36.
- 鈴木邦雄, 1966. 溝の口付近のハムシ類. Insects Magazine,

- (68): 35-59.
- 鈴木 裕, 1966. 三浦半島のシデムシについて. 神奈川虫報, (20): 9.
- 鈴木 裕, 1968. 三浦半島産カミキリムシ雑記. Mushi Mezuru, (16): 1-11.
- 鈴木 裕, 1982. オニヒラタシデムシを三崎で採集. 神奈川虫報, (65): 14.
- 高橋勝則, 1967. アカマダラコガネ秦野震生湖で採集. 神奈川虫報, (24): 36.
- 高橋勝則, 1971. 平塚, 花水川岸のアカガネオサムシについて. 神奈川虫報, (37): 34-35.
- 高橋好一, 1981. 木古庭でマメハンミョウを採集. かまくらちょう, (6): 8.
- 高橋和弘, 1987. 神奈川県立自然保護センターの野外施設に産する甲虫類について. 神奈川県立自然保護センター調査研究報告, (4): 31-62.
- 高橋和弘, 1992. 神奈川県ジョウカイボン科. 神奈川虫報, (100): 71-124.
- 高橋和弘, 1992. 神奈川県におけるオカモトツヤアナハネムシの記録. 甲虫ニュース, (100): 17.
- 高桑正敏, 1978. ヨコヤマヒメカミキリを横浜で採集. 月刊むし, (92): 30-31.
- 高桑正敏, 1981. 神奈川県のコメツキムシ科甲虫. 神奈川県昆虫調査報告書, 391-397.
- 高桑正敏, 1981. 神奈川県産タマムシ科目録. 神奈川県昆虫調査報告書, 399-403.
- 高桑正敏, 1987. 神奈川県産ゲンゴロウ資料 (1). 神奈川自然誌資料, (8): 85-88.
- 高桑正敏, 1988. 仙石原湿原の昆虫相. 仙石原湿原実験区植生復元事業実験調査報告, pp. 49-55. 箱根町.
- 高桑正敏, 1990. 神奈川県産の注目すべき甲虫若干. 神奈川自然誌資料, (11): 121-124.
- 高桑正敏, 1991. 東丹沢とくに宮ヶ瀬周辺の昆虫相. 自然教育活動のための宮ヶ瀬自然環境基礎調査報告書, pp. 92-100. (財) 日本自然保護協会, 東京.
- 高桑正敏, 1991. 昆虫類. 横浜市陸域の生物相・生態系調査報告書, pp. 231-269. 横浜市公害対策局.
- 高桑正敏・高橋和弘, 1986. パバスグヒメゾウムシの伊豆と神奈川県下の記録. 甲虫ニュース, (74): 7.
- Takizawa, H., 1982. Notes on Japanese Chrysomelidae (Coleoptera). Ent. Rev. Japan, 37 (1): 55-60.
- Tanaka, K., 1959. Notes on the Carabidae from Japan and Formosana (Coleopt.). Kontyu, 27 (3): 219-220.
- 田尾美野留, 1978. ナカグロキバネクビナガゴミムシの記録. 甲虫ニュース, (40): 11.
- 田尾美野留, 1984. 神奈川県産ミズギワゴミムシ数種の記録. 神奈川虫報, (71): 15-16.
- 田尾美野留, 1984. 横浜市北部の歩行虫目録 (1). 神奈川虫報, (73): 1-9.
- 田尾美野留, 1985. 横浜市北部の歩行虫目録 (2). 神奈川虫報, (74): 17-25.
- 田尾美野留, 1985. 神奈川県未記録のトックリゴミムシ. 神奈川虫報, (76): 21.
- 田尾美野留, 1986. 横浜市北部の歩行虫目録 第3報. 神奈川虫報, (78): 35-38.
- 田尾美野留, 1987. 丹沢, 寄沢 (やどりき) の歩行虫について. 神奈川虫報, (82): 23-26.
- 田尾美野留, 1987. 横浜市歩行虫資料, 1. 神奈川虫報, (82): 35-36.
- 田尾美野留, 1987. 横浜で採集したエンマムシ科の記録. 神奈川虫報, (84): 31-32.
- 田尾美野留, 1987. 三浦半島で採集した海岸性甲虫3種の記録. 神奈川虫報, (84): 34.
- 田尾美野留, 1988. 丹沢, 寄沢の歩行虫類, 2. 神奈川虫報, (86): 15-16.
- 田尾美野留, 1988. 横浜市歩行虫資料, 2. 神奈川虫報, (86): 18-19.
- 田尾美野留, 1989. 三浦半島の歩行虫類の記録. 神奈川虫報, (88): 10-12.
- 田尾美野留, 1991. 三浦半島沢の歩行虫類 (追加). 神奈川虫報, (95): 29.
- 田尾美野留, 1991. 津久井・県央地域の甲虫類の記録. 神奈川虫報, (96): 24-28.
- 田尾美野留・岸一弘, 1993. 茅ヶ崎市の甲虫. 神奈川虫報, (104): 13-68.
- 土屋裕志, 1981. 三浦半島のヒョウタンゴミムシ類. かまくらちょう, (5): 14-15.
- 土屋裕志, 1982. 神奈川県内のゴミムシについての記録. かまくらちょう, (8): 4-7.
- 土屋裕志, 1982. コアトワアオゴミムシを神奈川県三浦半島で採集. 月刊むし, (140): 30.
- 土屋裕志, 1983. チャバネクビアカツヤゴモクムシ神奈川県の記録. 月刊むし, (145): 33.
- 塚原一秀, 1975. キイロナガツツハムシ神奈川県に産す. 昆虫と自然, 10 (14): 6.
- 塚原一秀, 1979. 樹液に来ていたウバタマコメツキ. 神奈川虫報, (55): 23.
- 露木繁雄, 1955. 日吉産天牛科目録. ユーグレナ, (4): 18-42. 慶應義塾高等学校生物研究会.
- 露木繁雄, 1985. 神奈川県でのニセノコギリカミキリとヘリモンヒメハナカミキリの記録. 神奈川虫報, (76): 1.
- 露木繁雄, 1986. 神奈川県でのイボタサビカミキリの記録. かまくらちょう, (13): 19.
- 露木繁雄・新堀豊彦・窪田勝信・高桑正敏, 1981. 神奈川県産カミキリムシ科目録. 神奈川県昆虫調査報告書, pp. 419-454. 神奈川県教育委員会.
- 露木繁雄, 1993. 逗子市でヒゲブトナガクチキ採集される. かまくらちょう, (30): 42.
- 上田康之, 1984. 神奈川県フタモンウバタマコメツキの記録. 月刊むし, (157): 37.
- 上田康之, 1986. 湘南地方のカミキリムシ. 湘南地方昆虫調査報告書, (2): 94-103. 平塚市博物館.
- Ueno, S., 1978. The Thalassoduvallius (Coleopt., Trechinae) of the Izu area, central Japan. Mem. natn. Sci. Mus., Tokyo, (11): 123-130.
- Ueno, S., 1983. A new Kurasawatrachus (Coleopt., Trechinae) found in a tuff mine at Oiso, central Japan. Bull. natn. Sci. Mus., Tokyo, ser. A, 9 (2): 79-82.
- Ueno, S., 1988. Discovery of an anophthalmic Trechiama (Coleopt., Trechinae) on the Miura Peninsula, central Japan. Kontyu, Tokyo, 56: 45-51.
- 和田 薫, 1982. 神奈川県におけるムネアカセンチコガネの記録. 甲虫ニュース, (58): 7.
- 和田 薫, 1984. 県内におけるコガネムシ3種の興味ある記録. 神奈川虫報, (74): 42.
- 渡辺 崇, 1952. 藤沢市のアオゴミ属. 新昆虫, 6 (12): 28.
- 渡辺 崇, 1992. 藤沢市のオオサカアオゴミムシ. 神奈川虫報, (98): 36-37.
- Watanabe, Y. & Y. Shibata, 1960. Description of a new species of genus Syntomium in Japan (Col. Staphylinidae). J. Agri. Sci.

- Tokyo Nogyo Daigaku, 6 (2): 103-105.
- 山口 貢, 1958. ダイコクコガネ小田原で採集. 神奈川虫報, (14): 6.
- 山口 貢, 1958. オオセンチコガネの産地. 神奈川虫報, (14): 17.
- 山口 貢, 1960. 小田原市入生田でコハンミョウモドキ採集. Da Master of Garabus (臨時号外), 20.
- 山口 貢, 1966. その後の花水川のアカガネオサ. 神奈川虫報, (19): 26.
- 山口 貢・平野幸彦 1960. 小田原周辺のオサムシ. Da Master of Garabus (臨時号外): 2-12.
- 山口就平, 1970. 横浜・二俣川の燈火に來た甲虫. はばたき, (98): 34.
- 山上 明, 1978. 箱根のカミキリ (上); 同 (下). 月刊むし, (88); 11-16; (89): 11-20.
- 山上 明・青木小四郎, 1988. 神奈川県湘南地方のヤマトオサムシダマシ. 月刊むし, (214): 26.
- 山崎秀雄, 1955. サタカミキリモドキ神奈川県に産す. 新昆虫, 8 (7): 50.
- 養老猛司, 1958. 三浦半島の甲虫. 神奈川虫報, (13): 1-4.
- 養老猛司, 1958. 三浦半島のハムシ I. Insects Magazine, (41): 15-22.
- 吉田富士男, 1967. ヒゲコガネ綱島 (横浜市) で多数発生. 昆虫と自然, 2 (4): 36.